

NEC

P C 9 8 -

NX

PC98-**NX** SERIES

Mate NX

MA30E/M
(Windows NT 4.0 インストール)

活用ガイド

本体の構成各部

周辺機器を利用する

システム設定

添付アプリケーションの
概要と削除/再追加



主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。

- 『活用ガイド』

このパソコンの取り扱い方法、添付されているアプリケーションについて説明しています。

- ・キーボード、ハードディスク、PDドライブなどの取り扱い
- ・周辺機器の接続と利用方法
- ・システム設定について
- ・添付アプリケーションソフトの紹介
- ・お手入れの方法

- 『SCSI SELECT 操作説明書』

Ultra SCSI(Wide対応)の設定ユーティリティSCSI SELECTの操作方法について説明しています。

- 『困ったときのQ&A』

さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明したマニュアルです。再セットアップの方法も説明しています。

- ・トラブル解決Q&A
- ・再セットアップの方法



はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windows NTの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作(ボタンクリックやドラッグなど)が一通りできることを前提に書かれています。

もし、あなたがコンピュータに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NX SERIES Mate NX

MA30E/M

(Windows NT 4.0 インストール)

インストールアプリケーション、ディスプレイ、メモリ容量については、お客様が選べるようになっているため、各モデルの仕様に合わせてお読みください。尚、選べる項目は、今後増える可能性があります。

型番と機能仕様について詳しくは、「PART5 付録」をご覧ください。

1997 年 11 月 初版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意のほか、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



用

語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

本機

次の機種を指します。

PC98-NX SERIES Mate NX

MA30E/M

(Windows NT 4.0インストール)

* 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の読み方については、「PART5 付録」をご覧ください。

一太郎モデル	一太郎8、三四郎8、FullBand がインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
一太郎Office8	一太郎Office8(一太郎8 Office Edition、三四郎8、ATOK11 Ver1.1 FullBand)、一太郎8/ビューバックプラス(添付)
Wordモデル	Word、Excel、Outlookがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Word & Excel	Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™97 for Windows® (Service Release対応版)、Microsoft® /Shogakukan Bookshelf® Basic(添付)
「スタート」→ 「設定」→ 「コントロールパネル」	「スタート」をクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
Windows NT Workstation 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
Windows NT Server 4.0	Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
一太郎8	一太郎8 Office Edition
Excel, Word, Outlook	Microsoft® Excel 97 & Word 97 & Outlook™97 for Windows® (Service Release対応版)
Internet Explorer4.0	Microsoft® Internet Explorer 4.0 for Windows® 95/Windows NT® 4.0日本語版

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第一種情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■ レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のPDTドライブが搭載されていません。

■ 高調波電流規制について

この装置は高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されていません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows NT 4.0および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご利用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Active Movie、NetMeeting、Outlook、およびWindows NTのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

PentiumはIntel Corporationの登録商標です。

一太郎、ATOKは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎Office8」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、これにかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

PERMEDIAは3D Labs社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 1997

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

このマニュアルの構成

このマニュアルは次のような内容で構成されています。

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 周辺機器を利用する

メモリやハードディスク、拡張ポートなどの内蔵機器を増設する方法や、周辺機器の概要について説明しています。

PART3 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップユーティリティの使い方を説明しています。

別売りの機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

PART4 添付アプリケーションの概要と削除 / 再追加

本機に添付されているアプリケーションソフトウェアの概要と削除及び再追加の方法について説明しています。

PART5 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載しております。

目 次

はじめに

このマニュアルの構成	vii
------------------	-----

PART1 本体の構成各部

各部の名称	2
電源	8
キーボード	12
マウス	18
ディスプレイ	20
ハードディスクドライブ	23
フロッピーディスクドライブ	26
PD ドライブ	29
サウンド機能	39
LAN	40
運用管理機能	42
ヘルプの表示方法	45

PART2 周辺機器を利用する

接続できる周辺機器	48
増設にともなう注意点	50
内蔵機器の増設	53
SCSI インタフェース機器の増設	79

PART3 システム設定

BIOS セットアップユーティリティについて	96
パスワードの設定	105

PART4 添付アプリケーションの概要と削除 / 再追加

この章の構成	112
知っておきたい便利な機能とツール	115
一太郎 Office8 (一太郎モデルのみ)	116

Word 97/Excel 97/Outlook 97(Word モデルのみ)	121
Internet Explorer 4.0	125
Outlook Express	132
Microsoft NetMeeting	134
Internet Explorer 3.02	136
VirusScan for Windows NT	139
NEC Soft MPEG1.0	143
DMITool	146
pcANYWHERE32 EX.....	150
Masty Data Backup	152
Timer-NX	155

PART5 付 録

Windows NT Server 4.0 を利用する	162
ESMPRO/ServerAgent Ver 3.1 を利用する	172
機能一覧	174
内蔵 LAN 機能仕様	176
割り込みレベル一覧	177
DMA チャンネルの割り当て	178
本機のお手入れ	179
索引	182

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

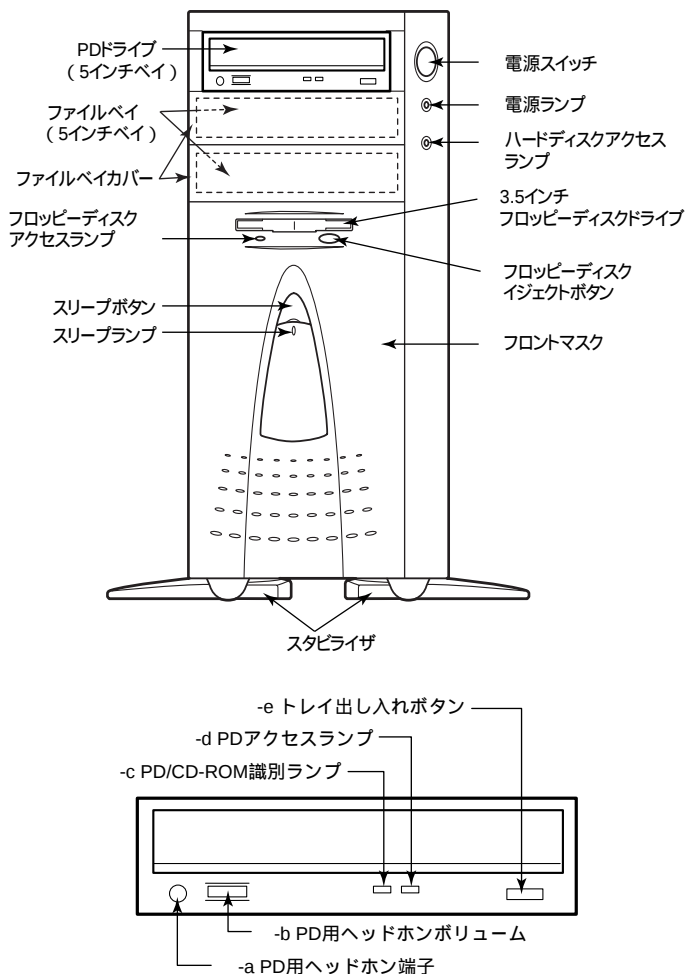
この章の内容

各部の名称	2
電源	8
キーボード	12
マウス	18
ディスプレイ	20
ハードディスクドライブ	23
フロッピーディスクドライブ	26
PD ドライブ	29
サウンド機能	39
LAN	40
運用管理機能	42
ヘルプの表示方法	45

各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面



電源スイッチ (①)

本体の電源を入れたり、切ったりするスイッチです。

- ✓ **チェック!!** 電源スイッチを入れたり、切ったりする操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。
→ 「電源」(P.8)

電源ランプ (㊦)

電源の状態を表示するランプです。電源が入ると点灯します。

ハードディスクアクセスランプ (㊦)

ハードディスクが動作しているときに点灯します。→ 「ハードディスクドライブ」(P.23)

- ✓ **チェック!!** 点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

3.5 インチフロッピーディスクドライブ

3.5 インチのフロッピー ディスクの読み書きをする装置です。

→ 「フロッピーディスクドライブ」(P.26)

フロッピーディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出すときに使います。

フロッピーディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブが動作しているときに点灯します。

- ✓ **チェック!!** 点灯中は電源スイッチを押したり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。フロッピーディスクの内容が壊れることがあります。

PD ドライブ

PD の読み書きをする装置です。CD-ROM や音楽用 CD を使うこともできます。→ 「PD ドライブ」(P.29)

-a PD 用ヘッドホン端子 (㊦)

ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。この端子で聞くことができるのは、音楽 CD の再生音だけです。

-b PD 用ヘッドホンボリューム

PD 用ヘッドホンの音量を調節します。

-c PD/CD-ROM 識別ランプ

PDドライブにPDがセットされているときは赤色に点灯し、CD-ROMがセットされているときは緑色に点灯します。

-d PD アクセスランプ

PDドライブが動作しているときに点灯します。

 **チェック!!** 点灯中は電源スイッチを押したり、PD や CD-ROM を取り出したりしないでください。PD ドライブの故障の原因となります。

-e トレイ出し入れボタン

トレイを出し入れするときに使います。

スリープボタン ()

本機での作業を一時中断する際に、電力消費の少ないサスペンド状態に切り替えます → 「電源」(P.8)

スリープランプ

サスペンド状態のときに点灯します。

ファイルベイ (5 インチベイ)

ファイルベイ用オプションを取り付けます。上から順番にスロット#1(PDドライブが標準実装)、#2、#3と番号が割り当てられています。→ 「内蔵機器の増設」(P.53)

ファイルベイカバー

ファイルベイにリムーバブルメディア用のオプションを取り付けるときは、このカバーを取り外します。

フロントマスク

本体前面のカバーです。ファイルベイ用オプションを取り付ける際に取り外します。

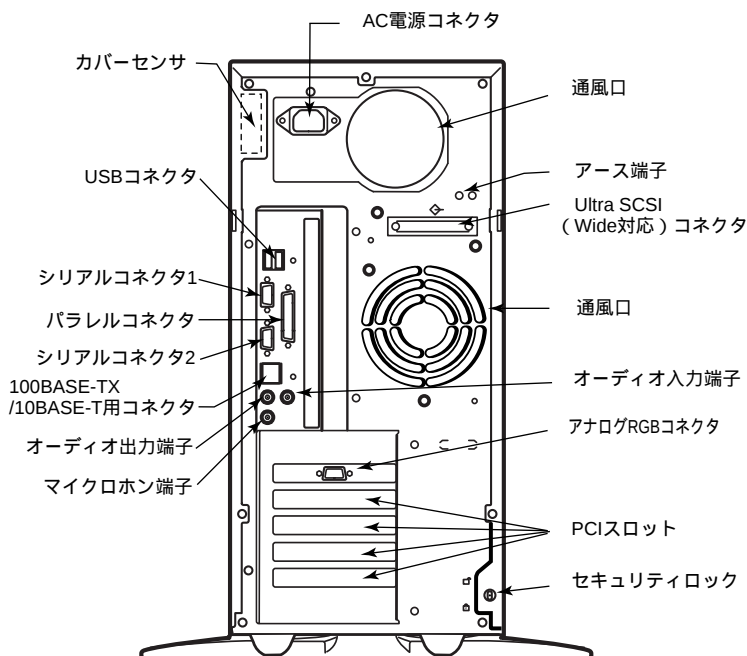
スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

本体背面

1

本体の構成各部



AC 電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。付属の電源ケーブルを接続します。

USB コネクタ(・㇔)

USB 機器を接続します。添付のキーボードを接続します。
Windows NT 4.0 では、添付のキーボードのみ利用できます。

チェック!! 電源の入った状態では、キーボードの抜き差しをしないでください。キー入力ができなくなります。

マイクロホン端子(ミニジャック)(㇔)

市販のマイクロホンを接続します。

オーディオ入力端子(ミニジャック)()

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

オーディオ出力端子(ミニジャック)()

市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

100BASE-TX/10BASE-T 用コネクタ()

100BASE-TX/10BASE-T のケーブルを接続します。→「LAN」(P.40)

アナログ RGB 出力コネクタ()

ディスプレイを接続します。→「ディスプレイ」(P.20)

パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

シリアルコネクタ 1,2(,)

モデムや ISDN TA などの機器を接続します。

セキュリティロック()

盗難防止用の錠を取り付けます。ルーフカバーがロックされるため、本体内部のハードディスクや RAM サブボード等の盗難を防止できます。

盗難防止用のロックはKensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムに対応しています。入手方法については、次の日本国内総代理店にお問い合わせください。

日本ボロイト株式会社

電子映像事業部

〒105 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号第30森ビル

TEL : 03-3438-8879 FAX : 03-5473-1630

アース端子()

アース線を接続します。

通風口

本体内部の熱を逃がすための通風口です。壁などでふさがないように注意してください。

PCI スロット

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ポートを挿入するスロットです。

拡張スロットは本体背面から見て上から順番に #1、#2、#3、#4 と番号が割りあてられています。

→ 「内蔵機器の増設」(P.53)

Ultra SCSI (Wide 対応) コネクタ

Ultra SCSI (Wide) 対応の周辺機器を接続します。

→ 「SCSI インタフェース機器の増設」(P.79)

カバーセンサ

本体のルーフカバーが取り外されたことを検知します。

→ 「運用管理機能」(P.42)

電源

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとシステムやデータやプログラム、本機が壊れてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の入れ方 / 切り方

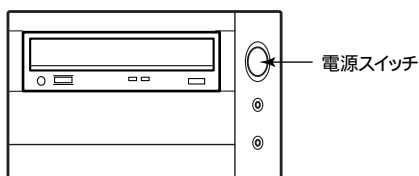
電源を入れる

- 1 フロッピーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる

一部の周辺機器では、本体より先に電源を入れないと正しく認識されないことがあります。

✓ **チェック!!** プリンタの電源は本体の電源より後に入れてください。

- 3 本体の電源スイッチを押す



✓ **チェック!!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。(512MB 実装時で30秒程度)

電源を切る

✓ **チェック!!** プリンタの電源は本体の電源より先に切ってください。

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」→「シャットダウン」をクリック



3 「シャットダウンする」をクリック



4 「OK」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れます。

5 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

誤って電源を切ってしまうことがないように、本機では電源スイッチを押してもすぐには電源が切れないようになっています。ソフトウェアのエラーなどで、Windows NT 4.0 の操作ができなくなってしまった場合は、まず【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Delete】を押し、「Windows NT のセキュリティ」を表示させて、ここからシャットダウンができるかどうかを試してください。この方法でシャットダウンできない場合は電源スイッチを約4秒押し続けることによって、強制的に電源を切ることができます。

なお、強制的に電源を切った場合は、本機の電源を入れ直して、Windows NT 4.0 を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。

サスペンド/レジューム

本機での作業を一時中断する場合は、サスペンド状態にすることによって電力の消費を節約することができます。

用語 サスペンド

CPU のクロックを下げ、内蔵 HDD、FDD、PD ドライブのモーターを止めて、ディスプレイを省電力の状態にすることです。本機の電力消費量を全体的に低く抑えることができます。

用語 レジューム

サスペンド状態から復帰することをいいます。Windows NT 4.0 を起動し直す必要がないので、素早く作業を再開できます。

サスペンド/レジュームするには、次のように操作します

- 1 スリープボタンを押す
- 2 サスペンド状態からもう一度スリープボタンを押すと、再開(レジューム)できる

-  **チェック!!** ・サスペンド状態から、元の状態に戻す(レジュームする)ときは、本機に負担がかかることを避けるため、スリープランプが点灯してから少なくとも5秒以上待ってから実行してください。
- ・スリープボタンを押しながら電源スイッチを押すと、サスペンド状態にはならず、電源が切れます。

- ・オートタイマーによって使われていない時間が計測され、設定した時間（初期値 16 分）が経過するとサスペンド状態になります。（自動スリープ制御）

参照 ▶ 「PART3 システム設定」の「パワーマネジメント」（P.103）

- ・サスペンド状態で電源スイッチを4秒以上押し続けしないでください。強制的に電源が切れ、データが破棄されます。

電源の自動操作

タイマー、ネットワークや回線からのアクセスによって、自動的に電源の操作を行うことができます。

タイマー

タイマー機能を使って、指定した時刻に電源の操作ができます。詳しくはPART4の「Timer-NX」（P.155）をご覧ください。

リモートパワーオン機能

「運用管理機能」（P.42）のリモートパワーオン機能をご覧ください。

参照 ▶ 「PART3 システム設定」の「レジューム」（LAN受信でパワーオン）（P.104）

FAX モデムによる電源の自動操作

シリアルコネクタ¹に外付けFAX モデムを取り付けることで、受信した場合に電源を入れることが可能です。

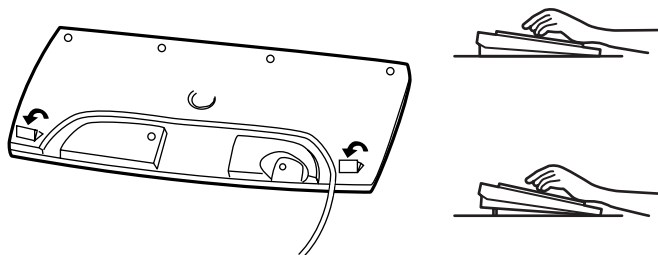
参照 ▶ 「PART3 システム設定」の「レジューム」（モデム受信でパワーオン）（P.104）

キーボード

ここでは、キーボード(109キーレイアウト)を使った文字入力や、キーボードの設定、調整の方法を説明します。

角度調整

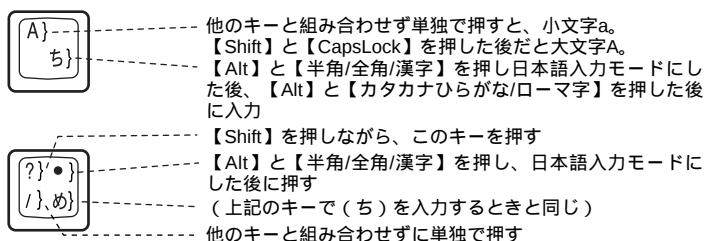
キーボードの裏側には角度調節用の脚があります。脚を立てるとキーボードの角度が変わります。設置状況に応じて使いやすい角度を選んでください。



キーの使い方

1つのキーにいくつかの文字や記号が印されているキーがあります。これらの文字や記号は、【Shift】や、カナモードと組み合わせて使うことで入力することができます。これらの操作方法は、使用する日本語入力プログラムによって異なります。

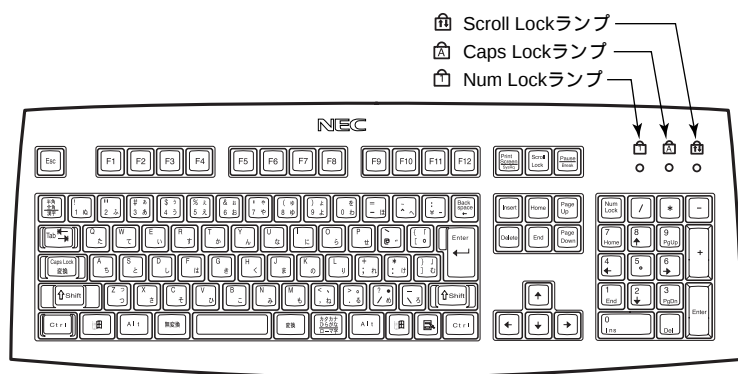
(例) 【Aち】と【?/・め】のキーに割り当てられた個々の文字や記号を打ち分けるには



以上の手順は、日本語入力モードの設定が全てデフォルト(ローマ字入力)の状態からの操作方法です。

便利なキーの名称と使い方

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、プログラムの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するプログラムによって異なります。



Esc : エスケープキー

F1 ~ F12 : ファンクションキー

Print Screen SysRq : プリントスクリーンキー

Scroll Lock : スクロールロックキー
一度押すとスクロールがロックし、ScrollLockランプが点灯します。

Pause Break : ポーズ / ブレークキー

半角 / 全角 / 漢字 : 半角 / 全角 / 漢字キー

Tab : タブキー

Caps Lock 英数 : キャプスロック / 英数キー

【Shift】を押しながら
【CapsLock / 英数】を押すと
キャプスロックし、CapsLock
ランプが点灯します。

⇧ Shift : シフトキー

Ctrl : コントロールキー

Windows : Windows キー

アプリケーション : アプリケーション キー

WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることが出来ます。

Alt : オルトキー

無変換 : 無変換キー

Space : スペースキー

変換 : 変換キー

カタカナ ひらがな ローマ字 : カタカナひらがな / ローマ字キー

Enter : エンターキー

Back space : バックスペースキー

Insert : インサートキー

 : デリートキー

 : ホームキー

 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

 : ナムロックキー

一度押すとニューメルックロックし、Num Lock ランプが点灯します。

キーをロックする

【CapsLock】【NumLock】【Scroll Lock】キーは、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。

それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます	英字が小文字で入力されます
【Num Lock】	テンキーから数字が入力されます	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

アプリケーションとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindowsキーはWindows NT 4.0で使えるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

アプリケーションキー ()

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

Windows キー ()

 だけを押すと、「スタート」メニューを表示します。

 を押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

 + R	「ファイル名を指定して実行」ウインドウを表示する
 + M	現在起動しているウインドウをすべてアイコン化する
↑Shift +  + M	 + M でアイコン化したウインドウを元に戻す
 + F1	Windows のヘルプを起動する
 + F	ファイルやフォルダを検索するウインドウを表示する
Ctrl +  + F	コンピュータを検索するウインドウを表示する
 + Tab →	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。一太郎モデルは ATOK11 と MS-IME97 が使用でき、工場出荷時は ATOK11 になっています。その他のモデルは、MS-IME97 のみ使用できません。

日本語入力のオン / オフ

日本語入力のオン / オフを切り替えるには2つの方法があります。

- ・キーボードの【Alt】を押したまま【半角 / 全角 / 漢字】を押す。
- ・タスクトレイの  をクリックし、表示されるメニューから選ぶ。

日本語変換の手順

日本語の変換にはさまざまな方法があります。ここでは、最も簡単な手順を示します。詳しくは MS-IME97 または ATOK11 のヘルプをご覧ください。

- MS-IME97 の場合

- 1** MS-IME97 ツールバーの一番左のアイコンをクリックして入力する文字の種類をクリック
- 2** 文字を入力する(この段階では未確定の仮の状態)

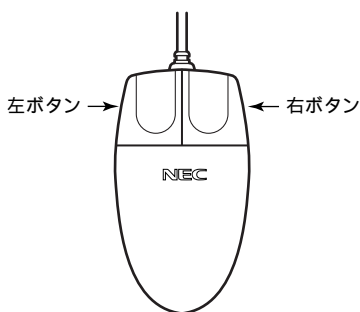
- 2 「キーボード」をダブルクリック
この操作で次のようなウィンドウが表示されます。



詳しくは Windows NT 4.0 のヘルプをご覧ください。

マウス

マウスについて



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して放す操作です。特に指定が無い場合は左ボタンを使います。

設定を変更する

マウスの応答速度やマウスポインタの形などを設定することができます。

1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「マウス」をダブルクリック

この操作で次のようなウィンドウが表示されます。



詳しくは Windows NT 4.0 のヘルプをご覧ください。

✓チェック!! マウスを使うときは、次のことに注意してください。注意を守らずに使用すると、マウスの故障の原因となります。

- ・ほこりや消しゴムのかすなどのある場所で使わない
- ・コードを引っかけない
- ・コードを強く曲げたり、引っ張ったりしない
- ・裏面のネジを外さない
- ・コネクタ内のピンに直接ふれない
- ・動きが悪くなってきたら、ボールとローラの汚れを掃除する
→ 「PART5 付録」の「本機のお手入れ」(P.179)

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。

ディスプレイセットモデルの解像度と表示色について

ディスプレイがセットになっているモデルは、以下の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	14インチ液晶 ディスプレイ (F14T1)	17インチ ディスプレイ (DV17B1)
640 × 480	256色、 65,536色、 1,677万色	37.5	75.0	○	○
		31.5	60.0	○	○
800 × 600	256色、 65,536色 1,677万色	46.9	75.0	○	○
		37.7	60.0	○	○
1,024 × 768	256色、 65,536色 1,677万色	60.0	75.0	○	○
		48.4	60.0	○	○
1,280 × 1,024	256色 65,536色 1,677万色	79.8	75.0	×	×
		63.8	60.0	×	○
1,600 × 1,200	256色	93.8	75.0	×	×
	65,536色	75.0	60.0	×	×

 **チェック!!** 14.1インチ液晶ディスプレイ(F14T1)は、1024 × 768の解像度で最も鮮明に表示できるよう設計されていますので、Windows NT 4.0のセットアップが完了しましたら、再度 Windows NT 4.0を立ち上げ、表示解像度を1024 × 768に設定してご利用ください。

表示解像度によっては、お客様による画面の位置、サイズなどの調整が必要です。

画面の位置、サイズなどの調整は、14.1インチ液晶ディスプレイのOSD(オン・スクリーン・ディスプレイ)機能で調整できます。

OSD機能には、表示位置やサイズを簡単に調整する自動調整メニューもあります。詳細は、14.1インチ液晶ディスプレイに添付の取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイの表示の設定を変更する

ディスプレイの解像度やデスクトップの配色などを設定することができます。

- 1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「画面」をダブルクリック

この操作で次のようなウィンドウが表示されます。



詳しくはWindows NT 4.0のヘルプをご覧ください。

別売のディスプレイを使う

本機には、別売のディスプレイなどを接続することもできます。

- ・ 解像度

640 × 480、800 × 600、1,024 × 768、1,280 × 1,024、1,600 × 1,200

- ・ 水平走査周波数 (31.5 ~ 93.8kHz)

使用できる周波数は、各解像度、表示色数によって異なります。

別売のディスプレイを使用する場合は、「ディスプレイセットモデルの解像度と表示色について」を参考に周波数を選んでください。



チェック!!

- ・ Windows NT 4.0を使用する場合は、640 × 480ドット以上の解像度に対応したディスプレイを使用してください。

別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて、解像度などの本体の設定を変更する必要があります。

- ・ 本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。
- ・ 別売のディスプレイを使用する場合は、解像度、走査周波数の条件を満たしていることを確認してください。ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。コンピュータの使用中にハードディスクで障害が発生することもあります。軽い障害であれば、エラーチェックプログラムを使って修復することができます。

ドライブ番号の割り当て

ドライブ番号

ハードディスクやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」といいます。本機のハードディスクは、工場出荷時には4つの領域に分割されており、それぞれの領域にドライブ番号が割り当てられています。

アイコン	ドライブ番号	ドライブ
	Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
	Cドライブ	ハードディスクドライブ
	Dドライブ	ハードディスクドライブ
	Eドライブ	ハードディスクドライブ
	Fドライブ	ハードディスクドライブ
	Gドライブ	PDドライブ(リムーバブルディスクドライブ機能)
	Hドライブ	PDドライブ (CD-ROMドライブ機能)



チェック!! Windows NT 4.0 上の PD ドライブは、リムーバブルディスクドライブと CD-ROM ドライブの 2 つのドライブとして認識されます。

エラーチェックの操作手順

- 1 Windows NT 4.0 デスクトップで「マイコンピュータ」をダブルクリック
- 2 エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック
- 3 「ファイル」→「プロパティ」をクリック
- 4 「ツール」タブをクリック
- 5 「チェックする」をクリック
- 6 「チェックディスクオプション」を選ぶ
- 7 「開始」ボタンをクリック

 **チェック!!** 定期的エラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

取り扱い上の注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- ・電源が入っているときは本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切るときは、Windows NT 4.0のシャットダウンを行ってから電源を切ってください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

ハードディスクの記憶容量は、1M バイト=1,000,000 バイト、1G バイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示しております。OSによっては、1M バイト=1,048,576 バイトでM バイト値を、1G バイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値より小さな値で表示されます。

■ 不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所があることがあります。これを

「不良セクタ」、または「スキップセクタ」といいます。パーソナルコンピュータは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windows NT4.0の「チェックディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
8.4Gバイト	8,400,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

■ ハードディスクドライブの動作音について

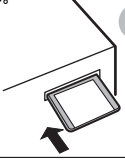
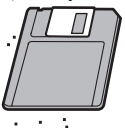
ハードディスクドライブの動作中、本機より小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

フロッピーディスクを取り扱うときの注意

フロッピーディスクが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。次の点に注意して大切に扱ってください。

フロッピーディスクドライブには、ていねいに奥まで静かに挿入してください。 	ラベルは正しい位置に貼ってください。 	使用後は収納箱へ入れて保管してください。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。汚れたフロッピーディスクの使用は避けてください。 	鉛筆での記入や消しゴムの使用は避けてください。 	シャッターは開けないでください。 
フロッピーディスクの上にもものをのせないでください。 	直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。 	飲食、喫煙しながらの使用は避けてください。 
溶剤類、飲み物等はフロッピーディスクに近づけないでください。 	フロッピーディスクに磁石などを近づけないでください。 	クリップ等ではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。 

フロッピーディスクのフォーマット

市販のフロッピーディスクには、フォーマット済みのものと、未フォーマットのものがあります。未フォーマットのフロッピーディスクを購入した場合は、使用する前にフォーマット処理（初期化）を行う必要があります。

本機では 720KB、1.2MB、1.44MB の 3 種類のフォーマットができます。

640KB のフロッピーディスクはフォーマットおよび読み込み/書き込みはできません。

フォーマットの手順

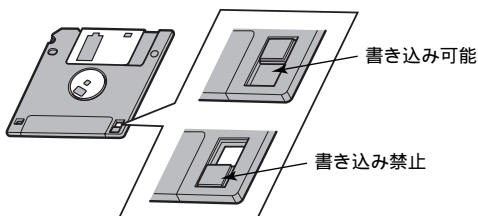
- 1 フロッピーディスクをドライブにセットする
- 2 「スタート」→「アプリケーション」→「Windows NT エクスプローラ」をクリック
- 3 「3.5 インチ FD」をクリック
- 4 マウスの右ボタンをクリックして「フォーマット」をクリック
- 5 「開始」ボタンをクリック
- 6 「フォーマット結果」が表示されたら「閉じる」ボタンをクリック
- 7 「フォーマット」で「閉じる」ボタンをクリック

■ 容量、フォーマットの種類、オプションは必要に応じて設定してください。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクはライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。



使用できるフロッピーディスクについて

本機で読み込み / 書き込みできるフロッピーディスクは次のとおりです。

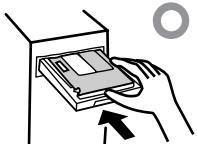
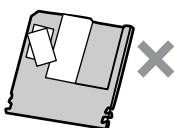
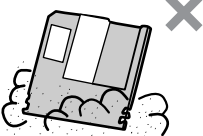
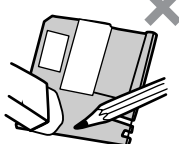
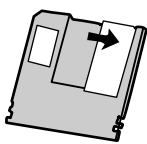
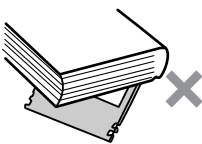
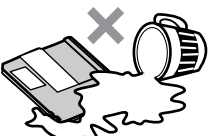
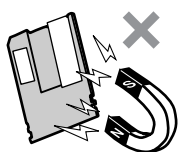
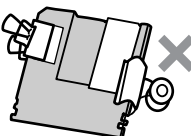
720KB、1.2MB、1.44MB のいずれかの容量でMS-DOS、Windows を利用してフォーマットされたものです。

PDドライブ

本機には、トレイ式のPDドライブが標準で装備されています。PDは1枚で大きな記憶容量を持っているので、大量のデータを扱うことができます。ハードディスクのデータのバックアップをとるのに便利です。また、PDドライブでは、CD-ROMや音楽CDなどを使うこともできます。

PDを取り扱うときの注意

PDが壊れると、大切なデータやソフトウェアが使えなくなります。
次の点に注意して大切に扱ってください。

ラベルを貼る面を上にして、トレイに正しい位置に置いてください。 	ラベルは正しい位置に貼ってください。 	使用後は収納箱へ。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。 	鉛筆での記入や消しゴムの使用は避けてください。 	シャッターは開けないでください。 
PDの上にものを載せないでください。 	直射日光の当たる所や暖房器具の近くなど、温度が高くなる場所に置かないでください。 	飲食、喫煙しながらの使用は避けてください。 
溶剤類、飲み物はPDにつけないでください。 	PDに磁石などを近づけないでください。 	クリップ等ではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。 

PD のフォーマット

購入したばかりの PD は、そのままではデータを書き込むことができません。PD を Windows NT 4.0 で使用できるようにするためには、「パーティションの作成」、「フォーマット（初期化）」という作業を行う必要があります。「ディスクアディミニストレータ」で PD のパーティションの作成、フォーマットをすることができます。詳しくは、ディスクアディミニストレータのヘルプをご覧ください。物理フォーマットされていない PD をフォーマットする場合は、あらかじめ「ディスクアディミニストレータ」で物理フォーマットを行ってから、パーティションの作成、フォーマットしてください。物理フォーマットは、「ディスクアディミニストレータ」の「パーティション」メニューの物理フォーマットで行います。

本機でお使いの PD ドライブは、Windows NT 4.0 上でリムーバブルディスクドライブと CD-ROM ドライブの 2 つのドライブとして表示されます。

PD をセットしたドライブを指定するときは、リムーバブルディスクドライブ名を指定してください。

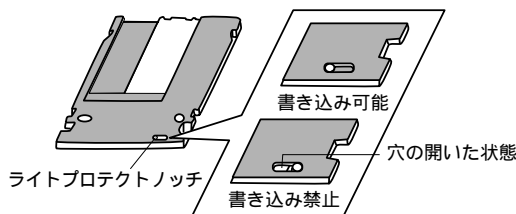
✓ チェック!!すでにデータを書き込んでいる PD をフォーマットすると、それまで書き込まれていたデータはすべて消えてしまい、2 度とデータがとりもどせなくなっています。大切なデータが書き込まれている PD は、誤ってフォーマットしないように注意が必要です。

PD の内容の保護

PD は、保存している内容を誤って消してしまわないように、ライトプロテクト（書き込み禁止）ができるようになっています。

ライトプロテクトされている PD は、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っている PD は、ライトプロテクトする習慣をつけましょう。

ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にずらすと、書き込み禁止になります。

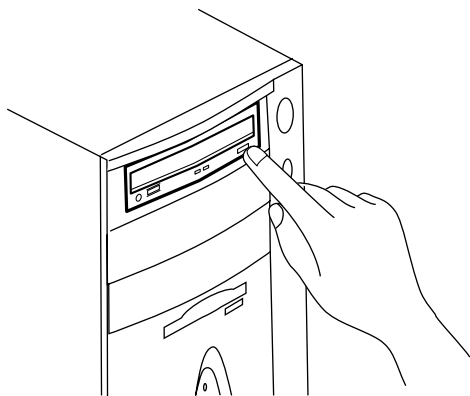


PD のセットのしかた / 出し方

PD の出し入れは、電源を入れてから行ってください。

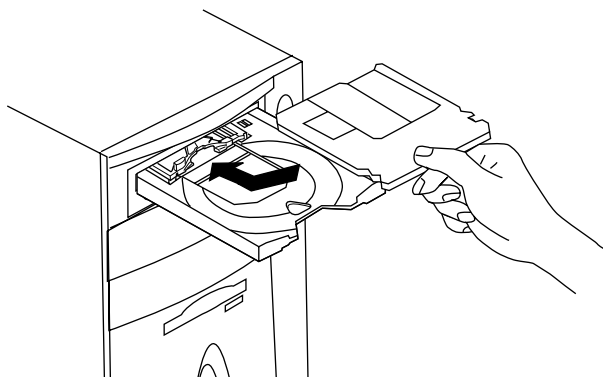
PD のセットのしかた

- 1 トレイ出し入れボタンを押す
トレイが出てきます。



- 2 ラベルを貼る面を上、ライトプロテクトノッチが手前にくるようにしてPDを持つ

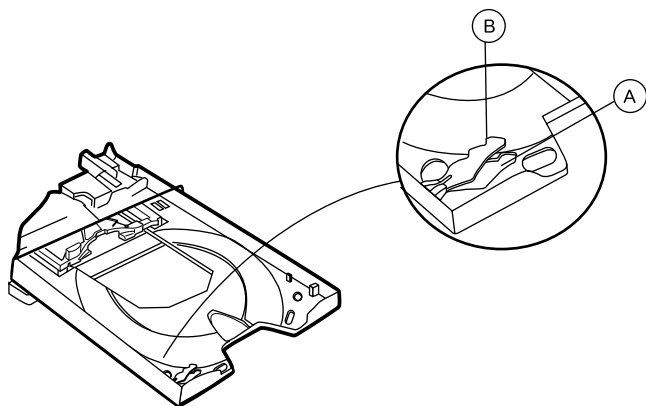
- 3 PDをトレイに置く
このときに、トレイの奥にあるツメを押し込むようにしてください。



トレイ前方の左のディスクホルダ^②の状態になってしまったら、必ず^①の状態に戻してからディスクをセットしてください。^②の状態になったままディスクをセットするとディスクを傷つける場合があります。

^②の状態から^①の状態に戻すには、ディスクホルダはカチッと音がするまで押し込んでください。

ディスクホルダ



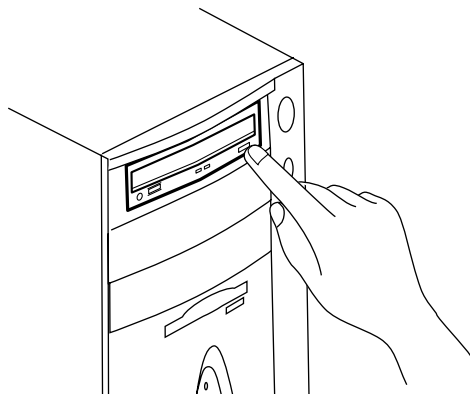
4 トレイ出し入れボタンを押す

トレイ出し入れボタンは、ボタンを軽く押せばトレイが収納されます。

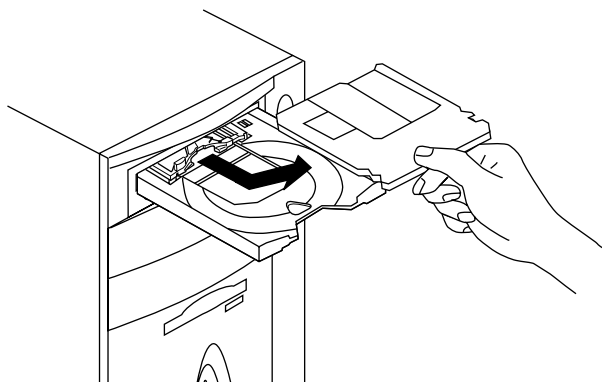
これでセットは完了です。

PD の出し方

- 1** トレイ出し入れボタンを押す
トレイが出てきます。



- 2** PD を取り出す

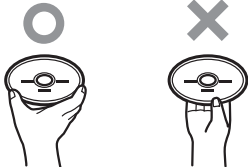
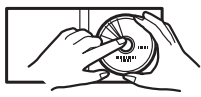
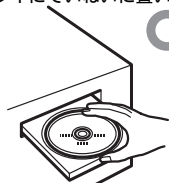
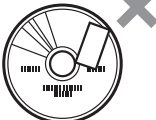
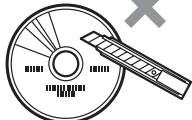
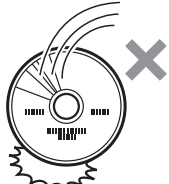
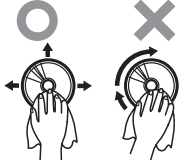
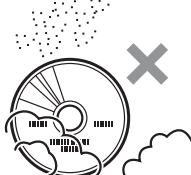
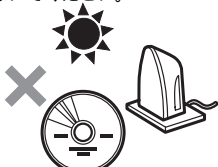
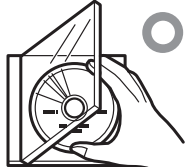


- 3** トレイ出し入れボタンを押す
トレイが本体に収納されます。

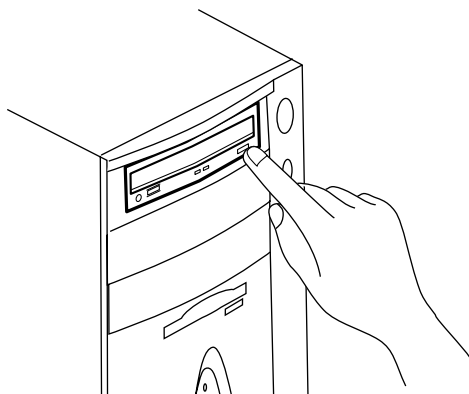
✓ **チェック!!** トレイは、出した状態のままで放置しないでください。PDドライブの故障の原因となります。

CD-ROM を取り扱うときの注意

CD-ROM を破損しないように、次の点に注意して大切に扱ってください。

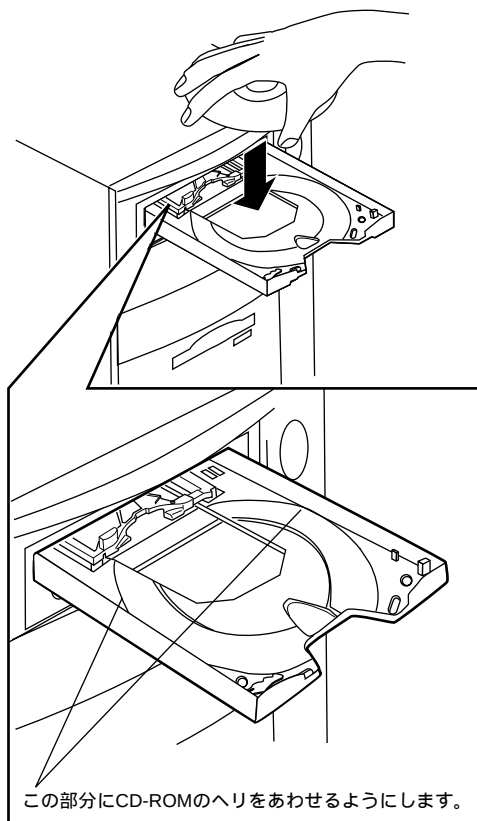
信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。 	ケースの中央を押しながら取り出してください。 	文字の書かれている面を上にして、CDトレイに正しい向きに置いてください。 
CD-ROMの上にものをのせたり曲げないでください。 	ラベルなどを貼らないでください。 	キズをつけたり字などを書いたりしないでください。 
落として強い衝撃を与えたり、キズをつけないでください。 	指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けて拭いてください。 	掃除の際は、CD専用のクリーナーをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使わないでください。 
ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。 	直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に置かないでください。 	使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。 

- 1 トレイ出し入れボタンを押す
トレイが出てきます。



- 2 信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないようにCD-ROMを持つ

3 CD-ROMを、文字の書いてある面を上にして、トレイの中心に置く



このとき、図のようにトレイのガイドに、CD-ROMのへりがのるようにセットしてください。

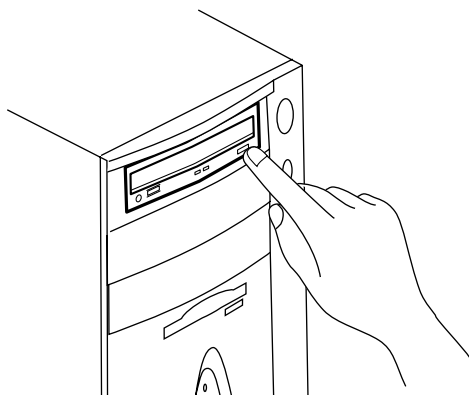
4 トレイ出し入れボタンを押す

トレイが本体に収納されます。トレイ出し入れボタンはボタンを軽く押せばトレイが収納されます。

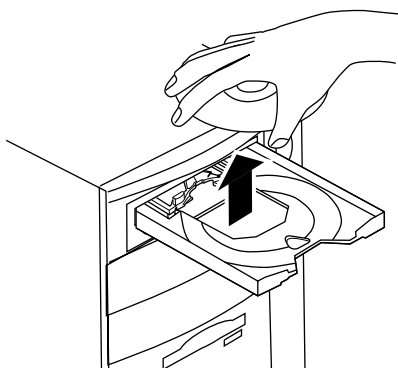
これでセットは完了です。

CD-ROM の出し方

- 1** トレイ出し入れボタンを押す
トレイが出てきます。



- 2** CD-ROM を取り出す。



- 3** トレイ出し入れボタンを押す。

✓ **チェック!!** トレイは、出した状態のままで放置しないでください。PDドライブの故障の原因となります。

非常時のディスクの取り出し方

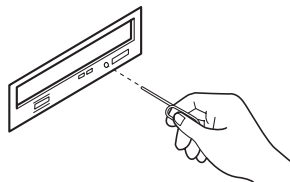
停電やソフトウェアの異常動作などにより、トレイ出し入れボタンを押してもトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

✓ **チェック!!** 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

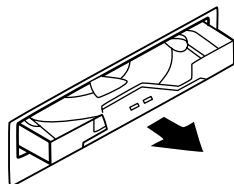
- 1 細くて丈夫な針金を用意(大き目のペーパークリップを伸ばしたものが使えます)



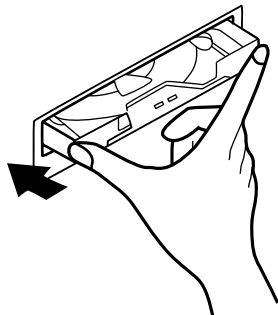
- 2 トレイの下の方(直径約 2mm)に針金を差し込み、強く押す
PDドライブのカバーが少し開きます。



- 3 トレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す



- 4 トレイの前面を押して、トレイが元通りに収納されるまで押し込む



サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は別売のスピーカなどを接続すると再生することができます。

音量の調節

音量の調節には次の方法があります。音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

ボリュームコントロール

「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「マルチメディア」→「ボリュームコントロール」をクリックすると次のようなウィンドウが表示されます。



詳しい使い方については Windows NT 4.0 のヘルプをご覧ください。

✓チェック!! 本機でサウンド機能を利用するには別売のスピーカが必要になります。



LAN

本機には100BASE-TX/10BASE-T自動切換えのLANアダプタが標準で装備されています。ここでは本機をネットワークに接続する手順を簡単に説明します。

リンクケーブルの接続

本機をネットワークに接続するには、マルチポートリピータ（HUB）が必要です。100BASE-TX または 10BASE-T に対応したものをご用意ください。100BASE-TX に対応したものの方が、より高速です。100BASE-TX で使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

 **チェック!!** 本機を稼働中のネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。

ネットワークの設定

ここではネットワークソフトウェアのセットアップ方法を簡単に説明します。詳しくは『Microsoft Windows NT Workstation ファーストステップガイド』の「第4章 ネットワークの基礎」の「ネットワークを使うようにコンピュータをセットアップする」以降をご覧ください。

ネットワークソフトウェアをセットアップする

 **チェック!!** 本機の初回起動時にネットワークに接続しなかった場合には、「困った時のQ&A」の「Windows NT4.0を再セットアップする」のネットワークのインストール以降もあわせてご覧ください。

1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
「コントロールパネル」が表示されます。

2 「ネットワーク」をダブルクリック
「ネットワーク」が表示されます。
ここで、「識別」「サービス」「プロトコル」「アダプタ」および「バインド」をセットアップできます。
必要な構成要素を追加してください。

必要な構成要素がわからない場合は、ネットワークの管理者に相談してください。

 **チェック!!** 新しいコンポーネントを追加または変更した場合は、再度Service Pack3をインストールする必要があります。詳しくは、「PART 4 添付アプリケーションの概要と削除 / 再追加」の「Microsoft® Windows NT®4.0 日本語版 Service Pack3 について」をご覧ください。

3 「識別」タブをクリック

4 「変更」ボタンをクリック

5 「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」、「コンピュータの説明」に必要な情報を入力

コンピュータ名などがわからない場合は、ネットワークの管理者に相談してください。

6 入力を終えたら「OK」ボタンをクリック

運用管理機能

本機は、システム管理者が効率よくクライアントを運用、管理するためのセキュリティ、障害管理、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能を備えています。

セキュリティ

- ・セキュリティロック
- ・パスワード、I/Oロック

参照 ▶ 「PART3 システム設定」(P.98)

リモートパワーオン機能

ネットワーク経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。本体およびLANボードが、リモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンは上位アプリケーションからのリモートパワーオンのコマンド指示を受けると、パワーオンを指示するパケット(Magic Packet)を離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン専用コントローラが受信すると、専用コントローラは本体のパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンからLAN接続された本機の電源を入れることができます。

- ✓ チェック!!
- ・以下の場合、リモートパワーオン機能にて電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して、Windows NT 4.0 を起動させ、再度、正常な方法で電源を切ってください。
前回のシステム終了が正常に行なわれなかった場合。
ブレーカを落とす、電源ケーブルを外す、停電など、主幹電源断後。
 - ・本機がサスペンド状態のとき、リモートパワーオン機能によるレジュームはできません。

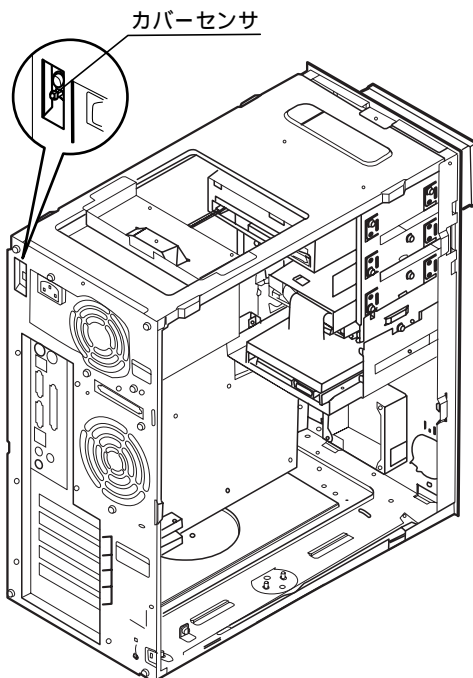
参照 ▶ 「PART4 添付アプリケーションの概要と削除 / 再追加」の「DMITool」(P.146)

障害管理機能

- ・メモリ：エラーの自動検出 / 訂正を行うECC機能に対応しています。
- ・ハードディスク：ハードディスクの異常を監視します。標準装備されているハー

ディスクは、S.M.A.R.T(Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。

- ・温度：内部の温度を監視します。
- ・電圧：内部で使用されているさまざまな電圧を監視します。
- ・ファン：電源、CPUなどの空冷用ファンの回転数を監視します。
- ・筐体：カバーセンサにより、カバーの開閉を監視します。



資源管理・状態監視機能

参照 ➡ 「PART4 添付アプリケーションの概要と削除 / 再追加」の「DMITool」(P.146)

資源管理(システムビューア)

離れたところにあるマシンから、本機のメモリ容量、メモリスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。

状態監視

障害管理機能が異常値を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメッセージにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

遠隔操作・保守機能

参照 「PART4 添付アプリケーションの概要と削除 / 再追加」の「pcANYWHERE 32 EX」(P.150)

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル配布、ソフトのインストール、アプリケーションの実行などの操作を、離れたところにあるマシンから、あたかも本機を操作しているように自由に行えます。その際にはシステム管理者のマシンに下記の DMITOOL(別売)、または「pcANYWHERE」(Symantec 社製)が必要です。

- ・ PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズ用
DMITool(Ver4.1) X (pcANYWHERE32 EX コンプリート版付)
PS-NX9217-C1
- ・ PC-9800 シリーズ用
DMITool(Ver3.1) X (pcANYWHERE32 EX コンプリート版付)
PS98-7215-C1

ヘルプの表示方法

ヘルプの表示方法についての詳細は「Windows NTファーストステップガイド」第2章 Windows NT の基本 オンラインヘルプを表示するをご覧ください。

特定の作業の操作手順についてのヘルプ

目次またはキーワードを入力して操作手順を探す

- 1 「スタート」→「ヘルプ」を選ぶ
- 2 ヘルプウィンドウ内の  をダブルクリック



のアイコンをダブルクリックすると、さらに細かな項目が表示されます。



のアイコンをダブルクリックすると、項目の内容を説明する画面が表示されます。

設定項目のヘルプ(画面に表示されている項目についてのヘルプ)

設定方法が分からない場合に、ヘルプ画面を表示してその項目の説明を読むことができます。

設定項目に関する説明を表示する

- 1 ダイアログボックスの  アイコンをクリック
カーソルが  になります。

- 2 説明が必要な項目をクリック

説明が必要な項目を選んで【F1】を押しても同様の画面が表示されます

周辺機器を利用する

ここでは、接続できる周辺機器や内蔵機器の取り付け方法について説明します。

この章の内容

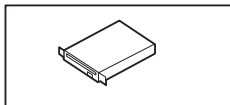
接続できる周辺機器	48
増設にともなう注意点	50
内蔵機器の増設	53
SCSI インタフェース機器の増設	79

接続できる周辺機器

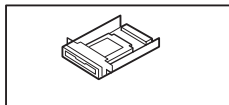
本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

フロッピーディスクドライブ

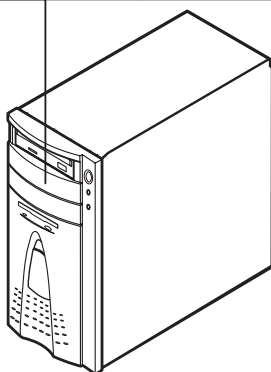
フロッピーディスクドライブ

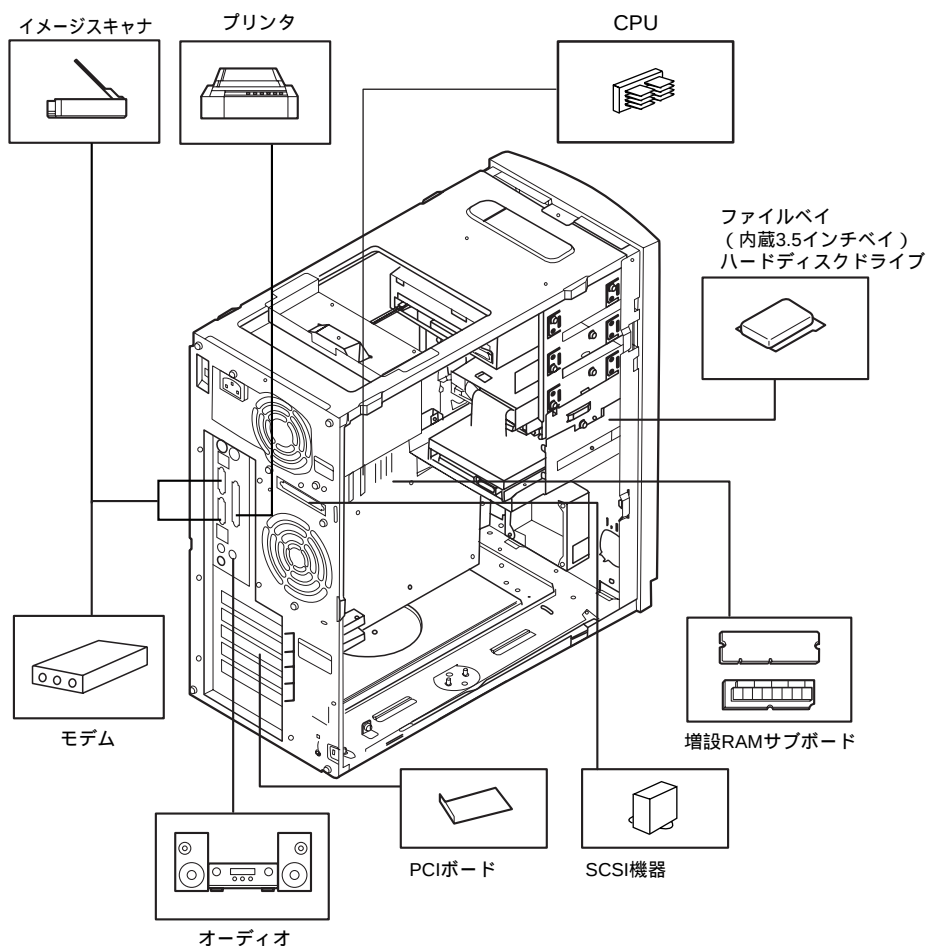


PCカードドライブ



ハードディスクドライブ







増設にともなう注意点

周辺機器を増設する際に、次のようなことに注意してください。

接続前の確認

- 取り付けたい周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けたい周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器の取扱説明書や製造元に確認してください。

- リソースは確保されていますか？

周辺機器を使うには、「リソース」が必要です。まず、「Windows NT 診断プログラム」でその周辺機器が使うリソースがあるかどうか確認してください。リソースが足りない場合は、あまり使わない機器や機能のリソースを空けて、その分を取り付けたい周辺機器が使えるように設定を変更します。

- 増設用 CPU (PK-UG-C001) を増設する場合

Windows NT 4.0の再セットアップが必要です。Windows NT 4.0の再セットアップについては、『困ったときのQ&A』『再セットアップするには』をご覧ください。

接続時に注意すること

⚠ 注 意



感電注意

- ・雷が鳴り出したら、本機や電源ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け/取り外しをしたりしないでください。
落雷による感電のおそれがあります。
- ・濡れた手で触らないでください。
電源ケーブルがACコンセントに接続されているときに、濡れた手で本体に触ると、感電の原因になります。
- ・電源ケーブルがACコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。
感電の原因になります。
- ・周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
電源ケーブルがACコンセントに接続されたまま周辺機器の取り付け/取り外しをすると、本機や周辺機器の故障、場合によっては感電の原因となります。



けが注意

- ・本体内部に手を入れるときは、指をはさんだりぶつかけたりしないように注意してください。



高温注意

- ・本機の使用直後は、CPUやCPUの周辺に触れないでください。
- ・CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをすることがあります。ルーフカバーを外す場合は、電源をOFFにしたあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



感電注意

- ・本体を、ルーフカバーを外した状態で使用しないでください。
感電や火災の原因となります。



発火注意

- ・増設機器は、この活用ガイドや増設機器のマニュアルに従って正しく取り付けてください。
正しく取り付けられていないと、発煙や火災の原因となります。

接続がうまくできない場合

- ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたりすることはよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

- 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときには、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っばってしまって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

- ドライバは組み込みましたか？

周辺機器を取り付けてもドライバが組み込まれていないと、使うことはできません。周辺機器の取扱説明書をご覧になり、ドライバを組み込んでください。

- ドライバは最新のものですか？

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器の製造元に問い合わせて、最新のドライバを入手してください。

- 周辺機器を複数取り付けたため、何が原因が分からなくなっていますか？

このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外します。その後、一つずつ取り付けてはパソコンを起動するという作業を繰り返します。パソコンが起動しなくなるなどの現象が起きる機器があったら、その機器に問題があります。リソースの設定やドライバの設定などができているか、確認してください。

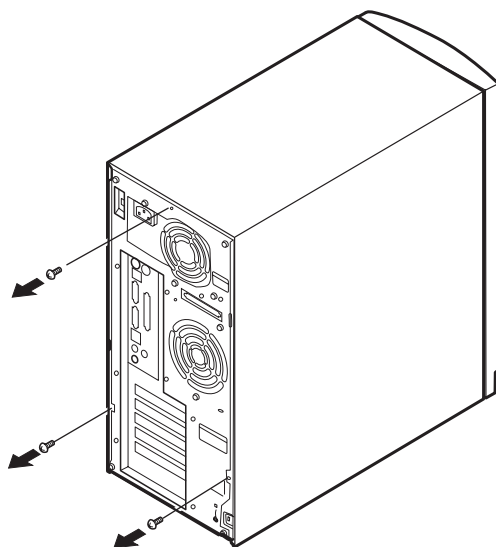
内蔵機器の増設

ここでは、カバーの取り外し方や内蔵機器の取り付け方について説明します。

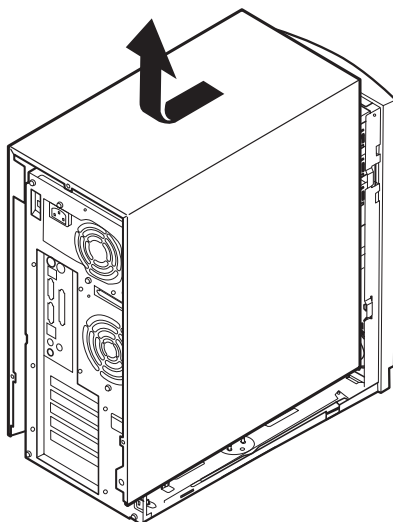
ルーフカバーの取り外し

メモリやハードディスク、PCIカードなどの内蔵機器を増設する場合は、本体のルーフカバーを外す必要があります。

- 1 本機の電源を切る
- 2 電源ケーブルを抜く
- 3 市販の盗難防止用ロックを使用している場合は、これを取り外す
- 4 本体背面のネジ3本を外す



- 5** ルーフカバーを少し後方へ引き出してから、上方向に持ち上げて取り外す。



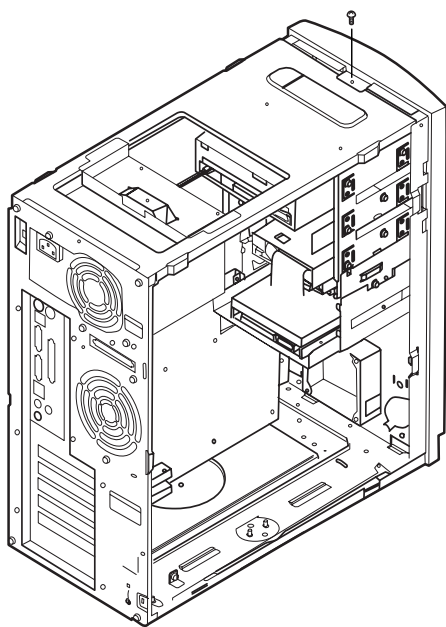
✓チェック!! 取り外したネジは紛失しないように、手近な箱や袋などに保管してください。

フロントマスクの取り外し

増設フロッピーディスクドライブやPCカードドライブなど、ファイルベイ(5インチベイ)に内蔵機器を取り付ける場合は、ルーフカバーとフロントマスクを取り外す必要があります。

- 1** 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)

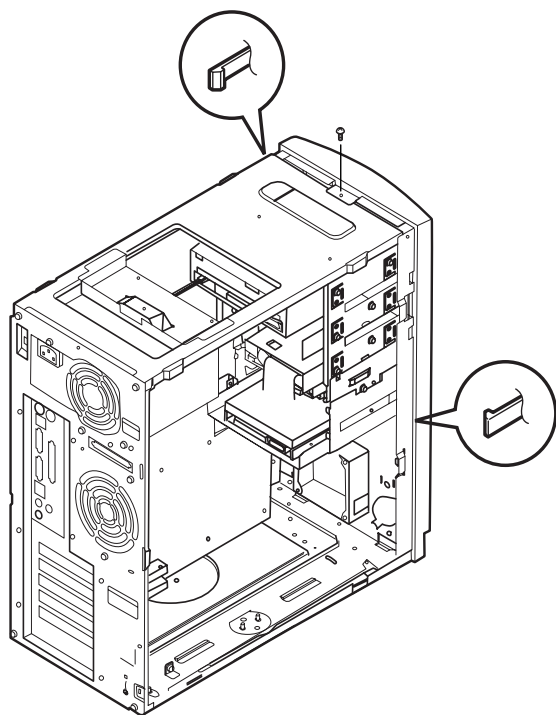
2 フロントマスクを止めているネジ 1 本を外す



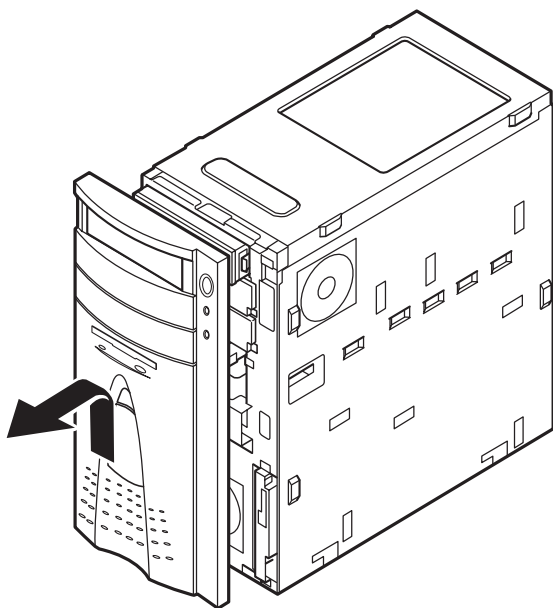
2

周辺機器を利用する

3 フロントマスク裏側のツメ2箇所を、ドライバの先などで押して外す



4 フロントマスクを少し上に持ち上げてから、手前に引いて外す

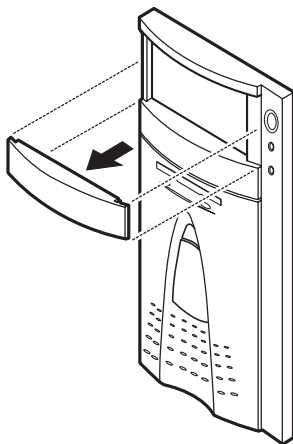


ファイルベイカバーの取り外し

増設フロッピーディスクドライブやPCカードドライブなど、ファイルベイ(5インチベイ)に内蔵機器を取り付ける場合は、ファイルベイカバーを外す必要があります。

- 1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)
- 2 「フロントマスクの取り外し」の手順でフロントマスクを外す(P.54)

3 ファイルベイカバーを矢印の方向に押して外す



メモリの増設

本機には64M、96M バイトのメモリが標準で搭載されており、最大で512M バイトまで増設することができます。大量のメモリを必要とするアプリケーションを使用する場合には、別売の増設 RAM サポートを取り付けることで、メモリを増やすことができます。

増設 RAM サポート組合せ表

(*: 標準で搭載されている RAM サポートが実装されている位置を示しています。)

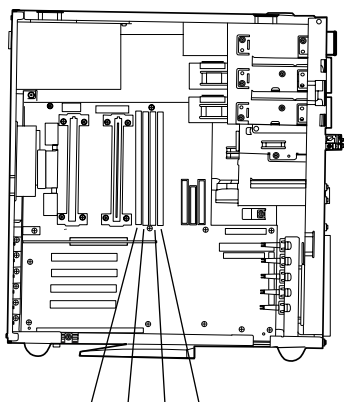
合計容量	スロット #0	スロット #1	スロット #2	スロット #3
64MB	64MB	———	———	———
	32MB *	32MB *	———	———
96MB	64MB	32MB	———	———
	32MB *	32MB *	32MB *	———
128MB	128MB	———	———	———
	64MB	64MB	———	———
	64MB	32MB	32MB	———
	32MB	32MB	32MB	32MB
160MB	128MB	32MB	———	———
	64MB	64MB	32MB	———
	64MB	32MB	32MB	32MB
192MB	128MB	64MB	———	———
	128MB	32MB	32MB	———
	64MB	64MB	64MB	———
	64MB	64MB	32MB	32MB
224MB	128MB	64MB	32MB	———
	64MB	64MB	64MB	32MB
	128MB	32MB	32MB	32MB
256MB	128MB	128MB	———	———
	128MB	64MB	64MB	———
	128MB	64MB	32MB	32MB
	64MB	64MB	64MB	64MB
288MB	128MB	128MB	32MB	———
	128MB	64MB	64MB	32MB
320MB	128MB	128MB	64MB	———
	128MB	128MB	32MB	32MB
	128MB	64MB	64MB	64MB
352MB	128MB	128MB	64MB	32MB
384MB	128MB	128MB	128MB	———
	128MB	128MB	64MB	64MB
416MB	128MB	128MB	128MB	32MB
448MB	128MB	128MB	128MB	64MB
512MB	128MB	128MB	128MB	128MB

✓**チェック!!** スロットに搭載する順序は変更しても構いませんが、必ずスロット #0、#1、#2、#3 の順に行ってください。

例: 64MB・32MB・32MB と搭載する代わりに 32MB・32MB・64MB と搭載することもできます。

本機には次の増設RAMサブボードを1枚単位で最大4枚まで増設できます。

型 名	メモリ容量	ECC対応
PK-UG-M005	32Mバイト	○
PK-UG-M006	64Mバイト	○
PK-UG-M007	128Mバイト	○



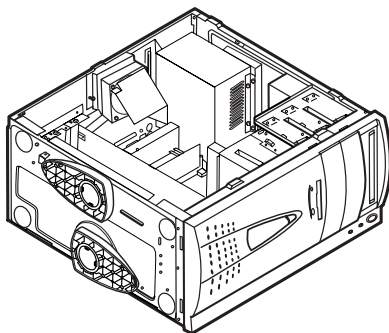
スロット #3 #2 #1 #0

増設 RAM サブボードの取り外し

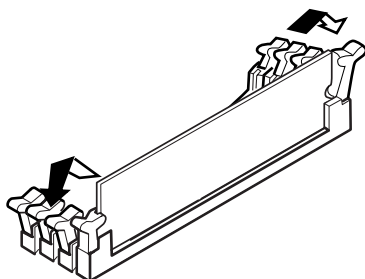
✓**チェック!!** 増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードが破損する原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分に手で触れないように注意してください。

1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)

2 本体を左側面が上になるように、ゆっくり横に倒す



3 増設 RAM サブボードの左右のレバーを外側に広げる

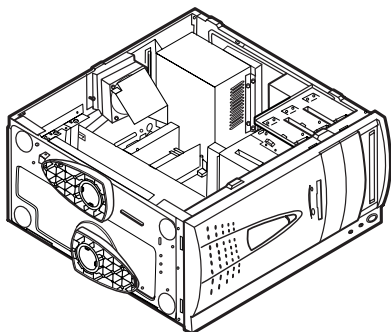


4 増設 RAM サブボードを上へ引き抜く 取り外した増設RAMサブボードは静電気防止用の袋などに入れて保管してください。

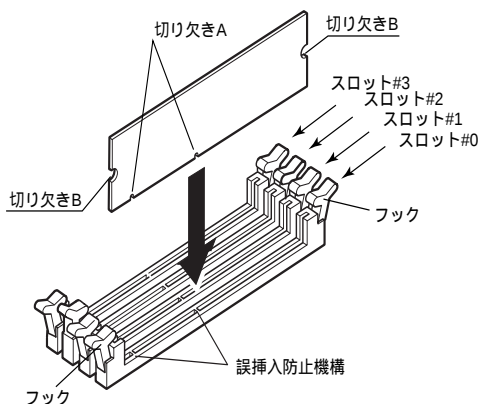
増設 RAM サブボードの取り付け

✓チェック!! 増設RAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと、増設RAMサブボードが破損する原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMサブボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分に手で触れないように注意してください。

- 1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)
- 2 本体を左側面が上になるように、ゆっくり横に倒す



- 3 増設RAMサブボードを、切り欠きAの位置と誤挿入防止機構に注意して、増設RAM サブボード用コネクタに垂直に差し込む
スロット#0、#1、#2、#3の順番に増設してください。



- 4 左右2個所のフックが切り欠きBに掛るように、増設RAM サブボードをしっかりと押し込む

メモリ容量の確認方法

Windows NT 4.0を起動し、デスクトップ上で「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択してください。「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリの容量が表示されます。

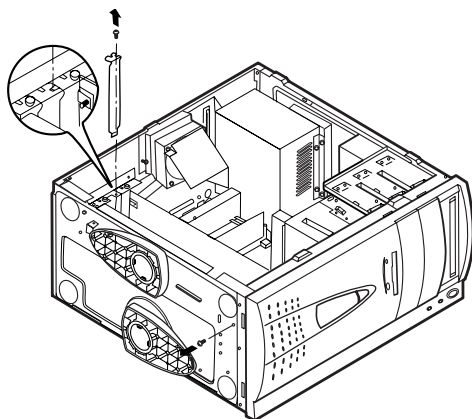
✓ **チェック!!** メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。(512MB 実装時で、30 秒程度)

表示されたメモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、本機で使えるメモリを取り付けているかを確認してください。

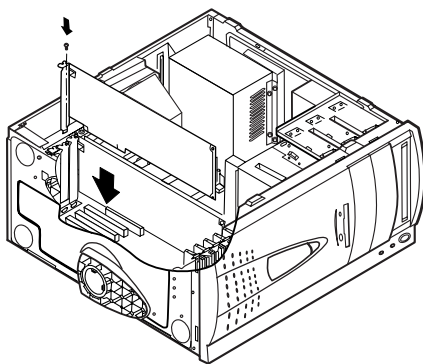
PCI ボードの増設

PCI ボードの取り付け

- 1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)
- 2 本体を左側面が上になるように、ゆっくり横に倒す
- 3 PCI スロットのネジを1 本外し、PCI スロットカバーを引き抜く



4 PCI ボードを取り付ける



5 PCI ボードのネジを取り付ける

6 本体を立てる

7 ルーフカバーを外したときと逆の手順で元に戻す

ファイルベイオプションの増設

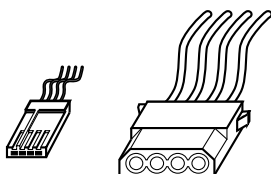
接続前の確認

- ・ 本機には、ファイル増設用のファイルベイとして、内蔵 3.5 インチベイが 1 スロットと 5 インチベイが 3 スロット (1 スロットは PD ドライブが実装済) があります。
- ・ ファイルベイ用の電源ケーブルは 2 種類あり、本体に装備されています。

電源ケーブルコネクタ (大) 3 本

- ・ 内蔵 3.5 インチベイ用
- ・ 5 インチベイスロット # 2 用
- ・ 5 インチベイスロット # 3 用

電源ケーブルコネクタ (小) 1 本 (5 インチベイ用)



- ・ 信号ケーブルは、オプションになっていますので、増設する場合にご購入下さい。
- ・ 標準で搭載されているハードディスクドライブ、PDドライブ、フロッピーディスクドライブの設定は下記の様になっていますので、ファイルベイに増設するオプションのマニュアルをご覧の上正しく設定して下さい。
 - ・ ハードディスクドライブ Master (Slave への変更不可)
 - ・ PD ドライブ Master (Slave への変更不可)
 - ・ フロッピーディスクドライブ ... ユニットアドレス= 0 (変更不可)

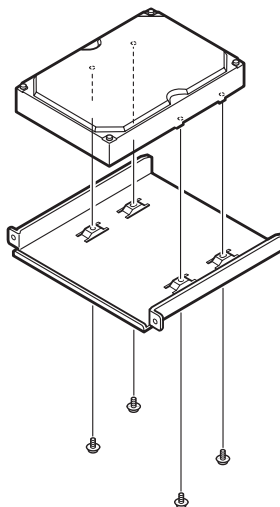
■ 内蔵 3.5 インチベイ

内蔵3.5インチベイには、ハードディスクドライブなどを増設して容量を増やすことができます。

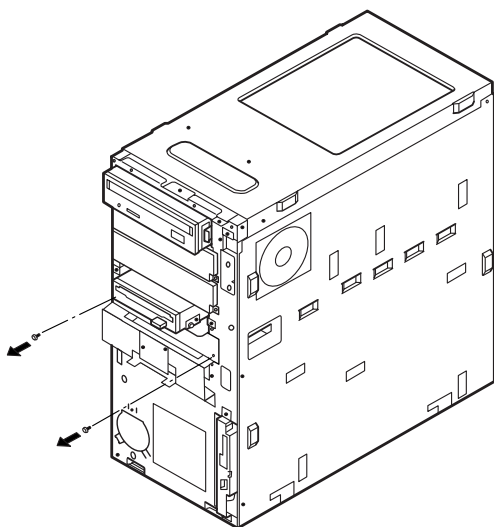
ハードディスクドライブの増設

✓チェック!! ここからは、増設用ハードディスクドライブのマニュアルをいっしょに見ながら増設してください。

- 1** 増設用ハードディスクドライブに添付されているブラケットとネジ4本をハードディスクドライブに取り付ける
(すでに取り付けられている場合もあります。)

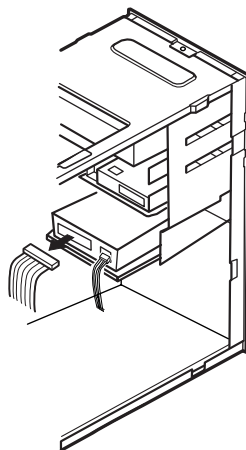


- 2 「ルーフカバーの取り外し」の手順で本体のルーフカバーを外す
(P.53)
- 3 「フロントマスクの取り外し」の手順でフロントマスクを外す
(P.54)
- 4 ネジ2本を外し、パネルを外す

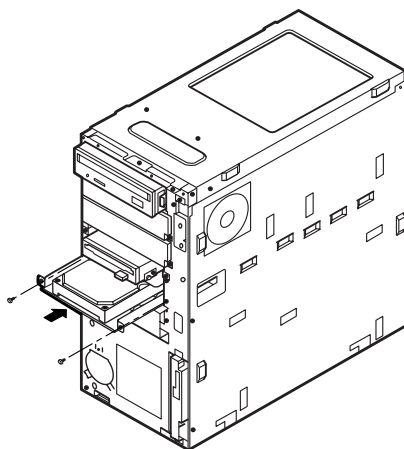


 **チェック!!** SCSI インタフェース機器を増設する場合は、手順6へ進んでください。

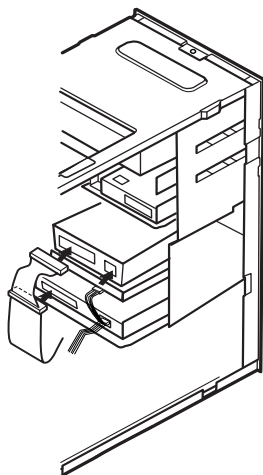
- 5** 標準で取り付けられているハードディスクドライブ、およびマザーボード上のコネクタから信号ケーブルのコネクタを慎重に抜き、信号ケーブルを取り外す



- 6** 増設用ハードディスクドライブを内蔵3.5インチベイに挿入し、増設ハードディスクドライブに添付されているネジ2本で固定する



- 7** 標準ハードディスクドライブと増設用ハードディスクドライブ、およびマザーボード上のコネクタに増設ハードディスクドライブに添付されている信号ケーブルのコネクタをしっかりと差し込みます
SCSI インタフェース機器を増設する場合は、標準ハードディスクドライブと接続する必要はありません。別売の内蔵 SCSI 機器接続ケーブル (PC-MA-K04、PC-MA-K05)、デュプレックスケーブル (PC-MA-K06、PC-MA-K07) を利用する場合は、「SCSI インタフェース機器の増設をご覧ください。



- 8** 標準で内蔵されているハードディスクドライブの電源ケーブルから分岐している電源ケーブルを増設用のハードディスクドライブのコネクタに接続する
- 9** フロントマスクとルーフカバーを外したときと逆の手順で取り付ける

増設したハードディスクを確認する

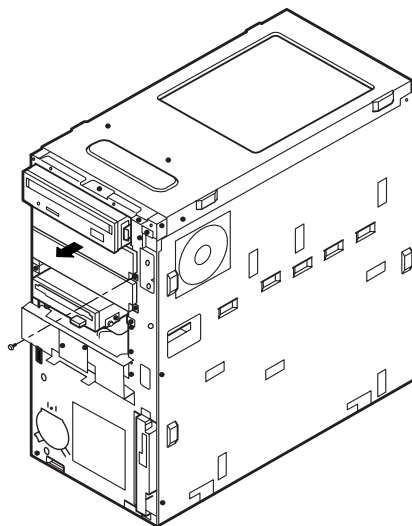
Windows NT 4.0 を起動し、デスクトップ上で「マイコンピュータ」をダブルクリック

増設した分だけ、ハードディスクアイコンが増えて表示されます。ハードディスクドライブによっては、フォーマットが必要な場合がありますので、増設用ハードディスクドライブのマニュアルをご覧ください。

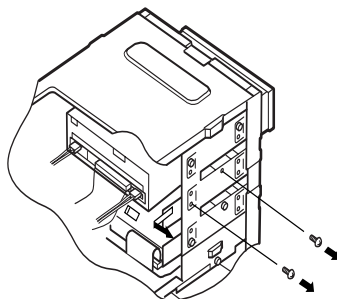
■ 5 インチベイ

5 インチベイ用オプションの取り付け

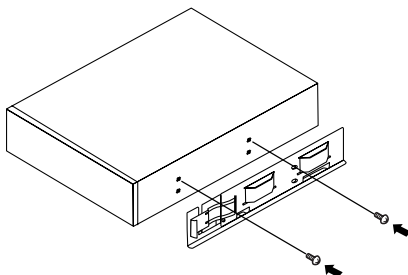
- 1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)
- 2 「フロントマスクの取り外し」の手順でフロントマスクを外す(P.54)
- 3 ネジを1本外して、ファイルベイカバーを取り外す



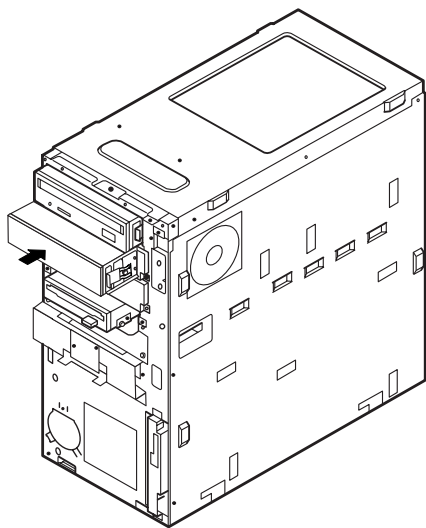
- 4 ネジ2本を外し、ロックプレートを取り外す



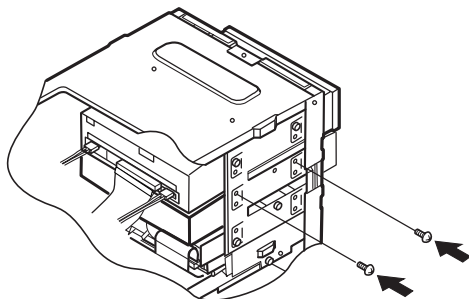
- 5** 手順4で取り外したロックプレートを5インチベイ用オプションに添付されているネジ2本で固定する



- 6** 5インチベイ用オプションを、カチッと音がするまで挿入する



- 7** 5インチベイ用オプションの側面を、5インチベイ用オプションに添付されているネジ2本で固定する



- 8** 5インチベイ用オプションに添付されている信号ケーブル、装置に装備されている電源コネクタを接続する

✓チェック!! 接続方法は、オプションのマニュアルをご覧ください。

- 9** フロントマスクを、外したときの逆の手順で取り付ける

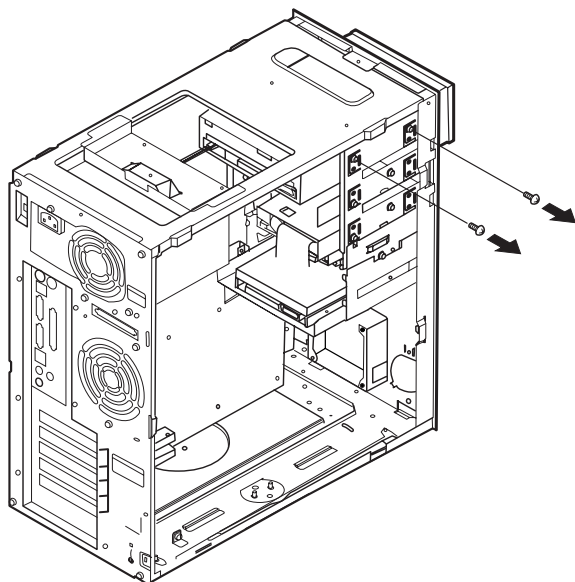
- 10** ルーフカバーを、取り外したときの逆の手順で取り付ける

PDドライブの取り外し

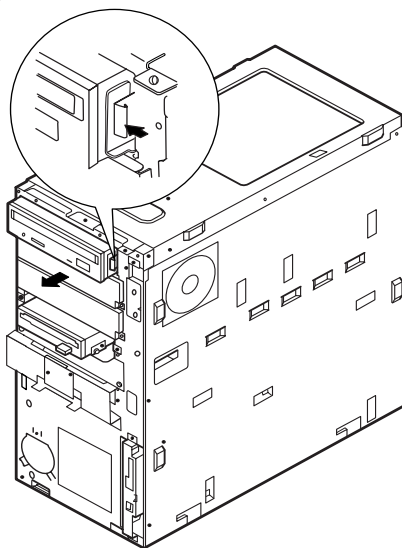
本体に標準で装備されているPDドライブを取り外して、他のファイルベイ機器などに交換することもできます。

- 1** 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを取り外す (P.53)
- 2** 「フロントマスクの取り外し」の手順でフロントマスクを取り外す (P.54)

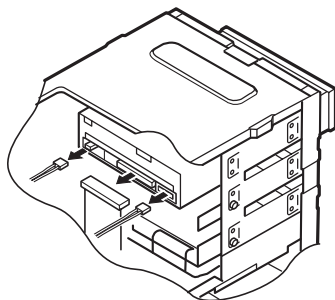
3 PDドライブを固定しているネジ2本を取り外す



4 PDドライブの右側のレバーを内側に押しながらドライブを半分ほど引き出す



5 PDドライブの信号ケーブル、オーディオケーブル、電源ケーブルを取り外す

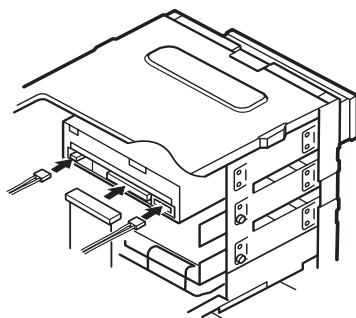


6 PDドライブを引き抜く

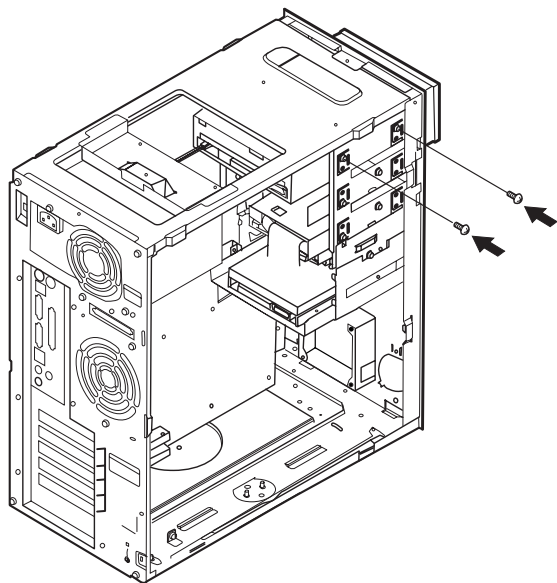
PDドライブの取り付け

1 PDドライブをファイルベイに半分ほど挿入する

2 PDドライブの信号ケーブル、オーディオケーブル、電源ケーブルを接続する



- 3** PDドライブをカチッと音がするまで押し込み、側面をネジ2本で固定する

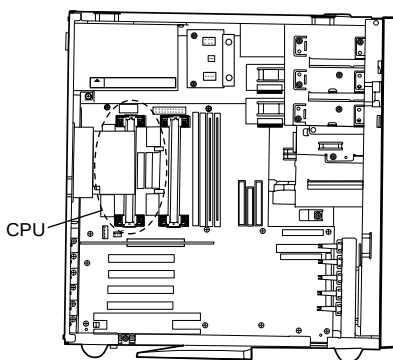


- 4** フロントマスクを外したときと逆の手順で取り付ける

- 5** ルーフカバーを外したときと逆の手順で取り付ける

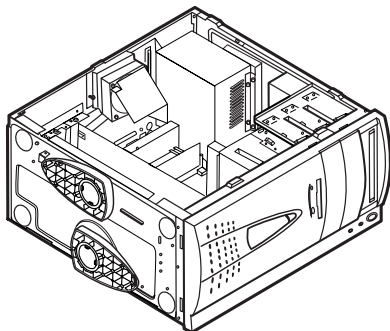
CPU の取り外しと取り付け

- ✓ **チェック!!** CPU は、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でCPUを扱うと、CPU が破損する原因となります。CPU に触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、CPUを持つときは端子の部分に手で触れないように注意してください。

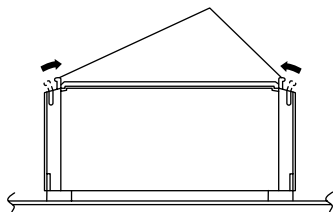


CPU の取り外し

- 1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを外す(P.53)
- 2 本体を左側面が上になるように、ゆっくり横に倒す

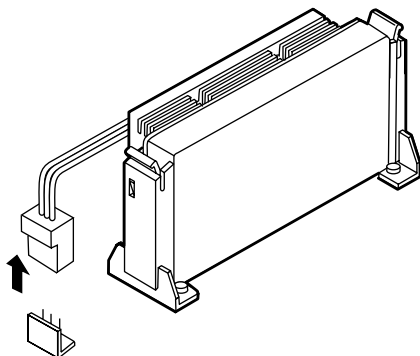


3 CPU のレバーをカチッと音がするまで内側に倒す



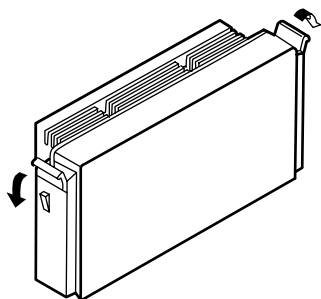
- ☑ **チェック!!** ・CPU のレバーには、無理な力をかけないでください。
・CPU の分解 (CPU からファンを取り外すなど) は絶対に行わないでください。

4 CPU に付いているファンの電源ケーブルをマザーボードから取り外す

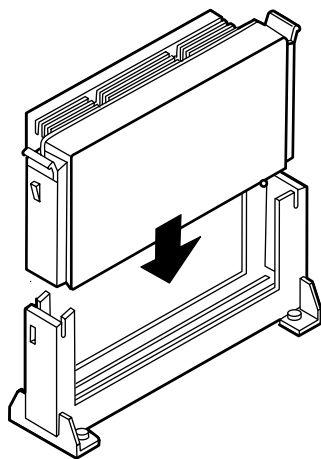


5 CPU を引き抜く

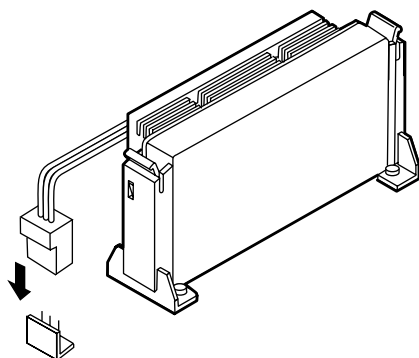
- 1** CPUのツメ2箇所が外側に出ていることを確認する(ツメが外側に出ていない場合はCPUのレバーを矢印の方向に動かして、ツメが外側に出ている状態にする)



- 2** CPU をレールに沿って挿入し、ツメが掛るまで押し込む



3 CPUに付いているファンの電源ケーブルをマザーボードに接続する



4 本体を立てる

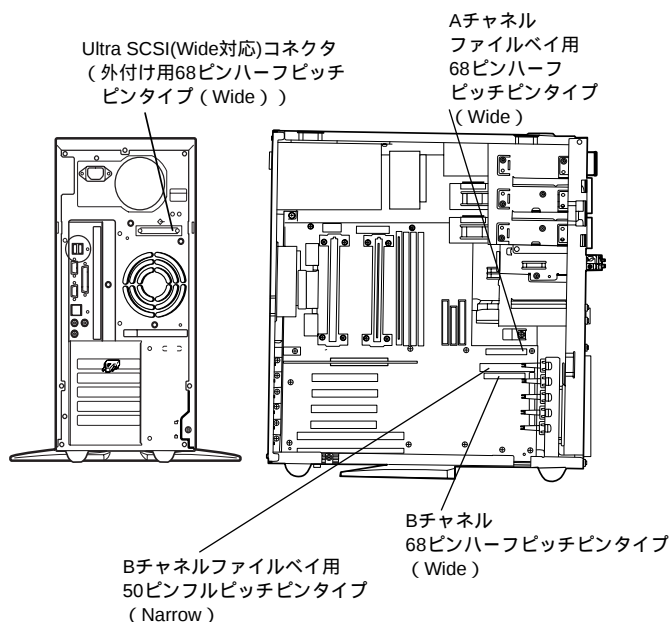
5 ルーフカバーをつける

SCSI インタフェース機器の増設

ここでは、本機に搭載されている Ultra SCSI インタフェース (Wide 対応) と、SCSI インタフェース機器の増設について説明します。

Ultra SCSI インタフェース (Wide 対応) について

本機に搭載されている Ultra SCSI インタフェース (Wide 対応) は 16 ビットのバス幅を持ち、8 ビットのバス幅である Ultra SCSI や SCSI-2 インタフェース機器 (以下 Narrow) に比べて 2 倍の転送速度を持ちます。これにより対応機器を接続することで、より大量なデータを高速に処理することを実現します。本機には、A、B 2 つのチャンネルがあり、A チャンネルはファイルベイ用 68 ピン (Wide) コネクタとなっています。B チャンネルは、ファイルベイ用 50 ピン (Narrow) コネクタと 68 ピン (Wide) コネクタがあり、出荷時は Ultra SCSI (Wide 対応) コネクタ (外付け用 68 ピン (Wide)) と 68 ピン (Wide) コネクタが内部でケーブル接続されています。



接続できる機器について

本機の Ultra SCSI インタフェースには、次のような SCSI 接続ケーブル、SCSI インタフェース機器を接続することができます。

- SCSI 接続ケーブル
- Wide 対応用 SCSI インタフェース機器接続ケーブル

型番	コネクタ形状	ケーブル長	添付終端BOX
PC-CA513	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	90cm	-
PC-CA514	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	50cm	-
PC-MA-K04	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ (内蔵用)	110cm	ピンタイプ
PC-MA-K06	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ (内蔵用)	85cm	ピンタイプ
	-	70cm	-

外付 SCSI インタフェース対応機器用ケーブル (Bチャネル標準内蔵)

- Narrow 対応用 SCSI インタフェース機器接続ケーブル

型番	コネクタ形状	ケーブル長	添付終端BOX
PC-MA-K05	フルピッチピンタイプ → フルピッチピンタイプ (内蔵用)	110cm	ピンタイプ
PC-MA-K07	フルピッチピンタイプ → フルピッチピンタイプ (内蔵用)	85cm	ピンタイプ

以下の SCSI 接続ケーブルを使う場合は、別売の SCSI インタフェース変換アダプタ (PC-9821-K14) が必要になります。

 **チェック!!** Wide から Narrow に変換した場合は、再度 Wide には絶対に変換しないでください。データが破壊されるおそれがあります。

型番	コネクタ形状	ケーブル長	添付終端BOX
SV-98/2-K02	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチベローズ	90cm	ベローズタイプ
SV-98/2-K03	ハーフピッチベローズ → ハーフピッチベローズ	50cm	-
PC-CA507	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	90cm	ピンタイプ
PC-CA508	ハーフピッチベローズ → ハーフピッチベローズ	90cm	ピンタイプ
PC-CA509	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	50cm	-
PC-CA510	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチベローズ	50cm	-
PC-CA511	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	90cm	-
PC-CA512	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	50cm	-
PC-HD1000G PC-HD2000G 装着添付ケーブル	ハーフピッチピンタイプ → ハーフピッチピンタイプ	90cm	ピンタイプ

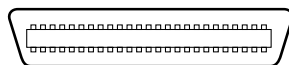
 **チェック!!** 上記以外の SCSI 接続ケーブルは使用しないでください。

ケーブルのコネクタ形状

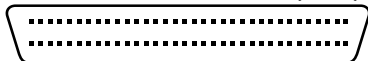
● 50ピンハーフピッチピンタイプ



● 50ピンハーフピッチベローズタイプ



● 68ピンハーフピッチピンタイプ (Wide)



● SCSI インタフェース機器

型 番	装置の種類	装置内ケーブル長	外付け/内蔵ベイ
PC-HD170	ハードディスクドライブ (固定ディスクドライブ)	30cm	外付け
PC-HD240E			
PC-HD340E			
PC-HD540E			
PC-HD540E2			
PC-HD720E			
PC-HD1000E			
PC-HD1000E2			
PC-HD2000E			
PC-HD1000G			
PC-HD2000G			
PC-HD2000UE*			
PC-HD4000UE*			
PC-HD4000UE/W**			
PC-HD2000UD*		0cm	5インチベイ
PC-HD4000UD*			
PC-HD4000UD/W**			内蔵3.5インチベイ
PC-HD4000UT/W**			
PC-CD180	CD-ROM ユニット	15cm	外付け
PC-CD600		45cm	
PC-CD60/7		30cm	
PC-CD800			
PC-OD302	光ディスクユニット	25cm	
PC-OD302R			
PC-ODX	PDユニット	30cm	
PC-ODX66			
PC-BK4000	DATユニット	26cm	
PC-BK8000H		27cm	

上記表中のUltra SCSIインタフェース機器

* : Narrow

* * : Wide

● 終端 BOX

型 番	形 状
PC-CA591	Narrow対応ピンタイプ
PC-CA592	Wide対応ピンタイプ

接続時の注意

本機に SCSI インタフェース機器を接続するときには、あらかじめ次のことを注意してください。

● 接続できる SCSI インタフェース機器の台数

- ・ 接続できる SCSI インタフェース機器の台数は、1 チャネルあたりのケーブルの総線長(最大300cm 以内)によって制限されます。「接続できる機器について」を参照し、以下の式にしたがって接続するケーブルの総延長から接続できる機器の台数を確認してください。

(全接続ケーブル長の合計) + (接続する SCSI インタフェース機器の装置内ケーブル長の合計) $\leq$ 300cm / (A 又は B チャネル)

- ・ Ultra に設定した Ultra SCSI インタフェース機器を 4 台以上接続する場合は、ケーブルの総延長は 150cm 以内にしてください。

● 終端の設定

ファイルベイ用 SCSI インタフェース機器を接続する場合は、終端を常に OFF にしてください。外付け用 SCSI インタフェース機器を接続する場合は、最後に接続する SCSI インタフェース機器のマニュアルにしたがって必ず SCSI コネクタに終端 BOX を取り付けてください。SCSI インタフェース機器内部に終端機能があるものについては、SCSI インタフェース機器内部の終端機能(ターミネータ)を OFF にして終端 BOX を取り付けてください。

● SCSI ID No. の設定

本機の Ultra SCSI (Wide 対応) インタフェースの SCSI ID No. と内蔵終端は、次のように設定されています。

SCSI ID No.=7、終端の設定=ON

ファイルベイ増設用 SCSI インタフェース対応機器や、外付け用 SCSI インタフェース対応機器は、SCSI ID No. を上記以外の値に設定して使用してください。

● 詳細な設定

本機に SCSI インタフェース機器を接続するときに、接続する台数や種類によっては、本機に内蔵されている Ultra SCSI インタフェース (Wide 対応) の設定ユーティリティ「SCSI SELECT」で設定を変更する必要があります。SCSI SELECT の使用方法については『SCSI SELECT 操作説明書』をご覧ください。

SCSI インタフェース機器の接続

■ ファイルベイ用 SCSI インタフェース機器の接続

ケーブルの種類

内蔵3.5インチベイ、5インチベイに増設するSCSI インタフェース機器を接続するケーブルは、以下の4種類があり、増設できる台数により2つに分けられます。

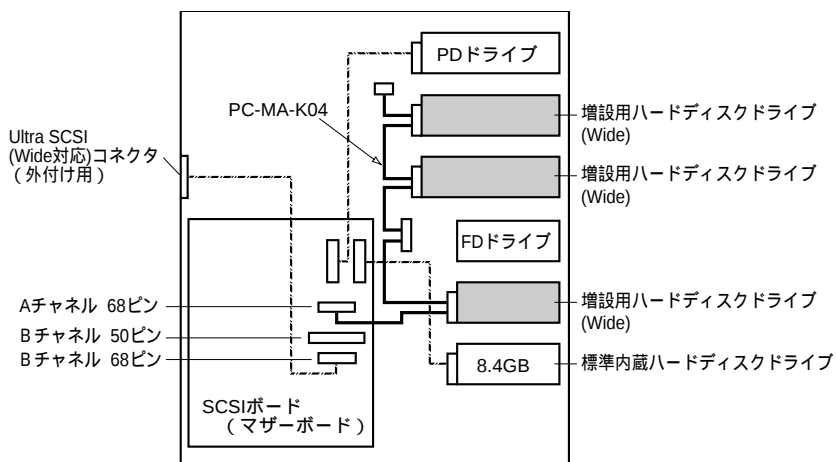
SCSI インタフェース機器を最大4台増設できるケーブル

- ・内蔵 SCSI 機器接続ケーブル (Wide 対応) :PC-MA-K04 (68ピン)
- ・内蔵 SCSI 機器接続ケーブル :PC-MA-K05 (50ピン)

SCSI インタフェース機器を最大2台増設できるケーブル

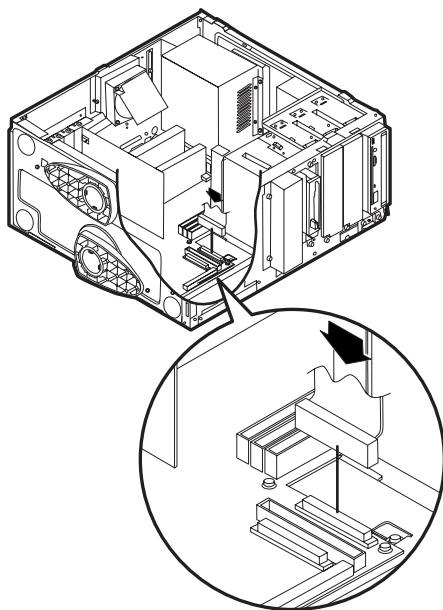
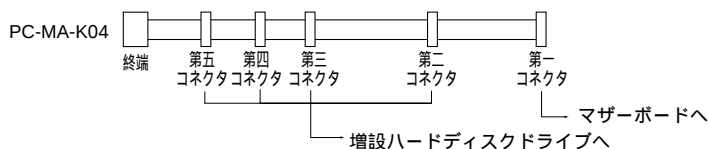
- ・デュプレックスケーブル (Wide 対応) :PC-MA-K06 (68ピン)
- ・デュプレックスケーブル :PC-MA-K07 (50ピン)

内蔵 SCSI 機器接続ケーブル (PC-MA-K04) の接続例と取り付け



- 1 「ファイルベイオプションの増設」の手順で内蔵3.5インチベイ、5インチベイにハードディスクドライブを取り付ける (P.64)

2 内蔵 SCSI 機器接続ケーブル (Wide 対応) の第一コネクタを、マザーボード上の A チャンネルの SCSI コネクタに接続する



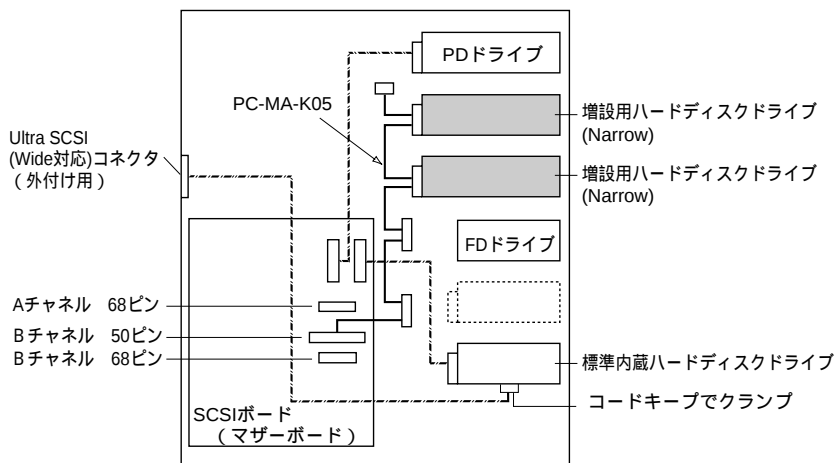
3 内蔵 SCSI 機器接続ケーブル (Wide 対応) の第二、第四、第五コネクタを増設したハードディスクドライブに接続する

PD ドライブを取り外し、増設ハードディスクドライブを取り付けることで、最大 4 台接続可能となります。

4 増設した各ハードディスクドライブに電源ケーブルを接続する

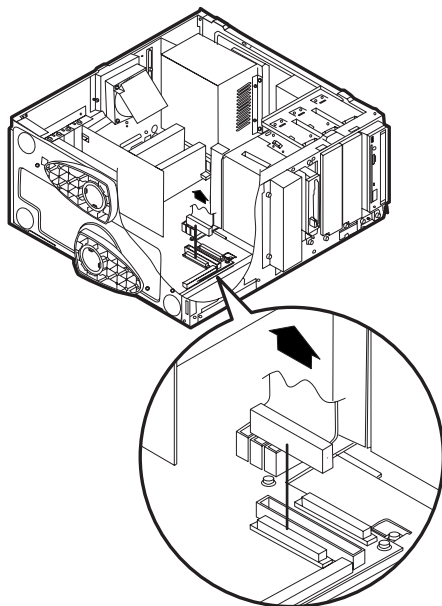
5 フロントマスク、ルーフカバーを取り外した時と逆の手順で取り付ける

内蔵 SCSI 機器接続ケーブル(PC-MA-K05)の接続例と取り付け

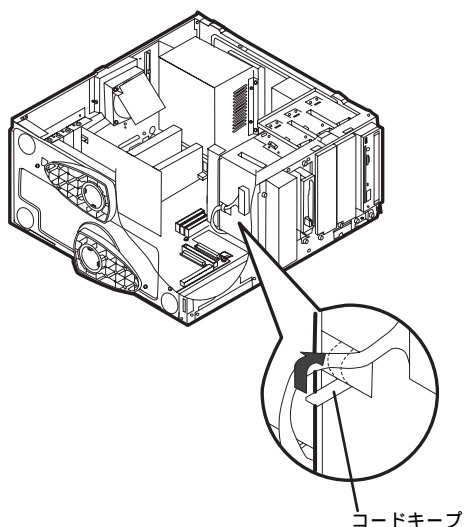


1 「ファイルベイオプションの増設」の手順で内蔵3.5インチベイ、5インチベイにハードディスクドライブを取り付ける (P.64)

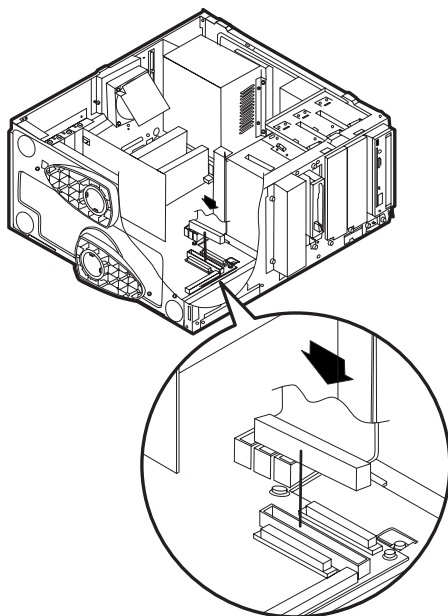
- 2** マザーボード上のBチャンネル68ピンのSCSIコネクタに接続されているSCSIケーブルを取り外す



- 3** 取り外したSCSIケーブルを標準内蔵ハードディスクドライブの下に取り付けてあるコードキープでクランプする



4 内蔵 SCSI 機器接続ケーブルの第一コネクタを、マザーボード上の B チャンネルの 50 ピンの SCSI コネクタに接続する

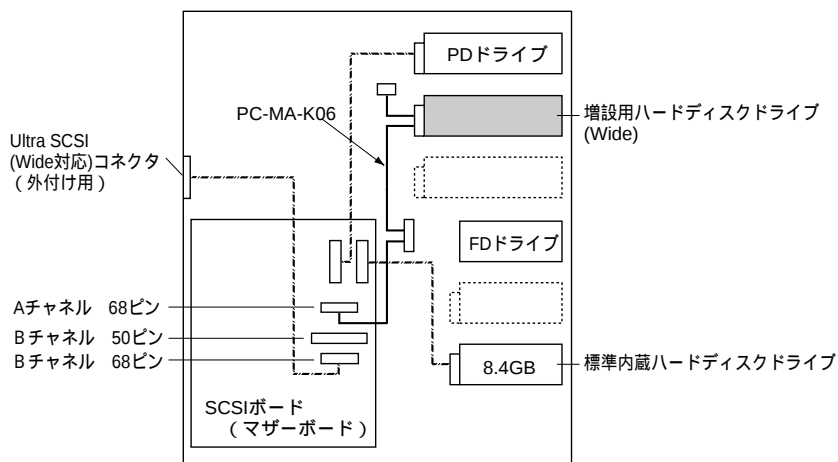


5 内蔵 SCSI 機器接続ケーブルの第四、第五コネクタを増設したハードディスクドライブに接続する

6 増設した各ハードディスクドライブに電源ケーブルを接続する

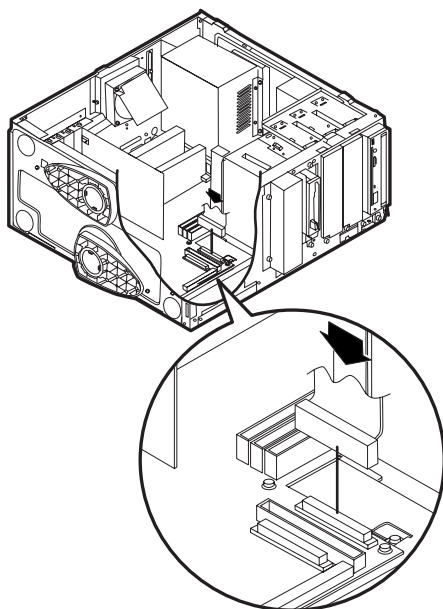
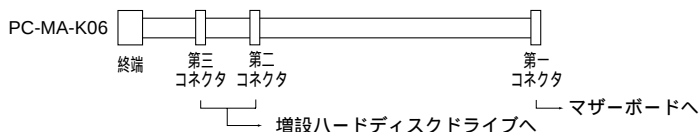
7 フロントマスク、ルーフカバーを取り外した時と逆の手順で取り付ける

デュプレックスケーブル(PC-MA-K06)の接続例と取り付け



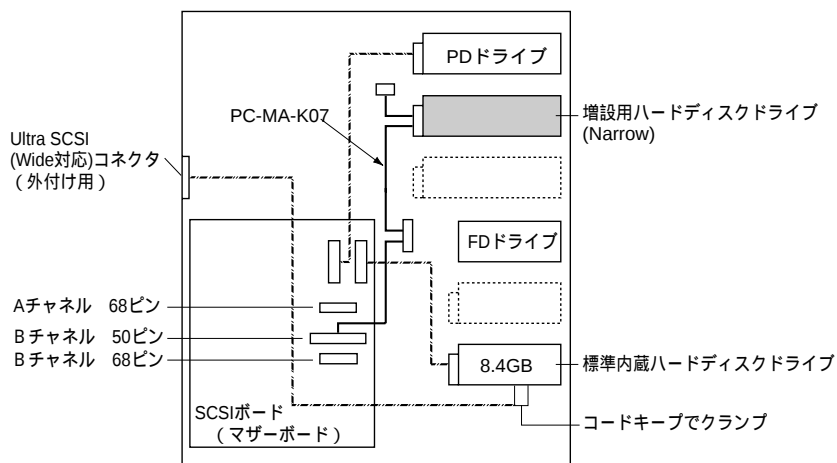
1 「ファイルベイオプションの増設」の手順で5インチベイにハードディスクドライブを取り付ける (P.64)

2 デュプレックスケーブル(Wide 対応)の第一コネクタを、マザーボード上の A チャンネル 68 ピンの SCSI コネクタに接続する



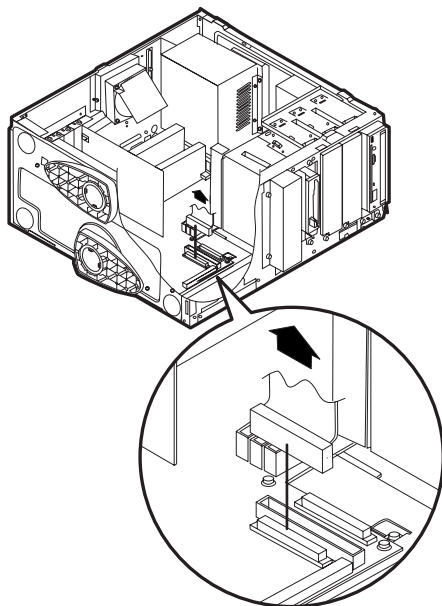
- 3 デュプレックスケーブル(Wide対応)の第二又は第三コネクタを 5 インチベイに増設したハードディスクドライブに接続する
- 4 増設した各ハードディスクドライブに電源ケーブルを接続する
- 5 フロントマスク、ルーフカバーを取り外したときと逆の手順で取り付ける

デュプレックスケーブル(PC-MA-K07)の接続例と取り付け

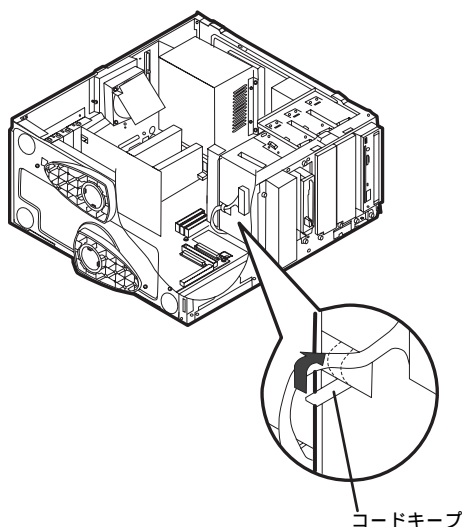


1 「ファイルベイオプションの増設」の手順で5インチベイにハードディスクドライブを取り付ける (P.64)

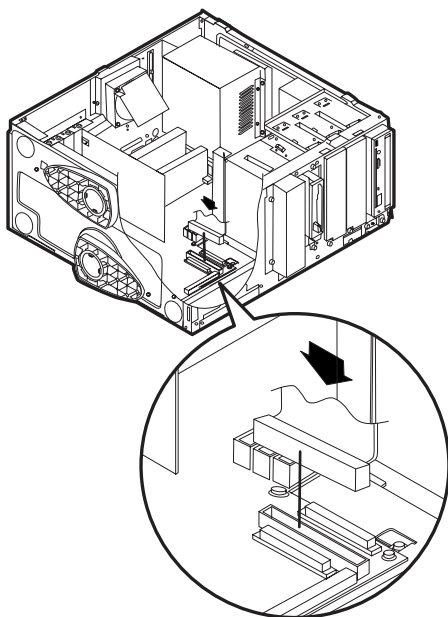
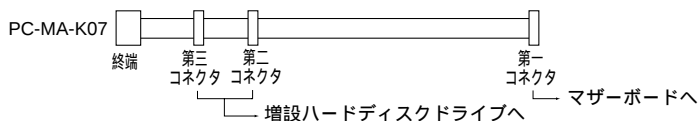
- 2** マザーボード上のBチャンネル68ピンのSCSIコネクタに接続されているSCSIケーブルを取り外す



- 3** 取り外したSCSIケーブルを標準内蔵ハードディスクの下に取り付けてあるコードキープでクランプする



4 デュプレックスケーブルの第一コネクタを、マザーボード上の B チャンネル 50 ピンの SCSI コネクタに接続する



5 デュプレックスケーブルの第二または第三コネクタを5インチベイ に増設したハードディスクドライブに接続する

6 増設した各ハードディスクドライブに電源ケーブルを接続する

7 フロントマスク、ルーフカバーを取り外した時と逆の手順で取り付 ける

■ 外付け SCSI インタフェース機器の接続

増設しようとしている外付け SCSI インタフェース機器のマニュアルをご覧ください。なお、内蔵 SCSI 機器接続ケーブル(PC-MA-K05)またはデュプレックスケーブル(PC-MA-K07)を利用し、更に外付け SCSI インタフェース機器を接続する場合は、以下の作業を行ってください。

内蔵 SCSI 機器接続ケーブル(PC-MA-K05)を利用している場合

- 1 「BIOSセットアップユーティリティ」を起動し、「チャンネルBのターミネーション」を「使用しない」にする(P.102)
- 2 「ルーフカバーの取り外し」の手順で、ルーフカバーを取り外す(P.53)
- 3 「内蔵 SCSI 機器接続ケーブル(PC-MA-K05)の接続例と取り付け」の手順2で取り外したSCSIケーブルを、コードキープから取り外し、Bチャンネル68ピンのSCSIコネクタに接続しなおす(P.86)
- 4 ルーフカバー取り外した時と逆の手順で取り付ける
- 5 外付けSCSIインタフェース用ケーブル、機器を取り付ける

デュプレックスケーブル(PC-MA-K07)を利用している場合

- 1 「BIOSセットアップユーティリティ」を起動し、「チャンネルBのターミネーション」を「使用しない」にする(P.102)
- 2 「ルーフカバーの取り外し」の手順で、ルーフカバーを取り外す(P.53)
- 3 「デュプレックスケーブル(PC-MA-K07)の接続例と取り付け」の手順2で取り外したSCSIケーブルを、コードキープから取り外し、Bチャンネル68ピンのSCSIコネクタに接続しなおす(P.91)
- 4 ルーフカバー取り外した時と逆の手順で取り付ける
- 5 外付けSCSIインタフェース用ケーブル、機器を取り付ける

システム設定

この章では、BIOS セットアップユーティリティについて説明します。BIOS セットアップユーティリティでは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の内容

BIOS セットアップユーティリティについて	96
パスワードの設定	105

BIOS セットアップユーティリティについて

本機には、使用環境を設定するためのアプリケーションとしてBIOS セットアップユーティリティがインストールされています。BIOSセットアップユーティリティを使って、セキュリティ、デバイス、省電力などの設定を簡単に行うことができます。

BIOS セットアップユーティリティで設定できること

- ・セキュリティ
パスワード・I/Oロックの設定
- ・デバイス
IDE デバイス、フロッピーディスクドライブ、通信、キーボードなどのデバイス設定
- ・省電力
パワーマネージメント、スリープ、レジュームの設定
- ・起動
起動デバイスの起動順位の設定

- ✓ **チェック!!**
- ・IDE デバイス（ハードディスク、PD ドライブなど）のデバイスタイプ、シリンダ数などは通常自動的に認識し、設定しています。手動設定を行う必要がある場合は、電源を入れた直後に表示される「NEC」のロゴの画面で【F2】を押し、次に【→】を押し、「BIOS セットアップメニュー」を立ち上げて設定変更してください。
 - ・BIOSセットアップユーティリティ動作時に「BIOS設定情報が不正です」を表示した場合、電源を入れた直後に表示される「NEC」のロゴの画面で【F2】を押し、キーの説明が表示されましたら、次に【F9】を押して、デフォルト設定（工場出荷時の設定）にした後、再度BIOS セットアップユーティリティにて設定を変更してください。尚、BIOS セットアップユーティリティで設定したパスワードは初期値に戻りません。
 - ・BIOSセットアップユーティリティで変更した設定は、システム再起動後に有効となります。
 - ・「スーパーバイザパスワード」、「ユーザーパスワード」が設定されている場合、本ユーティリティ起動時にもパスワードの入力が必要となります。また、「ユーザーパスワード」で起動した場合、後述の「設定項目一覧」で（ ）マークがついている項目のみ変更できます。
 - ・Administrator 権限を持たないユーザーは、BIOS セットアップユーティリティを起動できません。

BIOS セットアップユーティリティを使う

BIOS セットアップユーティリティを起動する

- 1 「スタート」→「プログラム」→「BIOS セットアップユーティリティ」を選ぶ
「BIOS セットアップユーティリティ」が起動します。



BIOS セットアップユーティリティを操作する

- 1 「セットアップ」メニューをクリックし、設定したい項目をクリック
ツールバーから設定したい項目のアイコンをクリックして設定画面を表示させることもできます。
- 2 設定画面が表示されたら、各項目の設定を変更する
各項目の設定について詳しくは、設定項目一覧をご覧ください。
- 3 設定が終了したら「OK」ボタンをクリック
- 4 更新するかどうかメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 5 設定したい項目をすべて設定したら、「ファイル」メニューをクリックして「設定の保存と再起動」または「アプリケーションの終了」をクリック

✓チェック!! BIOSセットアップユーティリティで設定した内容は、本機を再起動したあとと有効になります。

設定項目一覧

✓ **チェック!!** 各設定項目に関する詳しい説明はヘルプをご覧ください。

セキュリティの設定

メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」を選ぶか、ツールバーのセキュリティのアイコンをクリックして設定画面を開きます。

■ パスワード

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
ユーザーパスワード		ユーザーパスワードを入力します。
スーパーバイザーパスワード		スーパーバイザーパスワードを入力します。

パスワードの設定方法→「パスワードの設定」

■ I/O ロック

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
FDD インターフェイス	ロックする / ロックしない	FDD インターフェイスの I/O をロックするかどうかを設定します。
IDE インターフェイス	ロックする / ロックしない	IDE インターフェイス(プライマリ)の I/O をロックするかどうかを設定します。
シリアルポート(A)	ロックする / ロックしない	シリアルポート(A) の I/O をロックするかどうかを設定します。
シリアルポート(B)	ロックする / ロックしない	シリアルポート(B) の I/O をロックするかどうかを設定します。
パラレルポート	ロックする / ロックしない	パラレルポートの I/O をロックするかどうかを設定します。

✓ **チェック!!** IDE インタフェースをロックすると、IDE デバイス(ハードディスク、PDドライブなど)が使用できなくなります。その場合、電源を入れた直後に表示される「NEC」のロゴの画面で、【F2】を押し、キーの説明が表示されましたら、次に【F9】を押してデフォルト設定(工場出荷時の設定)に戻してください。

デバイスの設定

メニューバーの「セットアップ」→「デバイス」を選ぶか、ツールバーの各デバイスをクリックして設定画面を開きます。

■ IDE デバイス

プライマリマスタ、プライマリスレーブ、セカンダリマスタ、セカンダリスレーブの各 IDE 装置について、以下の設定を行います。

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
BLK モード設定	有効 / 無効	BLK モードを有効にするか無効にするかを設定します。
BLK モード	2セクタ転送 / 4セクタ転送 / 8セクタ転送 / 16セクタ転送	何セクタ単位で転送するかを設定します。
転送モード	FastPIO1 / FastPIO2 / FastPIO3 / FastPIO4 / Standard / FPIO3&BM / FPIO4&BM FPIOは、FastPIO、BMは、Bus Mastering を意味します。	転送モードを設定します。
LBA モード	有効 / 無効	LBA モードを有効にするか無効にするかを設定します。
UltraDMA 設定	有効 / 無効	UltraDMA を有効にするか無効にするかを設定します。
UltraDMA	モード0 / モード1 / モード2	UltraDMA モードを設定します。

■ FDD

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
フロッピーディスクドライブ	使用しない / 使用する	フロッピーディスクドライブを使用するかどうかを設定します。
タイプ	360KB 5.25 " / 720KB 3.5 " / 1.2MB 5.25 " / 1.44MB 3.5 "	フロッピーディスクドライブのモードを設定します。
フロッピーライトプロテクト	使用しない / 使用する	BIOS によるフロッピーディスクへの書き込み禁止機能を使用するかどうかを設定します。

■ 通信

シリアルポート(A)

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
設定方法	使用しない / 手動設定 / 自動設定	設定方法を指定します。「手動設定」を選んだ場合のみ以降の I/O アドレス、割り込みレベルの設定が必要です。
I/O アドレス	2E8h/3F8h/2F8h/3E8h	I/O アドレスを設定します。
割り込みレベル	IRQ3/IRQ4	割り込みレベルを設定します。

シリアルポート(B)

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
設定方法	使用しない / 手動設定 / 自動設定	設定方法を指定します。「手動設定」を選んだ場合のみ以降の I/O アドレス、割り込みレベルの設定が必要です。
I/O アドレス	2E8h/3F8h/2F8h/3E8h	I/O アドレスを設定します。
割り込みレベル	IRQ3/IRQ4	割り込みレベルを設定します。
モード	ノーマル / IrDA/ASK-IR	シリアルポート(B)を赤外線通信で使用する場合、赤外線通信の規格に応じてモードを変更します。

■ パラレルポート

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
設定方法	使用しない / 手動設定 / 自動設定	設定方法を指定します。「手動設定」を選んだ場合のみ以降のI/Oアドレス、割り込みレベルの設定が必要です。
I/O アドレス	378h/278h/3BCh/228h	I/O アドレスを設定します。
割り込みレベル	IRQ5/IRQ7	割り込みレベルを設定します。
モード	ECP/EPP/ 双方向 / 出力のみ	出力モードを設定します。
ECP モードDMAチャンネル	DMA#1/DMA#3	「モード」設定でECPモードを設定した場合、ここでDMAチャンネルの状態を設定します。

■ キーボード

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
起動時のNum Lock	使用しない / 使用する / 自動設定	起動時に Num Lock を有効にするかどうかを設定します。「自動設定」を選ぶとシステムが自動的に状態の設定を行います。

■ システムデバイス

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明	
日付設定	(日付設定)	日付を設定します。	()
時刻設定	(時刻設定)	時間を設定します。	()
SCSI	使用しない / 使用する	SCSI I/Fを使用するかどうかを設定します。	
チャンネル B の ターミネーション	使用しない / 使用する	SCSI のチャンネル B をターミネーションするかどうかを設定します。	

省電力の設定

メニューバーの「セットアップ」→「省電力」をクリックするか、ツールバーの省電力のアイコンをクリックして設定画面を開きます。

■ パワーマネージメント

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
パワーマネージメント	使用しない / 使用する	省電力(パワーマネージメント)機能を使用するかどうか設定をします。「使用する」を選んだときのみ以降の設定が可能になります。
自動スリープ制御 / 開始時間	使用しない / 使用する→ 自動スリープ開始時間:1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 12分 / 16分	「使用する」を選んだ場合、開始時間を設定します。コンピュータが動作しない状態で設定した時間が経過するとサスペンドします。
HDD モータ制御 / 開始時間	使用しない / 使用する	「使用する」を選んだ場合、ハードディスクへのアクセスがなくなってから一定の時間が経過するとハードディスクのモータを停止します。
画面制御	使用しない / 使用する	「使用する」を選んだ場合、コンピュータが動作しない状態で一定の時間が経過すると、画面表示を停止します。

■ レジューム

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
モデム受信で パワーオン	使用しない / 使用する	シリアルポートからの信号受信でパワーオンするかどうかを設定します。
LAN 受信で パワーオン	使用しない / 使用する	LANからの信号受信でパワーオンするかどうかを設定します。

システムディスクの起動順位の設定

メニューバーの「セットアップ」→「起動」を選ぶか、ツールバーの起動のアイコンをクリックして設定画面を開きます。

設 定 項 目	設 定 内 容	説 明
起動順位	ハードディスク / CD-ROM / ネットワーク / リムーバブルメ ディアデバイス	システムを起動するディスク装 置の順番を指定します。起動 順位1に指定したディスク装置 から順番に起動されます。

パスワードの設定

本機の電源を入れたとき、パスワードの入力を行わないと本機を起動できないようにするセキュリティ機能を設定することができます。これによりパスワードを知らない部外者からデータを守ることができます。

BIOSセットアップユーティリティでは、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの2種類のパスワードを設定することができます。スーパーバイザーパスワードはコンピュータ管理者のためのもので、コンピュータ管理者以外の人が不用意にシステム環境を変更できないようにすることができます。

パスワードに使用できる文字と記号について

半角英数字がパスワードとして使用できます。パスワードは7文字以内でなければなりません。

使用できる文字や記号

半角英字	A-Z (a-z は A-Z と同じ)
半角数字	0-9

✓ **チェック!!** パスワード入力時はテンキーを使用しないでください。

スーパーバイザーパスワードの設定

スーパーバイザーパスワードの登録

次の手順でスーパーバイザーパスワードを登録します。

- 1 メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック
「パスワード」のウィンドウが表示されます。
- 2 「スーパーバイザーパスワード」の「設定」をクリック
「パスワード設定」のウィンドウが表示されます。
- 3 「パスワード」に用意した7文字以内のスーパーバイザーパスワードを入力する

4 「パスワードの確認」にもう一度同じパスワードを入力する

5 入力したら「OK」ボタンをクリック

スーパーバイザーパスワードの変更

次の手順でスーパーバイザーパスワードを変更します。

1 メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック
「パスワード」ウインドウが表示されます。

2 「スーパーバイザーパスワード」の「設定」をクリック
「パスワード設定」ウインドウが表示されます。

3 「古いパスワード」に今まで使っていたスーパーバイザーパスワードを入力する
このとき入力を間違えると、エラーメッセージが出て、パスワード入力画面が再び表示されます。パスワードの入力をやり直してください。

4 「新しいパスワード」に変更したスーパーバイザーパスワードを入力する

5 「パスワードの確認」にもう一度「新しいパスワード」に入力した
ものと同じパスワードを入力する

6 入力したら「OK」ボタンをクリック

ユーザーパスワードの設定

ユーザーパスワードの登録

次の手順でユーザーパスワードを登録します。

 **チェック!!** ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定しないと設定できません。

- 1 メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック
「パスワード」のウィンドウが表示されます。
- 2 ユーザーパスワードの「設定」をクリック
「パスワード設定」ウィンドウが表示されます。
- 3 「パスワード」に用意した7文字以内のユーザーパスワードを入力する
- 4 「パスワードの確認」にもう一度同じパスワードを入力する
- 5 入力したら「OK」ボタンをクリック

ユーザーパスワードの変更

次の手順でユーザーパスワードを変更します。

- 1 メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック
「パスワード」のウィンドウが表示されます。
- 2 「ユーザーパスワード」の「設定」をクリック
「パスワード設定」ウィンドウが表示されます。
- 3 「古いパスワード」に今まで使っていたユーザーパスワードを入力する
このとき入力を間違えると、エラーメッセージが出て、パスワード入力画面が再び表示されます。パスワードの入力をやり直してください。
- 4 「新しいパスワード」に変更したユーザーパスワードを入力する
- 5 「パスワードの確認」にもう一度「新しいパスワード」に入力した
ものと同じパスワードを入力する
- 6 入力したら「OK」ボタンをクリック

パスワード入力時の注意

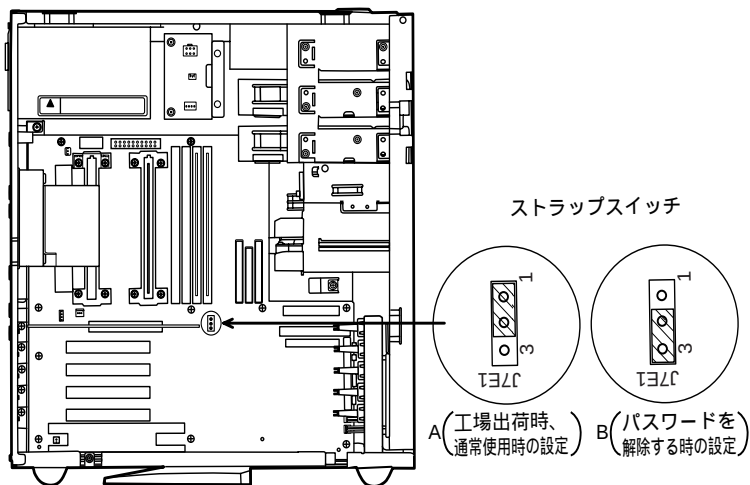
パスワードを設定すると、本機の電源を入れるたびに「パスワードを入力してください」と表示されます。次のようにパスワードを入力してください。

- 1 登録したパスワードを入力し、【Enter】を押す
テンキーは使用できません。

パスワードの解除

本機では、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法でパスワードを解除することができます。

パスワード解除は、本機内部のストラップスイッチを使います。



- 1 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを取り外す
(P.53)
- 2 ストラップスイッチのジャンパを引き抜き、図 B の位置にする
- 3 ルーフカバーを取り外したときと逆の手順で取り付ける
- 4 電源を入れる
- 5 BIOS Setup Utility 画面が表示される

BIOS Setup Utility	
Maintenance Main Advanced Security Power Boot Exit	
Processor Speed [300 MHz] Clear All Passwords [Enter]	Item Specific Help Clear both User and Administrative passwords
F1 Help ↑ ↓ Select Item -/+ Change Values F9 Setup Defaults ESC Exit ← → Select Menu Enter Execute Command F10 Save and Exit	

- 6 【↓】を押してカーソルを Clear All Passwords [Enter] に合わせ、【Enter】を押す
- 7 Clear All Passwords Now? が表示されたら [Yes] を選択して【Enter】を押す

Setup Confirmation
Clear All Passwords Now? [Yes] [No]

- 8** 【F10】を押して、Save configuration changes and exit now?
が表示されたら、[Yes]を選択して【Enter】を押す

Setup Confirmation
Save configuration changes and exit now?
[Yes] [No]

- 9** 次の画面が表示されたら、電源を切ります

Jumper must be returned to normal position
for setting to take effect.
It is safe to turn the system off now.

- 10** 「ルーフカバーの取り外し」の手順でルーフカバーを取り外す(P.53)
- 11** ストラップスイッチのジャンパを引き抜き、図 A の位置にする
- 12** ルーフカバーを取り外したときと逆の手順で取り付ける

添付アプリケーションの概要 と削除 / 再追加

本機に標準でインストールされているアプリケーションの概要と削除方法および削除したアプリケーションの再追加方法について説明します。削除と再追加をする場合、Windows NT Workstationおよびインストールされているアプリケーションについての知識が必要になります。

この章の内容

この章の構成	112	Microsoft NetMeeting	134
知っておきたい便利な機能とツール	115	Internet Explorer 3.02	136
一太郎 Office8		VirusScan for Windows NT	139
(一太郎モデルのみ)	116	NEC Soft MPEG1.0	143
Word 97/Excel 97/Outlook 97		DMITool	146
(Word モデルのみ)	121	pcANYWHERE32 EX	150
Internet Explorer 4.0	125	Masty Data Backup	152
Outlook Express	132	Timer-NX	155

この章の構成

この章では各アプリケーションの概要と削除、再追加について説明します。

- **チェック!!** ・各アプリケーションの削除と再追加は、必ずAdministrator権限を持ったユーザでログインして行ってください。
- ・各アプリケーションの削除と再追加を行う前に、必ず「スタート」→「プログラム」→「補足説明」をお読みください。
- ・本機でお使いのPDDドライブは、Windows NT 4.0 上でリムーバブルディスクドライブとCD-ROMドライブの2つのドライブとして表示されます。
CD-ROMをセットしたドライブを指定するときは、CD-ROMドライブ名を指定してください。

ヘルプについて

- **チェック!!** ・各アプリケーションにはヘルプ機能があります。
- ・用語、操作の方法や手順など、分からないことがおきたときに活用します。

ヘルプの起動方法

- 1 各アプリケーションの「メニューバー」にある「ヘルプ」をクリック
「ヘルプ」が表示されます。

概要について

- ・アプリケーションの起動方法、主画面などについて概略を説明します。

削除について

- ・本機に標準でインストールされているアプリケーションの削除の手順を説明します。
- ・ご自分でインストールされたアプリケーションの削除については、そのアプリケーションに添付されたマニュアルをご覧ください。
- ・次のような場合にアプリケーションを削除してください。
ハードディスクの空き容量を増やしたい場合。
通常使わないアプリケーションがある場合。
- ・一部のアプリケーションでは、下記の「削除の準備」を行ってから削除します。

- ✓ **チェック!!** ・削除する場合は、ご利用にならないことをよくご確認の上、削除してください。
- ・CD-ROMを使用して削除する場合は、終了後にCD-ROMをPDドライブから取り出してください。

削除の準備

- ・コントロールパネルを使って削除する場合は、以下の手順を行ってください。
- ・CD-ROMを使用する場合と、アプリケーションのアンインストール機能を使う場合は必要ありません。

- 1 Windows NT を起動する
- 2 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3 「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。

この後、各アプリケーションの削除方法でアプリケーションを削除してください。

- ✓ **チェック!!** ・削除したとき、アプリケーションによってはディレクトリおよびデスクトップやスタートメニューにショートカットが残る場合があります。その状態でも、本機を操作する上では支障ありません。
- ・アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法にしたがって操作してください。

アイコン削除の準備

- ・アプリケーションを削除した後、デスクトップに残ったアイコンを削除する場合、アイコンを削除する前に、次の手順を行ってください。

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Windows NT エクスプローラ」をクリック
- 2 「表示」→「フォルダオプション」をクリック
- 3 「表示」をクリックし、「ファイルの表示」で「すべてのファイルを表示する」をクリック

4 「OK」ボタンをクリック

この後、各アプリケーションの削除方法でアイコンを削除します。

再追加について

- ・本機でインストールされているアプリケーションを削除した後再追加する場合の手順を説明します。
- ・一部のアプリケーションでは、下記の「再追加の準備」を行ってから再追加します。

 **チェック!!** 終了後に CD-ROM を PD ドライブから取り出してください。

再追加の準備

- 1 Windows NT を起動
- 2 PDドライブに、添付の「バックアップ CD-ROM (OSを除く)」をセット
- 3 フロッピーディスクドライブに、添付の「バックアップ CD-ROM (OSを除く)用インストールディスク」をセット
- 4 「スタート」→「プログラム」→「コマンドプロンプト」をクリック
この後、各アプリケーションの再追加方法でアプリケーションを再追加してください。

「Microsoft® Windows NT®4.0 日本語版 Service Pack 3」について

本機には「Microsoft® Windows NT® 4.0 日本語版 Service Pack 3」(以下 Service Pack 3)がインストールされています。

新しいコンポーネントを追加または変更した場合は、再度 Service Pack 3 をインストールする必要があります。

詳細およびインストール方法は、Service Pack 3 の CD-ROM のルートディレクトリにある README.TXT をご覧ください。

 **チェック!!** ・ファイルコピー中に「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選んでください。

知っておきたい便利な機能とツール

機能

アプリケーション

- 文章を作成する Word 97・一太郎 8
- HTMLを作成する Word 97・一太郎 8
- 表計算する Excel 97・三四郎 8
- 予定やスケジュールを管理する Outlook 97・FullBand
- 住所録を作る
- ファイルを管理する
- 社内にメールを発信する
- インターネットへ接続する Internet Explorer
- ソフトをダウンロードする
- 電子メールを送受信する
- インターネットの情報を管理する
- コンピュータウイルスを検出して除去する VirusScan for Windows NT
- 遠隔地からパソコンを操作する pcANYWHERE32 EX
- 本機や本機と接続されているパソコンの情報を管理する DMITOOL
- データのバックアップをとる Mastly Data Backup

一太郎 Office 8 (一太郎モデルのみ)

概要

文章作成に一太郎8、表計算に三四郎8、情報管理にFullBandを使用します。

起動方法

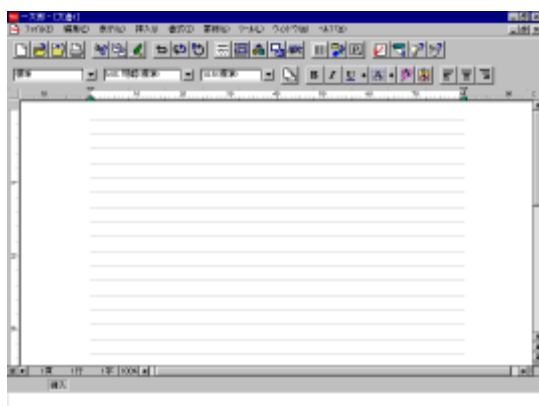
ここでは一太郎8で説明しています。三四郎8とFullBandは本文中の「一太郎8」をそれぞれに置き換えてください。

- 1 「スタート」→「プログラム」→「JUSTSYSTEM アプリケーション」の「一太郎8(三四郎8/FullBand)」をクリック
一太郎8(三四郎8/FullBand)のウィンドウが表示されます。

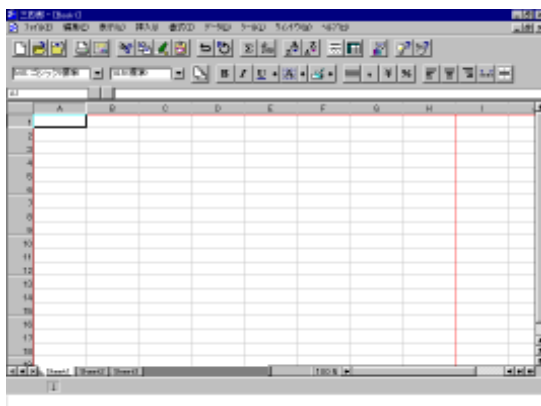
初回の起動時には使用許諾画面が表示されます。

主画面

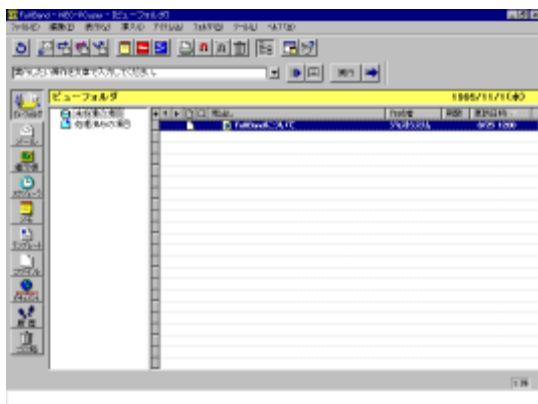
一太郎8の初期ウィンドウ



三四郎8の初期ウィンドウ



FullBandの初期ウィンドウ



削除

一太郎8が常駐している場合は、必ず常駐を解除してから削除してください。
常駐解除の方法は添付の一太郎 Office マニュアルをご覧ください。

1 「削除の準備」の手順1～3を実行(P.113)

- 2 「インストールと削除」の一覧から「JUSTSYSTEM アプリケーションの追加と削除」をクリック(反転表示)し「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「一太郎 Office8 のセットアップ開始」と表示されたら「次へ」ボタンをクリック
- 4 「一太郎 Office8 の追加と削除」で「ファイルの追加・削除」を選び「次へ」ボタンをクリック
- 5 「一太郎 Office8 のファイルを追加・削除します」で「ファイルの削除」を選び「次へ」ボタンをクリック
- 6 「削除するファイルを選択します」が表示されたら「全て選択」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 7 「ジャストシステム共通ファイル(32bit)も削除しますか?」と表示されたら「削除しない」をクリック
- 8 「ATOK11 を Windows や他のアプリケーションが使用しているためコンピュータを再起動するときに削除されます。」と表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 9 「フォルダ名を確認してください1/3」で「次へ」ボタンをクリック
- 10 「フォルダ名を確認してください2/3」で「次へ」ボタンをクリック
- 11 「フォルダ名を確認してください3/3」で「次へ」ボタンをクリック
- 12 「ファイルの削除を開始します」で「削除開始」ボタンをクリック
削除が始まります。
- 13 「一太郎 Office8 のセットアップ終了」で「再起動」ボタンをクリック

- 1 PDドライブに「一太郎 Office8 CD-ROM」をセットする
- 2 「Welcome to JUSTSYSTEM」で「SETUP Office8 のセットアップ」をクリック
- 3 「一太郎 Office8 のセットアップ」で「セットアップ開始」ボタンをクリック
- 4 「使用許諾契約の確認」で「確認」ボタンをクリック
- 5 「一太郎 Office8 のセットアップ開始」で「次へ」ボタンをクリック
- 6 「使用者名・法人名を登録します」が表示されたら必要事項を入力し「次へ」ボタンをクリック
- 7 「シリアルナンバー・UserIDを登録します」と表示されたら入力して「次へ」ボタンをクリック
- 8 「使用者名・シリアルナンバーの確認」で「登録する」ボタンをクリック
- 9 「セットアップ方法を選択します」が表示されます。ここでは「標準」を選び「次へ」ボタンをクリック
- 10 「標準モードでセットアップすると...」で「次へ」ボタンをクリック
- 11 「セットアップするフォルダを設定します」で「次へ」ボタンをクリック
- 12 「ファイルのコピーを開始します」で「コピー開始」ボタンをクリック
インストールが始まります。

- 13** 「インターネットへダイヤルアップで接続しますか？」で「いいえ」を選び「OK」ボタンをクリック
- 14** 「JustNet に入会するには」で「確認」ボタンをクリック
- 15** 「一太郎Office8 セットアップ終了」と表示されたら「再起動」ボタンをクリック

Word 97/Excel 97/Outlook 97 (Word モデルのみ)

概要

文章作成に Word 97、表計算に Excel 97、情報管理に Outlook 97 を使用します。

起動方法

ここでは Word 97 で説明しています。Excel 97 と Outlook 97 は本文中の「Word 97」をそれぞれに置き換えてください。

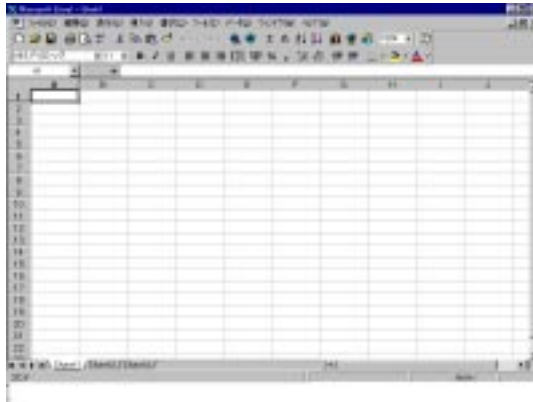
- 1 「スタート」→「プログラム」→「Microsoft Word (Excel/Outlook)」をクリック
Word (Excel/Outlook) のウィンドウが表示されます。

主画面

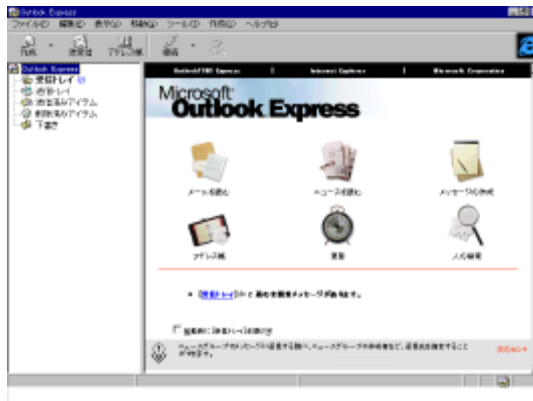
Word 97 の初期ウィンドウ



Excel 97 の初期ウィンドウ



Outlook 97 の初期ウィンドウ



削除

ここでは Word 97 で説明しています。Excel 97 と Outlook 97 は本文中の「Word 97」をそれぞれに置き換えてください。

- 1 Windows NT を起動して「Microsoft Excel 97 & Word 97 & Outlook 97 for Windows」CD-ROM をPD ドライブにセット

2 「Microsoft Excel 97 & Word 97 & Outlook 97 for Windows」が表示されたら「Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97) のセットアップ」ボタンをクリック

3 「Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97) セットアップ」で「すべて削除」をクリック

4 「Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97) を削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
削除が始まります。

✓ **チェック!!** 「共有コンポーネントの削除」が表示されたら「削除しない」をクリックしてください。

5 「Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97) のセットアップが完了しました」というメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリック
再起動のメッセージが表示されたら「再起動」をクリックします。

✓ **チェック!!** デスクトップに「Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97)」のアイコンが残った場合は、以下のファイルを削除します。
C:¥Winnt¥Profiles¥All Users¥デスクトップ¥Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97)

再追加

ここでは Word 97 で説明しています。Excel 97 と Outlook 97 は本文中の「Word 97」をそれぞれに置き換えてください。

1 Windows NT を起動し、PD ドライブに「Excel 97 & Word 97 & Outlook 97」の CD-ROM をセット

2 「Microsoft Word 97 (Excel 97/Outlook 97) のセットアップ」ボタンをクリック

- 3 「Microsoft Word 97(Excel 97/Outlook 97)セットアップ」が表示されたら「継続」ボタンをクリック
- 4 「ユーザー情報の登録」で必要事項を入力し「OK」ボタンをクリック
- 5 「ユーザー情報の確認」で「OK」ボタンをクリック
- 6 プロダクトID 番号が表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 7 「Microsoft Word 97(Excel 97/Outlook 97)を次のフォルダにセットアップします」と表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 8 セットアップ方法の選択で、「標準セットアップ」、「カスタムセットアップ」いずれかを選ぶ。ここでは「標準セットアップ」を選ぶ
- 9 「標準セットアップ」が表示されたら「継続」ボタンをクリック
インストールが始まります。
- 10 「Microsoft Word 97(Excel 97/Outlook 97)セットアップが終了しました」と表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 11 「Microsoft Word (Excel /Outlook)」のアイコンをデスクトップに作成
デスクトップ画面上でマウスを右クリックし、「新規作成」→「ショートカット」を選ぶ
「ショートカットの作成」画面で「参照」ボタンをクリック
「ファイルの参照」画面で、「Program Files」→「Microsoft Office」→「Microsoft Word (Excel /Outlook)」の順にダブルクリック
「ファイルの参照」画面に戻ったら、「次へ」ボタンをクリック
「名前の指定」画面で、「完了」ボタンをクリック

デスクトップにWord (Excel /Outlook)のアイコンが表示されます。

Internet Explorer 4.0

概要

インターネットへの接続を行い、ホームページを表示します。

起動手順

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Internet Explorer」の「Internet Explorer」をクリック

主画面



削除

- 1 「削除の準備」の手順1～3を実行(P.113)
- 2 「インストールと削除」画面の一覧から「Microsoft Internet Explorer 4.0」をクリック(反転表示)して「追加と削除」ボタンをクリック

3 「Internet Explorer 4.0 アクティブセットアップ」で「Internet Explorer 4.0とそのすべてのコンポーネントをアンインストールする」にチェックを付け、「詳細」ボタンをクリック

4 「Internet Explorer 4.0 アクティブセットアップ」で「Internet Explorer 4.0 と次のコンポーネントをアンインストールする」にチェックを付け、さらに次のコンポーネントにチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリック

Microsoft FrontPage Express
Microsoft Music Control
Microsoft NetMeeting 2.0
Microsoft Outlook Express
Microsoft VM for Java
Microsoft Web 発行ウィザード 1.51
VDOLivePlayer

5 「Internet Explorer 4.0 と共有コンポーネントを削除するには、「OK」をクリックしてください」と表示されたら「OK」ボタンをクリック

6 「Microsoft Internet Explorer 4.0 を削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
削除が始まります。削除には数分かかります。

7 「セットアップを完了するにはWindowsを再起動する必要があります」と表示されたら「Windows の再起動」ボタンをクリック

8 「自動的に閉じることのできなかったプログラムがいくつかあります」と表示されたら、実行中のプログラムでデータを処理しているものがあれば、それらのデータを保存しプログラムをすべて終了し、「OK」ボタンをクリック

9 再起動後、「警告」画面が表示される場合があります。Active Movie をご使用になる場合は「はい」ボタンを、その他のデバイスドライバをご使用になる場合は「いいえ」ボタンをクリック

10 複数のユーザを登録している場合、次のコンポーネントに対して、そのコンポーネント用の個人設定を削除するよう表示されたら、必要に応じて「はい」「いいえ」ボタンをクリック

Microsoft Internet Explorer 4.0

Microsoft Outlook Express

Microsoft NetMeeting 2.0

VDOLive Player

インターネット接続ウィザード

Windows デスクトップのアップデートコンポーネント

Microsoft FrontPage Express

11 「バックアップ CD-ROM (OS を除く)」の以下のファイルをダブルクリックする

CD-ROM ドライブ名 : ¥Backup¥Updateie.reg

12 次のショートカットを削除する

・C:¥Winnt¥Profiles¥Default User¥デスクトップ¥Outlook Express.Ink

・C:¥Winnt¥Profiles¥他のユーザ名¥デスクトップ¥Outlook Express.Ink

再追加

購入時の状態で再追加する場合

1 「再追加の準備」の手順 1 ～ 4 を実行 (P.114)

2 キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥IE40¥IE40 CD-ROM ドライブ名

3 画面の指示に従う

4 再インストール完了後、自動で再起動する

Internet Explorer 4.0 をカスタマイズして再追加する場合

- 1 「再追加の準備」の手順 1 ~ 4 を実行 (P.114)
- 2 キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥IE40¥IE40SET CD-ROM ドライブ名
- 3 画面の指示に従う
- 4 「Internet Explorer 4.0 アクティブセットアップ」で「次へ」ボタンをクリック
- 5 使用許諾契約書が表示されます。「同意する」にチェックマークを付け「次へ」ボタンをクリック
- 6 「インストールオプション」で「標準インストール」「完全インストール」から選び「次へ」ボタンをクリック
- 7 デスクトップのアップデートで「インストールしますか?」のところの「はい」をクリックし、「次へ」ボタンをクリック
- 8 「Active Channel」の選択で「日本」を選び「次へ」ボタンをクリックする。
- 9 「インストール先フォルダ」で、インストール先を指定する。
 - ・購入時と同じフォルダにインストールする場合
「参照」をクリックして「フォルダの参照」画面を表示し、そこで以下のフォルダを選び「OK」ボタンをクリック
C:¥Program Files¥Internet Explorer
 - ・購入時と別のフォルダにインストールする場合
(インストールするフォルダがすでに存在するフォルダの場合)
「参照」をクリックして「フォルダの参照」画面を表示し、そこでインストールしたいフォルダを選び、「OK」ボタンをクリック

(新規にフォルダを作成する場合)

インストールフォルダに直接フォルダ名を入力し、「次へ」ボタンをクリック

「入力したフォルダが存在しないため、作成しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック

- 10** 「新しいコンポーネントをアップグレードしますか?」が表示されたら「すべてのコンポーネントを再インストール」にチェックを付け「OK」ボタンをクリック
インストールが始まります。インストールには10数分かかります

- 11** 「コンポーネントのインストールは完了しました」と表示されたら「OK」ボタンをクリック

 **チェック!!** CD-ROM はまだ取り出さないでください。

- 12** 「自動的に閉じることのできなかったプログラムがいくつかあります」と表示されたら、実行中のプログラムでデータ进行处理しているものがあれば、それらのデータを保存しプログラムをすべて終了し、「OK」ボタンをクリック

- 13** 「コンピュータを再起動する必要があります」と表示されたら「OK」ボタンをクリック
自動的に再起動されます。

Internet Explorer 4.0関連プログラムの設定、プログラムの個人用設定が行われます。この間数分かかります。
セットアップ完了後、CD-ROM を取り出します。

IE4.0 関連製品で追加可能なアプリケーション(コンポーネント)一覧

IE4.0に最新のコンポーネントを追加するには、以下の手順でインストールする。いずれの手順も同じWebサイトにつなげて、最新のアプリケーション(コンポーネント)をダウンロードします。(現状のコンポーネントは、インストールモジュールで可能)。

- ・IE4.0の「ヘルプ」→「製品更新」で追加。
- ・アプリケーションの追加と削除で、Internet Explorer 4.0を指定し、

「コンポーネントを Internet Explorer に追加する」で追加。
上記手順でダウンロード可能なアプリケーション(コンポーネント)は以下の通りです。

Add-on page にあるコンテンツ一覧

[Microsoft Internet Explorer 4.0]

- Internet Explorer 4.0 Web ブラウザ
- Windows デスクトップのアップデート
- Microsoft VMfor JAVA
- インターネット接続ウィザード

[通信コンポーネント]

- Microsoft NetMeeting
- Microsoft Outlook Express
- Microsoft Chat 2.0

[マルチメディア コンポーネント]

- Microsoft NetShow
- Microsoft インタラクティブミュージックコントロールとMSシンセサイザ
- Microsoft VRML 2.0 ビューア
- DirectShow
- VDOLive プレーヤー
- Microsoft Agent
- Macromedia Shockwave Director
- Macromedia Shockwave Flash
- RealPlayer by Progressive Network

[作成コンポーネント]

- Microsoft FrontPage Express
- Microsoft Web 発行ウィザード
- Microsoft Script Debugger
- Internet Explorer 用データコンポーネント

[エクスプローラ用追加コンポーネント]

- Microsoft Wallet
- 追加 Web フォント
- Internet Explorer サウンドバック
- タスクスケジューラ

[多国語のサポート]

- 日本語サポート
- 韓国語サポート
- ヨーロッパ各国語サポート
- 繁体字中国語サポート
- 簡体字中国語サポート

その他

Internet Explorer 4.0を「完全インストール」すると、次のコンポーネントも追加されます。

これらのコンポーネントを削除するには「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

- Microsoft Chat 2.0
- Microsoft NetShow Player 2.0
- RealPlayer 4.0

Outlook Express

概要

電子メールを送ったり、受け取ったりすることができます。

起動手順

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Internet Explorer」の「Outlook Express」をクリック
「Outlook Express」のウィンドウが表示されます。

削除

- 1 「削除の準備」の手順1～3を実行(P.113)
- 2 「インストールと削除」の一覧から「Microsoft Outlook Express」をクリック(反転表示)して「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「Outlook Expressをアンインストールします。続行しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
削除が始まります。
- 4 「Outlook Expressは正常にアンインストールされました。」というメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリック

✓**チェック!!** Internet Explorer 4.0 を完全に削除している場合は、Outlook Express も削除されています。

再追加

- 1 Internet Explorer 4.0 の再追加の Internet Explorer 4.0 をカスタマイズして再追加する場合 の手順1～9を実行(P.128)

✓**チェック!!** 手順6で「完全インストール」を選んでください。

- 2 「新しいコンポーネントをアップグレードしますか？」が表示されたら「更新された項目のみアップグレード」にチェックを付け「OK」ボタンをクリック
インストールが始まります。
- 3 「コンポーネントのインストールは完了しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリック

Microsoft NetMeeting

概要

インターネットを経由して、主催者と複数の参加者によるネットワーク会議を行うことができます。

起動手順

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Internet Explorer」→「Microsoft NetMeeting」をクリック
Microsoft NetMeeting のウィンドウが表示されます。

削除

✓ **チェック!!** Internet Explorer 4.0を完全に削除している場合は、Microsoft NetMeeting も削除されています

- 1 「削除の準備」の手順 1 ~ 3 を実行 (P.113)
- 2 「インストールと削除」の一覧から「Microsoft NetMeeting 2.0」をクリック(反転表示)して「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「Microsoft NetMeeting を削除します。よろしいですか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
削除が始まります。
- 4 「Microsoft NetMeeting は削除されました」というメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 5 ¥Winnt¥Profiles ディレクトリ内の各ユーザー名の“スタートメニュー¥プログラム”ディレクトリの“Internet Explorer”ディレクトリ及び“アクセサリ¥マルチメディア”ディレクトリの中にゴミのショートカットファイルが残る場合がありますが、動作には問題ありません。削除してください。

再追加

- 1 Internet Explorer 4.0 の再追加の Internet Explorer 4.0 をカスタマイズして再追加する場合 の手順1～9を実行(P.128)

☑ チェック!! 手順6で「完全インストール」を選んでください

- 2 「新しいコンポーネントをアップグレードしますか?」が表示されたら「更新された項目のみアップグレード」にチェックを付け「OK」ボタンをクリック
インストールが始まります。
- 3 「コンポーネントのインストールは完了しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリック



Internet Explorer 3.02

チェック!! Internet Explorer 3.02 は、Internet Explorer 4.0 を削除しないと使用できません

概要

インターネットへの接続を行い、ホームページを表示します。

起動手順

- 1 「スタート」→「プログラム」→「インターネット エクスプローラ」をクリック

削除

チェック!! Internet Explorer 3.02 は、Internet Explorer 4.0 を削除した後でないと、削除できません

Internet Explorer 3.02 を削除する場合

- 1 「削除の準備」の手順1～3を実行 (P.113)
- 2 「インストールと削除」画面の一覧から「Internet Explorer 3.02」をクリック(反転表示)して、「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 画面の指示に従い、削除を行う
- 4 削除終了後、削除したユーザと異なるユーザでログインした場合に、スタートメニューにアイコンが残るので、以下のファイルを削除

他の全ユーザ名 には、他のユーザのログイン名を指定。全てのユーザに対して行う

・ C:\Winnt\Profiles\Default User\スタートメニュー\プログラム\インターネットエクスプローラ

- ・C:\Winnt\Profiles\ 他の全ユーザ名 \スタートメニュー\プログラム\インターネットエクスプローラ

Internet Mail and News 1.0 を削除する場合

- 1 「削除の準備」の手順1～3を実行(P.113)
- 2 「インストールと削除」画面の一覧から「Internet Mail and News 1.0」をクリック(反転表示)して、「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 画面の指示に従い、削除を行う
- 4 削除終了後、削除したユーザと異なるユーザでログインした場合に、スタートメニューにアイコンが残るので、以下のファイルを削除

他の全ユーザ名 には、他のユーザのログイン名を指定。全てのユーザに対して行う

- ・C:\Winnt\Profiles\Default User\スタートメニュー\プログラム\Internet Mail
- ・C:\Winnt\Profiles\Default User\スタートメニュー\プログラム\Internet News
- ・C:\Winnt\Profiles\Default User\スタートメニュー\プログラム\Windows アドレス帳
- ・C:\Winnt\Profiles\ 他の全ユーザ名 \スタートメニュー\プログラム\Internet Mail
- ・C:\Winnt\Profiles\ 他の全ユーザ名 \スタートメニュー\プログラム\Internet News
- ・C:\Winnt\Profiles\ 他の全ユーザ名 \スタートメニュー\プログラム\Windows アドレス帳

ActiveMovie を削除する場合

- 1 「削除の準備」の手順1～3を実行(P.113)
- 2 「インストールと削除」画面の一覧から「Microsoft ActiveMovie」をクリック(反転表示)して、「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 画面の指示に従い、削除を行う

4 削除終了後、削除したユーザと異なるユーザでログインした場合に、スタートメニューにアイコンが残るので、以下のファイルを削除 他の全ユーザ名 には、他のユーザのログイン名を指定。全てのユーザに対して行う

- C:\Winnt\Profiles\Default User\スタートメニュー\プログラム\アクセサリ\マルチメディア\ActiveMovieコントロール
- C:\Winnt\Profiles\Default User\スタートメニュー\プログラム\アクセサリ\マルチメディア\ActiveMovie のファイルの種類
- C:\Winnt\Profiles\他の全ユーザ名 \スタートメニュー\プログラム\アクセサリ\マルチメディア\ActiveMovieコントロール
- C:\Winnt\Profiles\他の全ユーザ名 \スタートメニュー\プログラム\アクセサリ\マルチメディア\ActiveMovie のファイルの種類

再追加

1 「再追加の準備」の手順 1 ~ 4 を実行 (P.114)

2 キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す A:\AP\IE302\IE302 CD-ROM ドライブ名

3 画面の指示に従う

Internet Explorer 3.02 を追加することにより、オプションで次のコンポーネントが追加できます。

- Internet Mail and News 1.0
- Microsoft ActiveMovie
- HTML Layout control

VirusScan for Windows NT

概要

コンピュータウイルスの検出、識別、および除去を行います。
コンピュータウイルスを検出した場合は、『困ったときのQ&A』の「コンピュータウイルス対策について」をご覧ください、対処してください。

起動方法

VirusScanには、定期的にウイルス検査を行う機能があります。この機能を使うには、以下の手順で、VirusScan コンソールを起動します。

- 1 「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」の「VirusScan」をクリック
プログラムが起動し、VirusScan のウィンドウが表示されます。

主画面



- 2 定期検査用のタスクを作成する
タスクの作成方法は、オンラインヘルプを参照してください。

VirusScan には、Windows 上で操作するファイルがウイルスに感染されていないか監視する機能があります。
ウイルス監視機能を有効にすると、ファイルをアクセスするたびにウイルスチェックを行うようになります。

ウィルス監視機能を有効にする

- 1 「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan NT」の「VirusScan コンソール」をクリック
- 2 タスクの一覧の「McAfee VirusScan NT」を右クリックし、表示されるメニューの「プロパティ」をクリック
(タスクバーの後ろにメニューがかけれる場合は、タスクバーをドラッグして別の場所に移動した後メニューを選んでください)
VirusScan プロパティが起動します。
- 3 VirusScan プロパティの「検出」タグの「情報」、「スタートアップ時に起動」をクリックし、チェックマークを付ける
- 4 VirusScan プロパティの「OK」ボタンをクリックし、終了する
- 5 「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan NT」の「スタートアップ時に VirusShield を起動する」をクリック
- 6 コンピュータを再起動する

ウィルス監視機能を無効にする

- 1 「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan NT」の「VirusScan コンソール」をクリック
- 2 タスクの一覧の「McAfee VirusScan NT」を右クリックし、表示されるメニューの「プロパティ」をクリック
(タスクバーの後ろにメニューがかけれる場合は、タスクバーをドラッグして別の場所に移動した後メニューを選んでください)
VirusScan プロパティが起動します。
- 3 VirusScan プロパティの「検出」タグの「情報」、「スタートアップ時に起動」をクリックし、チェックマークをはずす

- 4 VirusScan プロパティの「OK」ボタンをクリックし、終了する
- 5 「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan NT」の「スタートアップ時に VirusShield を起動しない」をクリック
- 6 コンピュータを再起動する

削除

- 1 「削除の準備」の手順 1 ~ 3 を実行 (P.113)
- 2 「インストールと削除」の一覧から「McAfee Virus Scan NT v3.02 (プリインストール版)」をクリック (反転表示) して「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「Virus Scan の削除が選択されました、本当に Virus Scan NT を削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
- 4 「削除後にシステムを再起動することをおすすめします。続行しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
- 5 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック。
削除が始まります。
- 6 「共有ファイルを削除しますか?」と表示されたら「はい」ボタンをクリック
- 7 「アンインストールが完了しました」と表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 8 以下のフォルダを Windows NT エクスプローラを使用して削除
C:\Winnt\Profiles\All Users\スタートメニュー\プログラム\McAfee
VirusScan NT
- 9 コンピュータを再起動する

再追加

- 1** 「再追加の準備」の手順 1 ~ 4 を実行 (P.114)
- 2** キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥VIRUS¥VIRUS <CD-ROM ドライブ名 >
- 3** 以降の作業は画面の指示に従う

再追加後はウイルス監視機能 (Virus Shield) が有効になります。
ウイルス監視機能を無効にする場合は、本項の「概要」を参照してください。

NEC Soft MPEG1.0

概要

4

- ✓ **チェック!!** NEC Soft MPEG1.0 はプリインストールされておりません。ご使用になる場合は、後述の「追加」をご覧になりセットアップを行ってください。

起動手順

- 1 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「マルチメディア」から「メディアプレーヤー」をクリック
- 2 「デバイス」から、「NEC Soft MPEG1.0」をクリック
- 3 「ファイルを開く」ダイアログボックスで、再生したいMPEG ファイルをクリック
- 4 「開く」ボタンをクリック
- 5 再生ボタンをクリック
再生が始まります。

- ✓ **チェック!!** MPEG ファイルとしては拡張子が".mpg" のもののほかにビデオCD内の拡張子が".dat" のものを再生することができます。

NEC Soft MPEG1.0 に関する注意事項

- 注) 本機には、NEC Soft MPEG1.0 は標準でインストールされていません。
- ・ビデオのみのデータあるいはビデオCDの静止画を含むデータは、現在の再生位置を示すスクロールバーの位置と実際の再生位置は必ずしも一致しません。
 - ・メディアプレーヤーのスクロールバーの右側にある小さなボタンは、インジケータがフレームのときのみコマ送りとなります。(順方向ボタン)。逆再生方向のボタンは戻る場合と戻らない場合があります。

- ・画質優先モードで再生時、画像サイズを変更すると再生が遅くなる場合があります。
- ・メディアプレーヤーでプルダウンメニューを表示すると再生が停止します。再生中にキーボードから【Alt】を押したときも同様に停止します。

削除

NEC Soft MPEG1.0 の削除は「コントロールパネル」の「マルチメディア」を使用して行います。

- 1 NEC Soft MPEG 1.0 を使用するアプリケーションが起動されていないことを確認
次のアプリケーションがNEC Soft MPEG 1.0を使用するアプリケーションです。
・メディアプレーヤー
- 2 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を起動
- 3 「マルチメディア」をダブルクリック
- 4 「マルチメディアのプロパティ」から「デバイス」タブを選ぶ
- 5 「メディアコントロールデバイス」の左のプラス記号(+)をクリックして、デバイスドライバの一覧を表示
- 6 「(MCI) NEC Soft MPEG1.0」をクリック
- 7 「削除」ボタンをクリック
- 8 「削除してもよろしいですか?」と表示されるので、「はい」ボタンをクリック
以上で NEC Soft MPEG1.0 が削除されます。

追加

NEC Soft MPEG1.0の追加は「コントロールパネル」の「マルチメディア」を使用して行います。

- 1 PDDライブに本機添付の「バックアップCD-ROM (OSを除く)」をセット
- 2 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 3 「マルチメディア」をダブルクリック
- 4 「デバイス」タブにある「追加」ボタンをクリックし、「追加」ダイアログを開く
- 5 「ドライバの一覧」から「一覧にない、または更新されたドライバ」を選び「ドライバのインストール」ダイアログを開く
- 6 「ドライバのインストール」ダイアログでコマンドラインに< CD-ROMドライブ名> ¥NECMPEG¥と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 7 「一覧にない、または更新されたドライバの追加」ダイアログが表示されるので「(MCI) NEC Soft MPEG 1.0」を選び「OK」ボタンをクリック
システム上にドライバが存在する場合、インストールの確認ダイアログが表示されるので、新しいドライバをインストールします。
- 8 インストールが完了するとNEC MPEG コンフィグレーションが表示されるので、「了解」ボタンで閉じる
以上でNEC Soft MPEG 1.0が追加されます。



DMITool

概要

DMITool は、パーソナルコンピュータや接続されているハードウェア情報およびインストールされているソフトウェア情報を管理するソフトです。管理方法として、標準化団体 DMTF(Desktop Management Task Force)が規定した DMI(Desktop Management Interface)を採用しています。

DMITool は以下の 5 つの機能により構成されます。

- ・システムビューア
- ・状態監視
- ・MIF ブラウザ
- ・リモート電源制御(リモートパワーオン機能)
- ・WWW Extension

操作方法・表示画面の詳細については添付のオンラインヘルプをご覧ください。

 **チェック!!** ご使用のコンピュータがネットワークに接続されている場合、定期的にパケットが送信されていることがあります。パケットの送信を行いたくない場合は注意が必要です。詳しくは添付のオンラインヘルプをご覧ください。

DMITool の起動方法

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Dmitool」の中から利用したい機能をクリック
選んだ機能の画面が表示されます。

システムビュー画面



注) 表示される画面は、機種によって異なります

削除

DMITOOl WWW Extension をセットアップしていない場合には、手順の7からはじめてください

- 1 PWS (" パーソナル Web サーバー " または "Microsoft Peer Web Service") を停止する
- 2 「削除の準備」の手順1～3を行う(P.113)
- 3 「DMITOOl WWW Extension」をクリック(反転表示)して、「追加と削除」ボタンをクリック
- 4 DMITOOl WWW Extension 常駐プログラム終了を確認する画面が表示されたら「OK」ボタンをクリック
- 5 PWS プログラム終了を確認する画面が表示されたら「OK」ボタンをクリック

6 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されるので、「はい」ボタンをクリック
これで DMITOOL WWW Extension プログラムの削除が開始されます。

7 DMITOOL 関連のアプリケーションが起動されていないことを確認する

次のアプリケーションが DMITOOL 関連のアプリケーションです。

- ・システムビューア
- ・状態監視
- ・MIF ブラウザ
- ・BIOS ブラウザ
- ・リモート電源制御
- ・休眠ファイル

8 「削除の準備」の手順 1 ~ 3 を行う(P.113)

9 「セットアップと削除」画面の一覧から「DMITOOL」をクリック
(反転表示)して、「追加と削除」ボタンをクリック
DMITOOL 常駐プログラムの終了を確認する画面が表示されます。

10 「OK」ボタンをクリック

11 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されるので、「はい」ボタンをクリック
これでプログラムの削除が開始されます。

 **チェック!!** 「いいえ」を選び、削除を中断した場合には、システムを再起動してから DMITOOL を使用してください。

12 削除を開始して間もなく共有ファイルの削除を確認する画面が表示されるので、「いいえ」ボタンをクリック

 **チェック!!** ここでは必ず「いいえ」ボタンをクリックしてください。この画面は複数回表示されますが、すべて「いいえ」ボタンをクリックしてください。

- 13** 「コンピュータからプログラムを削除」の画面が表示され、画面にアンインストールが完了した旨が表示されたら「OK」ボタンをクリック

再追加

- 1** 「再追加の準備」の手順 1 ～ 4 を実行 (P.114)
- 2** キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥DMITool¥DMITool <CD-ROM ドライブ名>
- 3** DMITool セットアップの説明画面が表示されるので、指示に従い「次へ」ボタンをクリック
「登録」の画面が表示されます。
- 4** 「登録」が表示されたら、あなたの名前と会社名を入力して「次へ」ボタンをクリック
- 5** 「パス設定」が表示されたら、インストール先ディレクトリを指定して「次へ」ボタンをクリック
プログラムのインストールが開始されます。
- 6** 「情報」が表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 7** フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜く
- 8** 本機を再起動する

pcANYWHERE32 EX

概要

遠隔地にある他のパソコンから本機を自由に操作することができます。ソフトウェアの保守や使用方法の説明が行えます。

- ✓ **チェック!!** 本機にインストールされているpcANYWHERE32 EXを使って、他のパソコンを操作することはできません。また他のパソコンから本機を操作するには、相手のパソコンに、別売の「DMITool(pcANYWHERE32 EX 付)」または「pcANYWHERE」(Symantec 社製)がインストールされている必要があります。

「pcANYWHERE32 EX」の起動方法

- 1 「スタート」→「プログラム」→「pcANYWHERE32 EX」の「pcANYWHERE32 EX」をクリックする
「pcANYWHERE32 EX」を使用すると、接続しているほかのパソコンから、本機のハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクの内容をすべて参照することができます。
また、必要に応じてファイルの内容を参照したり、修正することもできます。

- ✓ **チェック!!** ・本機にインストールされているpcANYWHERE32 EXでは、各ウィンドウのメニューバー上で“ヘルプ”を選ぶことはできません。機能説明や使用方法については別売のDMITool(pcANYWHERE32 EX 付)などのマニュアルをご覧ください。
- ・インストールされているWindows NTが起動できない場合や、本体内蔵LANインターフェイスを使用していない場合、または使用していても通信できない場合は、pcANYWHERE32 EXを利用して、遠隔操作でトラブルを解決することはできません。

削除

- 1 「スタート」→「プログラム」→「pcANYWHERE32 EX」にある「pcANYWHERE32 EX の削除」をクリック
- 2 「バス名」が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 3 「pcANYWHERE32を削除しました。」というメッセージが表示されたら、「完了」ボタンをクリック
自動的に再起動します。

再追加

- 1 「再追加の準備」の手順1～4を実行(P.114)
- 2 キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥Remmtn32¥Remmtn32 <CD-ROM ドライブ名>
画面の指示に従ってください
- 3 「pcANYWHERE」で名前と会社名を入力し、「次へ」ボタンをクリック
- 4 「オンライン使用許諾契約」で「次へ」ボタンをクリック
- 5 「pcANYWHERE は以下の場所にコピーされます。」というメッセージが表示されたら、インストール先ディレクトリを指定して「次へ」ボタンをクリック
- 6 「pcANYWHERE プログラムを以下の場所にコピーします。」というメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
ファイルのコピーが始まります。
- 7 ファイルのコピーが終了すると、「Windows 95 および WindowsNT 用 pcANYWHERE のインストールに成功しました。」と表示されるので、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜いて「完了」ボタンをクリック
自動的に再起動します。



Masty Data Backup

概要

Masty Data Backup(マスティデータバックアップ)は、Windows NT 対応の高機能バックアップツールです。

“ ハードディスクが突然クラッシュ ”この時の損害は計り知れないものがあります。そのため、データのバックアップは不可欠です。Masty Data Backupは、このような万が一の事態にもデータを保全し、お客様の損害を最小限におさえるツールです。

Masty Data Backup には次のような特徴があります。

- OSがサポートしている装置(MO、PD、HD、ZIP、JAZおよびTAPE などに)にバックアップできます。
- 日付 / 曜日 / 時間を指定すれば、好きな時に自動実行するスケジュールリングができます。
- データの圧縮を行いながらバックアップができます。
- 複数枚の媒体に分けてバックアップができます。
- 世代管理ができます。
- S.M.A.R.T 機能を利用したバックアップができます。

起動手順

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Masty Data Backup 1.0」→「Masty Data Backup 1.0」をクリック

削除

- 1 Masty Data Backup を終了させる
タスクトレイに時計アイコンが存在する場合は、タスクトレイの時計アイコン上で右クリックして、「閉じる」をクリックしてください。
次に、タスクバーの Masty Data Backup を右クリックし「閉じる」を選び、終了してください。

- 2 「削除の準備」の手順 1 ~ 3 を行う (P.113)
- 3 「削除の準備」の手順 3 で「Masty Data Backup F」を選び、「追加と削除」ボタンをクリック
- 4 画面の指示に従い、削除を行う

-  **チェック!!** ・アンインストーラ(アンインストールをするプログラム)は、Windows NT の登録情報とプログラムファイルを削除します。お客様が作成されたログファイル等は削除しません。このため、アンインストーラがディレクトリの削除に失敗することがあります。この場合には、エクスプローラ、またはファイルマネージャなどを使用して削除してください。
- ・再セットアップ時以外に Masty Data Backup にて作成されるファイルにはログファイル以外にもいくつかあります。ログファイル以外は全て隠しファイルとなっています。

再追加

- 1 「再追加の準備」の手順 1 ~ 3 を行う (P.114)
- 2 キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥MASTY¥MASTY <CD-ROM ドライブ名>
画面の指示に従ってください
- 3 画面の指示に従って再セットアップを行う
- 4 「インストール先の選択」でディレクトリを変更する場合は指定する
「セットアップが完了しました。」というメッセージが表示されたら再セットアップは終了です。

自動実行の記録

Masty Data Backup で自動実行を行うには、常駐プログラム[MastAut.exe]を「スタートアップ」グループに登録する必要があります。
以下の手順で登録してください。

- 1** 「スタート」→「設定」→「タスクバー」をクリック
- 2** 「タスクバーのプロパティ」で「スタートメニューの設定」タブをクリック
- 3** 「追加」ボタンをクリック
- 4** 「参照」ボタンをクリックし、Masty Data Backupがインストールされているフォルダ(通常は"¥Program Files¥MASTBK")の「MastAut.exe」ファイルを選んで「開く」ボタンをクリック
- 5** 「次へ」ボタンをクリック
- 6** 「スタートアップ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリック
- 7** 「名前の指定」で、ショートカットの名前を変更する場合は指定する
- 8** 「完了」ボタンをクリック
- 9** 「タスクバーのプロパティ」の「OK」ボタンをクリック
以上で、登録は終了です。

Timer-NX

概要

Timer-NX には以下の機能があります。

1. タイマ機能により、指定した時間に本機の電源を入れ、アプリケーションを起動することができます。
2. 終了時間を指定すると、自動的に電源を切ることができます。

Timer-NX の使い方

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Timer-NX」をクリック
「Timer-NX」画面が表示されます。



- ✓ **チェック!!** ・Timer-NXは、Administratorの権限を持つユーザのみ使用することができます。
- ・Timer-NXを使用するときは、表示されている日付と時刻が正しいことを確認してください。日付と時刻が正しくないときには「コントロールパネル」の「日付と時刻」を起動して日付と時刻を設定し直してください。
 - ・指定した実行ファイルが、実行ファイルのあるフォルダ以外の他のフォルダにあるファイルを利用する場合は、正しく起動できない場合があります。

自動電源 ON タイマーの設定を行う

自動電源 ON タイマーでは、本機の自動電源 ON 時刻の設定 / 解除と、そのときに起動するアプリケーションや終了時刻を指定できます。

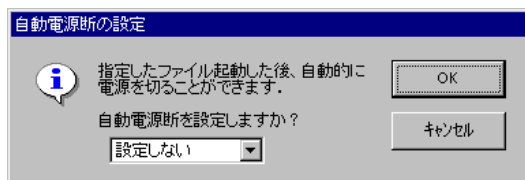
- 1 「スタート」→「プログラム」→「Timer-NX」をクリック
- 2 「Timer-NX」画面で、自動的に電源を入れたい曜日をクリック
- 3 自動的に電源を入れたい時刻を設定
「Timer-NX」画面に表示されている数字の上を左クリックすると時刻表示が1ずつ大きくなり、右クリックすると1ずつ小さくなります。表示時間は24時間モードです。
- 4 電源を入れた時に起動したいアプリケーションを指定
「実行ファイル」ボタンをクリックするとファイルを選択する画面が表示されますので、起動したいファイルを選択してください。

 **チェック!!** ・「任意指定」でプログラムファイル以外のマルチメディアファイルなどを選ぶこともできます。その場合は、関連付けるプログラムの設定を行ってください。関連付けるプログラムが設定されていないと、電源が入った時に、エラーが発生します。関連付けるプログラムの設定についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

・タイマで指定した時間とほぼ同じ時間に、手動操作で電源を入れた場合には、タイマ起動と判断される場合があります（2～3分の誤差があります）。

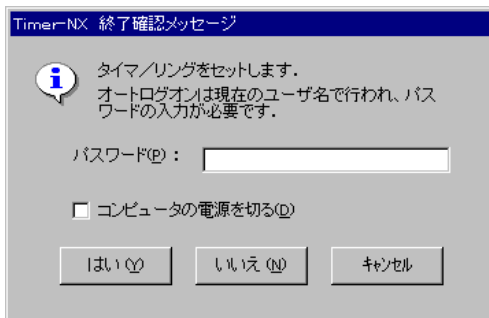
- 5 曜日、時刻などを設定したら、タイマーセットボタンをクリック
ボタン上のアイコンが黄色く表示され、タイマーが設定されます。
もう一度ボタンをクリックするとボタンの色がもとに戻り、タイマーが解除されます。
一度タイマーを設定すると、もう一度タイマーを解除しない限り、今回設定された曜日の同じ時刻に電源が入ります。

- 6 自動的に電源を入れた後、自動的に電源を切りたい場合は、終了時間設定ボタンをマウスでクリック
次の画面が表示されます。



30分間隔で終了時間を設定します。自動的に電源を入れた後、設定した時間が経過すると電源が切れます。

- 7 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリック
「終了確認メッセージ」画面が表示されます。



- 8 パスワードには、現在ログオンしているユーザーのパスワードを入力

- 9 設定を終了

- Timer-NXを終了した後もコンピュータを使う場合は、「コンピュータの電源を切る」のチェックをしていない状態で、「はい」ボタンをクリックします。

タイマーがセットされ、Timer-NX が終了します。

- Timer-NXを終了した後ですぐに電源を切る場合は、「コンピュータの電源を切る」をチェックして「はい」ボタンをクリックします。

- ・「いいえ」ボタンをクリックすると、タイマーをセットせずにTimer-NXを終了します。
- ・「キャンセル」ボタンをクリックすると、タイマー設定の画面に戻ります。

 **チェック!!** ・「コンピュータの電源を切る」を設定している場合、電源が切れず、メッセージが表示される場合があります。その場合はメッセージに従って処理を終了させ、Windowsを終了させてください。

自動電源 ON タイマーを設定するときの注意

- ・本体の電源ケーブルがACコンセントに接続されていないときや停電時は、タイマーによる自動電源 ON は起こりません。
- ・スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワードを設定している場合は、自動電源 ON は起こりません。

自動電源 OFF タイマーの設定を行う

自動電源 OFF タイマーを使うと、指定した時間に本機の電源を切ることができます。

- 1 「スタート」→「プログラム」→「Timer-NX」をクリックし、「オフタイマ」ボタンをクリック
OffTimer 画面が表示されます。
- 2 画面の数字上をマウスでクリックして、時刻設定を行う
数字上を左クリックすると時刻表示が1 ずつ大きくなり、右クリックすると1 ずつ小さくなります。表示時間は24 時間モードです。
- 3 「OK」/「キャンセル」の各ボタンを左クリックして、Timer-NXの
設定 / 解除を行う

「OK」ボタン	:タイマーの設定を行います。 このボタンを選んだ時点で電源 OFF のタイマーがセットされます。
「キャンセル」ボタン	:タイマーの解除を行います。

 **チェック!!** ・自動電源OFFが行われた場合、電源が切られず、メッセージが表示される場合があります。その場合はメッセージに従って処理を終了させ、Windowsを終了させてください。

自動電源 OFF タイマーを設定するときの注意

タイマー設定を行っても、以下の場合はタイマーによる自動電源OFFは起こりません。

- ・ 無条件に終了できないアプリケーションが起動されていた場合
- ・ OffTimer を終了されてしまったり、Windows を終了されてしまった場合

削除

- 1 「削除の準備」の手順 1 ～ 3 を実行 (P.113)
- 2 「インストールと削除」の一覧から「Timer-NX」をクリック(反転表示)して「追加と削除」ボタンをクリック
- 3 「Timer-NX とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリック
削除がはじまります。
削除中、Timer-NX が使用している共有ファイルの削除確認メッセージが表示されます。これらの共有ファイルが他のアプリケーションでも、使用されている場合は、「保存」ボタンをクリックしてください。
使用されていない場合は「削除」ボタンをクリックしてください。
他のアプリケーションで使用されているか不明な場合は「保存」ボタンをクリックしてください。
- 4 「削除されました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリック

再追加

- 1 「再追加の準備」の手順 1 ～ 4 を実行 (P.114)
- 2 キーボードから以下のように入力して【Enter】を押す
A:¥AP¥TIMER¥TIMER <CD-ROM ドライブ名>
画面の指示に従ってください
- 3 「Timer-NX のセットアップを始めます。」のメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリック

- 4 「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください。」と表示されたらパソコンの絵が描かれているボタンをクリックインストールが始まります。
- 5 「Timer-NX のセットアップが完了しました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

付 録

この章の内容

Windows NT Server 4.0 を利用する	162
ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 を利用する	172
機能一覧	174
内蔵 LAN 機能仕様	176
割り込みレベル一覧	177
DMA チャンネルの割り当て	178
本機のお手入れ	179
索引	182



Windows NT Server 4.0を利用する

本機では、インストールされているWindows NT Workstation 4.0日本語版のほかにWindows NT Server 4.0日本語版を利用することができます。本機でWindows NT Server 4.0をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT Server 4.0 のセットアップ
 - 1-1. Windows NT Server 4.0 をセットアップする前の確認事項
 - 1-2. Windows NT Server 4.0 をセットアップする
 - 1-3. Windows NT 4.0 アップデートサービス「Service Pack 3」の利用
 - 1-4. ドライバをアップデートする
2. 内蔵サウンドの利用
3. 内蔵アクセラレータの利用
4. PDドライブの利用

 **チェック!!** ・ドライバのアップデートはシステム管理者が行ってください。

- ・本機に添付されているドライバは本機専用です。他機種では使用できません。
- ・本機に添付されている「バックアップCD-ROM(OSを除く)」、「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」、「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク#2」、「Microsoft Windows NT 4.0 日本語版 Service Pack 3」を用意しておいてください。
- ・フロッピーディスク1枚を用意し、ラベルに「システム修復ディスク」と記入しておいてください。

Windows NT Server 4.0 のセットアップ

Windows NT Server 4.0 をセットアップする前の確認事項

Windows NT Server 4.0セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

- 本機の設定について
- ・BIOS セットアップユーティリティで設定を変更している場合は、出荷時の状態に戻してください。

■ 増設 CPU について

- ・ 本機に増設CPUを接続した場合、シングルプロセッサ環境でインストール済みの Windows NT は利用できなくなり、Windows NT を再度インストールする必要があります。この時、以前の Windows NT の環境は引き継がれません。本機に増設 CPU を接続して、Windows NT をマルチプロセッサ環境でご使用になる場合は、Windows NT をインストールする前にあらかじめ増設 CPU を接続してください。

■ 本体内蔵 Ultra SCSI(Wide 対応)インタフェースについて

- ・ 本体内蔵 Ultra SCSI(Wide 対応)インタフェース以外に PCI SCSI ボードをスロットに差した状態でセットアップはできません。PCI SCSIボードの混在を行う場合は、Windows NT Server 4.0 セットアップ後に行ってください。

Windows NT Server4.0 をセットアップする

本機に Windows NT Server 4.0 を新規に組み込む場合について説明します。

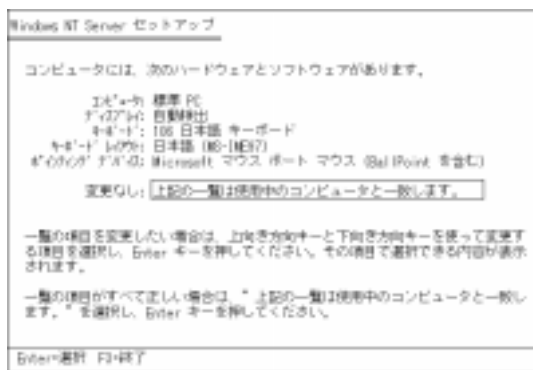
セットアップを行う場合次の点に注意してください。

-  **チェック!**・「バックアップ CD-ROM(OS を除く)用インストールディスク」の ¥NT40 ディレクトリに Windows NT Sever 4.0 の補足事項を記述した README.TXT が格納されています。セットアップを行う前にお読みください。
- ・ セットアップについての詳しい説明は、Windows NT 4.0 のマニュアルをご覧ください。

セットアップは次の手順で行います。

- 1** 「Windows NT Setup Disk 1」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れる
- 2** 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替える
- 3** 大容量記憶装置の検出を行うかどうかの画面が表示されるので、「自動検出」を選ぶ
- 4** デバイスの一覧に「IDE CD-ROM (ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller」が検出されていることを確認して、追加デバイスの指定を選択する(【S】を押す)

- 5 デバイスの一覧から、[その他(ハードウェア メーカー提供のディスクが必要)] を選択して【Enter】を押す
- 6 ドライバが入っているディスクをセットするように指示されるので、フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク #2」をセットして【Enter】を押す
- 7 ドライバー一覧から、「Adaptec AHA-290x/291x/294x/394x/4944 or AIC-78xx PCI SCSI Controller(NT 4.0)」を選択して【Enter】を押す
- 8 認識した大容量記憶装置の一覧に「Adaptec AHA-290x/291x/294x/394x/4944 or AIC-78xx PCI SCSI Controller(NT 4.0)」が追加されていることを確認して、【Enter】を押す
- 9 画面の指示にしたがってセットアップを続ける
- 10 Windows NT 4.0 の CD-ROM をセットするように指示されるので、「Windows NT CD-ROM Disk 1」をPDドライブにセットして、【Enter】を押す
- 11 画面の指示にしたがって、セットアップを続ける
- 12 「キーボードの種類を特定するために以下のいずれかのキーを押してください」のメッセージが表示されるので、106キーボードを選ぶ(【半角/全角】を押す)
- 13 次のような画面が表示されるので、【↑】で「キーボード:」の「106 日本語キーボード」を選んで、【Enter】を押す



14 「インストールするキーボードの種類を変更します」と表示されますので【↓】で「**その他(ハードウェア メーカー提供のディスクが必要)**」を選んで、【Enter】を押す

15 「次のラベルの付いたディスクをドライブ A: に挿入してください」と表示されたら、フロッピーディスクドライブに「**バックアップ CD-ROM(OSを除く)用インストールディスク**」をセットし【Enter】を押す

16 「ハードウェア メーカーから提供されたキーボードをインストールします」と表示されるので、「**USB Keyboard with Mouse (USB 109 日本語キーボード(JIS 配列))**」が選択されていることを確認して、【Enter】を押す

17 「コンピュータには次のハードウェア とソフトウェアがあります」の画面に戻るので、「**キーボード**」が「**USB Keyboard with Mouse (USB 109 日本語キーボード(JIS 配列))**」になっていることを確認し、【Enter】を押す

18 画面の指示に従ってセットアップを続ける
セットアップ途中で、次のディスクの挿入要求がされた場合は、次のディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】を押してください。

- ・「**USB Keyboard with Mouse Driver Disk**」
→ 「**バックアップ CD-ROM(OSを除く)用インストールディスク**」

- 19** ファイルのコピー終了後、画面の指示に従いドライブよりフロッピーディスク、CD-ROM を取り出して、コンピュータを再起動
これで、Windows NT 4.0 のテキストセットアップは終了しました。続いてグラフィックセットアップを行います。グラフィックセットアップでは、内蔵 LAN を組み込む手順を説明します。
- 20** 再起動するとCD-ROM の挿入要求のメッセージが表示されるので、「Windows NT CD-ROM Disc 1」をPDドライブにセットして「OK」ボタンをクリック
- 21** グラフィックセットアップでは、次の設定を行う
これら設定の詳しい内容については、Windows NT 4.0のマニュアルをご覧ください。
- ・セットアップ方法の選択
 - ・個人情報の入力
 - ・サーバーの種類の選択
 - ・管理者アカウントのパスワードの設定
 - ・システム修復ディスク作成の選択
 - ・インストールするファイルの選択
- 22** 次にネットワークのインストールを行う。ネットワークに参加させる方法を、「ネットワークに参加する」→「ネットワークに接続」を選択して「次へ」ボタンをクリック
- 23** Internet Information Server をインストールするかどうかを選んで、「次へ」ボタンをクリック
- 24** ネットワークアダプタの検出画面が表示されるので、「一覧から選択」をクリック
- 25** ネットワークアダプタの選択画面で、「ディスク使用」をクリック

- 26** フロッピーディスクの挿入画面が表示されるので、「バックアップ CD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、次のように入力して、「OK」ボタンをクリック

A:¥E100B

- 27** OEM オプションの選択画面が表示されるので、リストから「NEC PK-UG-X006 or compatible Fast Ethernet Adapter」を選んで、「OK」ボタンをクリック

- 28** ネットワークアダプタの検出画面に、「NEC PK-UG-X006 or compatible Fast Ethernet Adapter」が表示されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリック

内蔵LANアダプタのセットアップ中に、「PCI Configuration Notification」というメッセージが表示される場合があります。「OK」ボタンをクリックして先に進んでください。

- 29** 次のネットワークアダプタの構成を行う

- ・ネットワークプロトコルの選択
- ・ネットワークサービスの選択
- ・ネットワークの設定の確認
- ・ネットワークに必要なファイルのコピー
- ・NEC PK-UG-X006 or compatible Fast Ethernet Adapter の設定
- ・ネットワークバインドの調整
- ・ワークグループまたはドメインの参加

これで、グラフィックのセットアップの内蔵LANを組み込む手順が終了しました。後は画面の指示に従ってセットアップを行ってください。

Windows NT 4.0 アップデートサービス「Service Pack 3」の利用

本機に添付されている「Microsoft Windows NT 4.0 日本語版 Service Pack 3」のルートディレクトリにあるREADME.TXTをご覧ください。インストールを行ってください。

Service Pack 3 のインストール時、「このファイルはOEMによってインストールされたファイルです。Service Packのバージョンのファイルでシステム上にあるバージョンを上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は、「いいえ」を選んでください。

ドライバをアップデートする

次の手順でドライバのアップデートをします。

- 1 「スタート」→「プログラム」→「コマンドプロンプト」をクリックしてコマンドプロンプトを起動する
- 2 「バックアップ CD-ROM(OSを除く)」、「バックアップ CD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」をそれぞれPDドライブ、フロッピーディスクドライブにセット
- 3 次のように入力する
ここでは、フロッピーディスクドライブをA、PDドライブ(CD-ROMドライブ機能)をHとして説明しているので、実際と異なる場合は読みかえること

```
A:【Enter】  
CD ¥NT40【Enter】  
CDNTUP H【Enter】
```

- 4 後は画面の指示にしたがって、アップデートを行う
- 5 アップデートが終了したら、Windows NT を再起動します

以上で Windows NT Server 4.0 のセットアップは終了しました。

内蔵サウンドの利用

- 1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「マルチメディア」アイコンをダブルクリック
- 3 「デバイス」タブをクリック
- 4 「追加」ボタンをクリック
- 5 ドライバの一覧から「一覧にない、または更新されたドライバ」をクリックして「OK」ボタンをクリック

- 6 ドライバのインストール画面になるので、Windows NT Serverをインストールしたドライブの NT40¥CRYSTAL ディレクトリ(例 C:¥NT40¥CRYSTAL)を指定して「OK」ボタンをクリック
- 7 ドライバの一覧から「Crystal Ware Audio Driver」を選んで「OK」ボタンをクリック
- 8 「必要な midimap.cfg ドライバは既にシステム上にあります。現在のドライバを使用しますか、それとも新しいドライバをインストールしますか?」のメッセージが表示されるので、[新しいドライバ]ボタンをクリック
- 9 Crystal Ware Audio Driver の詳細画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリック
- 10 再起動を促すメッセージが表示されたら「再起動する」ボタンをクリック
以上でサウンドドライバのセットアップは完了です。再起動後にサウンドドライバが有効になります。

内蔵アクセラレータの利用

- 1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「画面」アイコンをダブルクリック
- 3 「ディスプレイの設定」タブをクリック
- 4 「ディスプレイの種類」ボタンをクリック
- 5 「変更」ボタンをクリック
- 6 「ディスク使用」ボタンをクリック
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示されます。

- 7 Windows NT ServerをインストールしたドライブのNT40¥PERM2ディレクトリ (例 C:¥NT40¥PERM2)を指定して、「OK」ボタンをクリック
- 8 「ディスプレイ」のリストボックスから、「DIAMOND FIRE GL 1000 PRO Video Accelerators」を選んで「OK」ボタンをクリック
- 9 この後は画面に表示されるメッセージに従って操作する

PDドライブの利用

- 1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「SCSI アダプタ」アイコンをダブルクリック
- 3 「ドライバ」タブをクリック
- 4 ドライバの一覧から、「IDE CD-ROM (ATAPI 1.2)/Dual-channel PCI ...」をクリックし、「削除」ボタンをクリック
- 5 「このドライバを削除しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック
- 6 「追加」ボタンをクリック
- 7 「ディスク使用」ボタンをクリック
- 8 Windows NT Server をインストールしたドライブの NT40¥ATAPIPDディレクトリ(例 C:¥NT40¥ATAPIPD)を指定して「OK」ボタンをクリック
- 9 ドライバの一覧から「NEC ATAPI/IDE Controller(PD/CD-ROM)」をクリックして、「OK」ボタンをクリック

- 10** ドライバファイルのディレクトリ(手順 8. と同じ)を指定して、「続行」ボタンをクリック
- 11** 再起動を促すメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリック
以上でPDドライバのセットアップは完了です。再起動後にPDドライバが有効になります。



ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 を利用する

本機では Windows NT Server 4.0 をセットアップした場合、運用管理機能として ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 を利用することができます。

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 は、ESMPRO シリーズの中核となり、Windows NT Server がセットアップされたパーソナルコンピュータのハードウェア、ソフトウェアを対象として、構成管理、障害管理、性能管理を行う管理ソフトウェアです。

また、業界標準プロトコル SNMP(簡易ネットワーク管理プロトコル)を用いて、管理用のクライアント上で動作する ESMPRO/ServerManager へ構成情報、稼動情報、障害情報などを通知します。

- ・ 構成管理: サーバーのハードウェア構成情報を管理します。
- ・ 障害管理: 温度、ファン、電圧等の障害監視を行います。
- ・ 性能管理: サーバーのリソース(CPU、メモリ、ファイル、ネットワーク等)利用状況を管理します。

操作方法等の詳細については以下をご覧ください。

- ・ ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 (Windows NT® 版) (別売)のオンラインヘルプ
- ・ ESMPRO/ServerManager Ver3.1 (Windows®95/Windows NT®版) (別売)のオンラインヘルプ
- ・ ESMPRO/ServerManager, ServerAgent Ver3.1 (Windows NT® 版) ユーザーズマニュアル(別売)

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 のセットアップ

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 をセットアップするには、次の手順で行います。

- 1** Windows NT Server 4.0 のセットアップ
- 2** SNMP サービスの設定
- 3** ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 のセットアップ

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1をセットアップするには、以下の別売製品が必要になります。

- ESMPRO Software Startup Ver3.5(Windows NT® 版)
- ESMPRO/ServerAgent Ver3.1(Windows NT® 版)

Windows NT Server 4.0 のセットアップ

Windows NT Server 4.0のセットアップ方法については、本書の「Windows NT Server 4.0を利用する」をご覧ください。

SNMP サービスの設定

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1の動作にはTCP/IP とTCP/IP 関連コンポーネントのSNMP が必要になります。ESMPRO/ServerAgent Ver3.1をセットアップする前に、TCP/IP およびSNMP サービスのセットアップを行っておいてください。

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 のセットアップ

ESMPRO/ServerAgent Ver3.1のセットアップ方法については、本機に添付されている「バックアップ CD-ROM(OSを除く)」のAP¥ESMPROにあるREADME.TXT をご覧になってください。

機能一覧

型番の読み方と機能仕様

PC-MA □□ E M □□□□□□

CPU のクロック周波数

30:300MHz

ディスプレイタイプ

7 :17 インチ CRT ディスプレイ(DV17B1)

X :14.1 インチ液晶ディスプレイ(F14T1)

Z :ディスプレイなし

インストールソフトウェアタイプ

B :Windows NT 4.0 のみ

J :Windows NT 4.0 + Word & Excel

M :Windows NT 4.0 + 一太郎 Office8

ハードウェア種別 1(5 インチベイ標準タイプ他)

C :PDドライブ

ハードウェア種別 2(メモリ容量他)

B:64MB C:96MB

ハードディスク容量

8:約 8GB(= 1 のときは、8.4GB)

管理番号

上記 ~ の一部の変更により、型番の変更で表現できない場合のために使用しています。

1、2、3 と増えていきます。



チェック!!

~ は、今後数字・記号が増えることがあります。

この場合は、「補足ガイド」が添付されていますので、「箱の中身を確認してください」を確認の上、本書と併せてお読みください。

MA30E/M 本体機能仕様

型番・型名の□のところは、型番の読み方と機能仕様を見て下さい。
ディスプレイ、インストールソフトウェア、メモリが選択可能となっています。

型番	PC-MA30EM□□C□81	
型名	MA30E/M□model□C□81	
C P U	Pentium® プロセッサ クロック300MHz キャッシュメモリ32KB、セカンドキャッシュメモリ512KB	
メモ リ	BIOS ROM	256KB (Flash ROM)
	メインRAM	標準 64MB/96MB SDRAM - DIMM ECC対応 最大512MB、DIMMスロット×4(空きスロットはモデル構成により異なります)
	ビデオRAM	8MB (SGRAM)
	表示機能	ウィンドウアクセラレータ グラフィック表示 3D Labs社製 PERMEDIA®2搭載、AGP対応(ビデオアクセラレーション機能搭載) 640×480ドット (最大1,677万色) 1,600×1,200ドット (最大65,536色) 800×600ドット (") 1,024×768ドット (") 1,280×1,024ドット (")
サウンド機能		PCM録音再生機能内蔵、マイク入力・ライン入出力端子付き、全二重対応
キーボード JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト、テンキー、12ファンクションキー、Windowsキー、アプリケーションキー、マウスインタフェース(ミニDIN 6ピン)、セパレートタイプ、USBインタフェースにより本体接続		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5インチフロッピーディスクドライブ (3モード対応) 1台内蔵
	ハードディスクドライブ	内蔵(8.4GB)SMART機能対応、UltraATA対応
	PDドライブ	内蔵 (8倍速CD-ROMドライブ相当)
	ファイルベイ	6 [3.5インチベイ×1 (フロッピーディスクドライブ標準実装)] [内蔵3.5インチベイ×2 (そのうち1つはハードディスクドライブ標準実装)] [5インチベイ×3 (そのうち1つはPDドライブ標準実装)]
PCISロット		4 [フルサイズ×4]
AGPSロット		1 (アクセラレータ標準実装)
イ ン タ フ ェ ー ス	ディスプレイ	アナログRGBセパレート信号出力(75Ωアナログインターフェイス) ミニD-sub15ピン
	サウンド関連	入 力 マイク入力: モノラル、供給電源2.5V、マイク出力インピーダンス600Ω、マイク感度-48dB ライン入力: ステレオ、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6dB
		出 力 ライン出力: ステレオ、出力レベル最大1Vrms(負荷インピーダンス47KΩ)
	マウス キーボードに内蔵	
	パラレル 1 D-sub25ピン	
	シリアル	コネクタ1 最大115,200bps D-sub9ピン、外付FAXモデムによる自動電源操作機能あり
		コネクタ2 最大115,200bps D-sub9ピン
	LAN 100BASE-TX、10BASE-T対応 リモートパワーオン機能あり	
	USB 2 (本体背面×2)	
	Ultra SCSI 1 (Wide対応)	
カレンダー時計		電池によるバックアップ
運 用 管 理	障害監視機能	SMART機能、温度監視、電圧監視、CPU・電源ファン監視、ECC機能
	セキュリティ機能	ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、セキュリティロック、I/Oロック、ルーフカバーオープン検知
	マネジメント・保守機能	DMITool、pcANYWHERE32 EXをプリインストール
環 境 条 件	電 源	AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーOFF
	温湿度条件	10～35、20～80% (但し結露しないこと) 18～28、45～75%での使用を推奨
消費電力		本体標準構成時約86W、最大約260W
外 形 寸 法	本 体	210 (W) × 447 (D) × 450 (H) mm
	キーボード	471 (W) × 178 (D) × 39 (H) mm
重 量	本 体	約16.5 K g
	キーボード	約1.1 K g



内蔵 LAN 機能仕様

項目	規格概要
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長	100BASE-TX：最大約200/mステーション間 10BASE-T：最大約500/mステーション間 最大100m/セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

リピータの台数など、条件によって異なります。



割り込みレベル一覧

割り込みコントローラは周辺機器からの要求を受け入れ、プロセッサに割り込み要求を発行し、割り込み優先順位を決め、プロセッサがどの割り込みルーチンをするかを定めるための方向づけをします。割り込みコントローラには優先順位割り当てモードがあり、システム動作中はいつでも再設定できます。

出荷時の割り込みレベルは、次のとおりです。割り込みを変更する方法については、「PART3システム設定」をご覧ください。

割り込み優先順位	割り込みデバイス
IRQ00	カウンタ/タイマ
IRQ01	キーボード
IRQ02	カスケード
IRQ03	シリアルポート (B)
IRQ04	シリアルポート (A)
IRQ05	サウンド
IRQ06	フロッピーディスクドライブコントローラ
IRQ07	パラレルポート
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	USB, LAN, SCSI
IRQ10	予約
IRQ11	グラフィック*
IRQ12	マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE



DMA チャンネルの割り当て

出荷時の DMA チャンネルの割り当ては、次の通りです。

DMA	データ長	システムリソース
0	8または16ビット	サウンド
1	8または16ビット	サウンド
2	8または16ビット	フロッピーディスクドライブ
3	8または16ビット	(空き)
4		予約 (カスケードチャンネル)
5	16ビット	(空き)
6	16ビット	(空き)
7	16ビット	(空き)

本機のお手入れ

△ 注意



感電注意

- お手入れの前には、本機の電源を切って電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。感電の原因になります。



発火注意

- 電源ケーブルのプラグにほこりがたまったままの状態、本機を使用しないでください。
- 電源ケーブルのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

パソコン

布でふいてください。

汚れがひどいときは、水が洗剤を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

パソコンの内部

長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、販売店、NECに相談してください。

NECのお問い合わせ先 → 「NEC PC あんしんサポートガイド」

ディスプレイ

布でふいてください。

汚れがひどいときは、水が洗剤を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

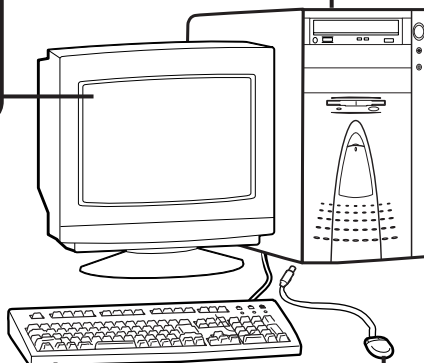
キーボード

布でふいてください。

汚れがひどいときは、水が洗剤を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、販売店、NECに相談してください。

NECのお問い合わせ先 → 「NEC PC あんしんサポートガイド」



電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

マウス

布でふいてください。

汚れがひどいときは、水が洗剤を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

マウスの内部

マウスボタンの動きが悪いときは、ボールとローラーをクリーニングしてください。→ 「マウスのクリーニング」(次ページ)

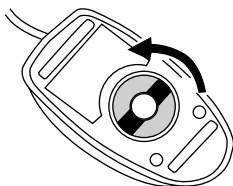


チェック!! 水や中性洗剤は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

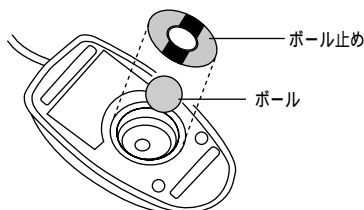
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4～6の手順は省略してもかまいません。

- 1 パソコンの電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる

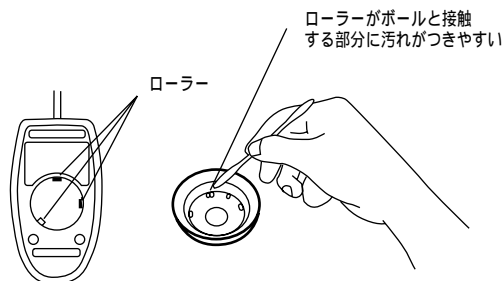


- 3 ボール止めを取りはずし、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

- 7** マウス内部のローラーの汚れを、綿棒でこすり落とす
汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（この
とき、歯ブラシに水やはみがき粉などをつけないでください）。



- 8** ボールをマウスに戻す

- 9** ボール止めを取り付け、手順 2 と逆の方向に回して固定する

- ☑ **チェック!!** ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
 - ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接にかけないでください。故障の原因となります。
 - ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装を傷めたり、故障の原因となったりします。
 - ・ローラの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラに傷が付き、故障の原因となります。



索引

ページ太字:語句、作業のあるページを指します。

ページ細字 :図や文章に出てくるページを指します。

英字

- | | | | |
|---------------------------------|------------|---|-----|
| 100BASE-TX | 40 | Excel 97 | 121 |
| 100BASE-TX/10BASE-T 用コネクタ | 5 , 6 | F14T1 | 20 |
| 109 キーレイアウト | 12 | FAX モデムによる電源の自動操作 | 11 |
| 10BASE-T | 40 | FDD | 99 |
| 3.5 インチフロッピーディスクドライブ | 2 , 3 | HDD モータ制御 | 103 |
| 5 インチベイ | 2 , 4 , 69 | I/O ロック | 98 |
| ActiveMovie | 137 | IDE デバイス | 99 |
| AC 電源コネクタ | 5 | IE4.0 関連製品 | 129 |
| ATOK11 | 16 | Internet Explorer 3.02 | 136 |
| BIOS Setup Utility 画面 | 109 | Internet Explorer 4.0 | 125 |
| BIOS セットアップユーティリティ | 96 | Internet Mail and News | 137 |
| Caps Lock | 14 | Kensington | 6 |
| Caps Lock ランプ | 13 | LAN | 40 |
| CD-ROM | 34 | Magic Packet | 42 |
| CPU の取り付け | 77 | Masty Data Backup | 152 |
| CPU の取り外し | 75 | Microsoft NetMeeting | 134 |
| DMA チャンネルの割り当て | 178 | Microsoft Windows NT 4.0 日本語版
Service Pack 3 | 114 |
| DMI | 146 | MIF ブラウザ | 146 |
| DMITool | 44 | MPEG ファイル | 143 |
| DMTF | 146 | MS-IME97 | 15 |
| ECC 機能 | 42 | NEC Soft MPEG1.0 | 143 |
| ESMPRO/ServerAgent Ver3.1 | 172 | Num Lock | 14 |
| | | Num Lock ランプ | 13 |
| | | Outlook Express | 132 |
| | | Outlook 97 | 121 |

PC-9821-K14	80	SCSI 接続ケーブル	80
PC-CA513	80	Timer-NX	155
PC-CA514	80	Ultra SCSI (wide)対応コネクタ	5, 7
PC-CA591	82	Ultra SCSI インタフェース	79
PC-CA592	82	USB コネクタ	5
PC-MA-K04	80, 83	VirusScan for Windows NT	139
PC-MA-K05	80, 85, 93	Windows NT 4.0 アップデートサービス 「Service Pack 3」	167
PC-MA-K06	80, 88	Windows NT Server 4.0	162
PC-MA-K07	80, 90, 93	Windows NT 診断プログラム	50
pcANYWHERE32 EX	150	Windows キー	13, 15
PCI スロット	5, 7	Word 97	121
PCI ボードの増設	63	WWW Extension	146
PD/CD-ROM 識別ランプ	2, 4		
PD アクセスランプ	2, 4	あ行	
PD ドライブ	2, 3, 29	アース端子	5, 6
PD ドライブの取り付け	73	アイコン削除	113
PD ドライブの取り外し	71	アナログRGB コネクタ	5, 6
PD 用ヘッドホンボリューム	2, 4	アプリケーションキー	13, 14
PD 用ヘッドホン端子	2, 3	一太郎 Office8	116
PK-UG-C001	50	インサートキー	13
PK-UG-M005	60	ウィルス監視機能	140
PK-UG-M006	60	運用管理機能	42, 172
PK-UG-M007	60	液晶ディスプレイ	20
S.M.A.R.T	43	エスケープキー	13
Scroll Lock	14	エラーチェック	24
Scroll Lock ランプ	13	遠隔操作・保守機能	44
SCSI ID No.	82	エンターキー	13
SCSI インタフェース機器	81	エンドキー	14
SCSI インタフェース機器の接続	83	オーディオ出力端子	5, 6
SCSI インタフェース機器の増設	79		

オーディオ入力端子	5, 6
オルトキー	13

か行

カーソル移動キー	14
解像度	20
書き込み禁止(PD)	30
書き込み禁止 (フロッピーディスクドライブ)	28
拡張スロット	7
角度調整	12
カタカナひらがな / ローマ字キー	13
型番の読み方	174
カバーセンサ	5, 7, 43
キーボード	12, 101
起動順位	104
キャプスロック / 英数キー	13
構成管理	172
コントロールキー	13
コンピュータウイルス	139

さ行

サウンド機能	39
サスペンド	10
資源管理・状態管理通知機能	43
システムデバイス	101
システムビューア	43, 146
自動スリープ制御	103
自動電源OFF タイマーの設定	158
自動電源ON タイマーの設定	156

シフトキー	13
シャットダウン	9
終端 BOX	82
障害管理機能	42, 172
状態監視	146
状態監視通知	44
省電力	103
シリアルコネクタ	5, 6
シリアルポート	100
スーパーバイザーパスワード	105
スキップセクタ	24
スクロールキー	13
スタビライザ	2, 4
ストラップスイッチ	108
スペースキー	13
スリープ	104
スリープボタン	2, 4
スリープボタン制御	104
スリープランプ	2, 4
性能管理	172
セキュリティ	42, 98
セキュリティロック	5, 6
増設 RAM サブボード取り付け	61
増設 RAM サブボードの取り外し	60
増設 RAM サブボード	59
増設用 CPU	50
外付け SCSI インタフェース 機器の接続	93

た行

タイマー	11
タブキー	13
通信	100
通風口	5, 6
ディスクアドミニストレータ	30
ディスプレイ	20
ディスプレイセットモデル	20
デバイス	99
デリートキー	14
電源	8
電源スイッチ	2, 3
電源ランプ	2, 3
盗難防止	6
ドライブ番号	23
トレイ出し入れボタン	2, 4

な行

内蔵 3.5 インチベイ	65
内蔵 LAN 機能仕様	176
内蔵機器 (増設)	53
ナムロックキー	14
ネットワークの設定	40

は行

ハードディスクアクセスランプ	2, 3
ハードディスクドライブ	23
ハードディスクドライブの増設	65
バケット	42

パスワード	98, 105
パスワードの解除	108
バックアップ	152
バックスペースキー	13
パラレルコネクタ	5, 6
パラレルポート	101
パワーマネージメント	103
半角 / 全角 / 漢字キー	13
表示色	20
ファイルベイ	2, 4
ファイルベイオプションの増設	64
ファイルベйкаバー	2, 4
ファルベйкаバーの取り外し	57
ファンクションキー	13
フォーマット (P D)	30
フォーマット (フロッピーディスクドライブ)	27
不良セクタ	24
プリントスクリーンキー	13
フロッピーディスクアクセスランプ	2, 3
フロッピーディスクイジェクトボタン	2, 3
フロッピーディスクドライブ	26
フロントマスク	2, 4
ページアップキー	14
ページダウンキー	14
ヘルプ	45
変換キー	13
ポーズ / ブレークキー	13

ホームキー	14
ボリュームコントロール	39
本体機能仕様	175

ま行

マイクロサーバーセキュリティシステム	6
マイクロホン端子	5
マウス	18
無変換キー	13
メモリの増設	59

や行

ユーザーパスワード	106
-----------------	-----

ら行

ライトプロテクト(PD)	30
ライトプロテクト (フロッピーディスクドライブ)	28
ライトプロテクトノッチ (PD)	30 , 31
ライトプロテクトノッチ (フロッピーディスクドライブ).....	28
リムーバブルディスクドライブ	23
リモートパワー ON 機能	11 , 42
リモート電源制御	146
リンクケーブルの接続	40
レジューム	10 , 104

わ行

割り込みレベル一覧	177
-----------------	-----



活用ガイド

PC98-**NX** SERIES

Mate NX

MA30E/M

(Windows NT 4.0 インストール)

初版 1997年11月

NEC

P



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。

808-877675-018-A